

部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅87cm、燃焼部最大幅68cm、支脚－焚口間79cm、支脚－奥壁間12cm、煙道長38cm、煙道幅75cm、支脚高12cmを測る。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸103cm、短軸103cm、深度23cmを測る。

1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は暗褐色砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層は褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層、16層は褐色砂質土層、17層は暗褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層は黄褐色粘質土層、28層は褐色砂質土層、29層は褐色砂質土層、30層は褐色砂質土層、31層はにぶい黄褐色砂質土層、32層は褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色砂質土層、34層はにぶい黄褐色砂質土層、35層はにぶい黄褐色砂質土層、36層はにぶい黄褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色砂質土層、38層はにぶい黄褐色砂質土層、39層は黄褐色砂質土層、40層はにぶい黄褐色砂質土層、41層は褐色粘性砂質土層、42層は黄褐色砂質土層、43層は黄褐色砂質土層、44層はにぶい黄褐色砂質土層、45層は褐色粘性砂質土層、46層は褐色砂質土層、47層は褐色粘性砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層は褐色粘性砂質土層、50層は暗褐色砂質土層、51層は褐色粘性砂質土層、52層は褐色粘性砂質土層、53層は黄褐色粘質土層、54層は褐色砂質土層、55層は褐色粘性砂質土層、56層は褐色粘性砂質土層、57層は褐色粘性砂質土層、58層は褐色粘性砂質土層、59層はオリーブ褐色砂質土層、60層はオリーブ褐色砂質土層、61層は黄褐色砂質土層、62層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、63層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、64層は褐色粘性砂質土層、65層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、67層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、68層は褐色粘性砂質土層、69層は黄褐色砂質土層、70層は黄褐色砂質土層、71層は褐色粘性砂質土層、72層は褐色粘性砂質土層、73層はにぶい黄褐色砂質土層、74層は暗褐色砂質土層、75層はにぶい黄褐色砂質土層、76層は暗褐色砂質土層、77層は暗褐色砂質土層、78層は褐色粘性砂質土層、79層は褐色粘性砂質土層、80層は褐色砂質土層、81層はにぶい黄褐色砂質土層、82層は褐色粘性砂質土層、83層は褐色粘性砂質土層、84層は暗褐色砂質土層、85層はにぶい黄褐色砂質土層、86層は褐色粘性砂質土層、87層はオリーブ褐色砂質土層、88層はにぶい黄褐色砂質土層である。

#### 遺物出土状況

遺物は竈周辺部より出土した。住居北東隅において、須恵器1が上層より出土。竈西側の北壁沿いにおいて、土師器4が中層より出土。土師器4破片は竈内からも出土。竈内燃焼部において土師器3、6が固まって出土。土師器3は右袖付近より、土師器6は左袖煙道側よりの出土である。竈燃焼部内より多数の獣骨片が出土。鉄滓8～10が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

#### 出土遺物

須恵器1、2は杯身である。土師器3～7は甕である。甕3は長胴甕である。甕4、5は球形体部の小型甕である。甕6は小型長胴甕である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 122号竪穴式住居（SB7122）（第1103～1106図）

馬のシャクリ地区、M11、N12グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.3mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は7.35m、直交軸長は10.2m、深度は50cm、床面積74.97m<sup>2</sup>、内区面積32.7m<sup>2</sup>を測る。大型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色砂質土層、10層は褐色粘質土層である。

### 柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP1－2間は6.35m、EP2－3間は5.15mを測る。

### 竈

竈は構築されていない。炉も未検出である。

### 出土遺物

須恵器1～3は杯蓋である。須恵器4は杯身である。須恵器6、7は甕である。土師器8は甕である。土師器9は甗である。杯蓋3は成形時の粘土接合痕が観察される。甕8は小型甕である。甗9は把手である。鉄器2208－1は鑿である。断面長方形を呈するしっかりした造である。頭部には台形を呈するくり込みが伴う。頭部頂面はやや丸みを持ち、敲打による変形と考えられる。

### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 123号竪穴式住居（SB7123）（第1107～1114図）

馬のシャクリ地区、R9、S10グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は4.25m、深度は50cm、床面積12.5m<sup>2</sup>、内区面積6.59m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-16°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は明黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はオリブ褐色砂質土層、9層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

### 柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造である。EP1－2間は1.37m、EP2－3間は3.2mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は黄褐色砂質土層

である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-16°-Eを測る。支脚は須恵器高杯製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅98cm、燃焼部最大幅64cm、支脚-焚口間45cm、支脚-奥壁間12cm、支脚高8cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、9層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層は灰黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい赤褐色土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層はにぶい赤褐色土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は灰黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は灰黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層は褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層は黄灰色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層は灰黄褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘性砂質土層、36層は褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸169cm、深度12cmを測る。

## 遺物出土状況

居住区からは、自然礫と共に下層～中層にかけて出土した。住居南壁沿いにおいて、石器17、18が下層より出土。EP3北東側において、中層より石器20が出土。住居ほぼ中央やや北よりの地点において、須恵器5と石器19が中層より出土。竈西側において、土師器6、10、11が床面直上より出土。竈支脚は須恵器2である。口縁部を下に向けた倒立位で設置されている。竈燃焼部床面直上より土師器5、8が出土。竈内燃焼部より獣骨片が出土。

## 出土遺物

須恵器1は杯身、2～4は高杯、5は甕である。土師器6～12は甕である。土師器13は鉢である。土師器14は甑または把手付甕である。土師器15は甕である。土師器16は甑である。石器17、18は石錘である。石器19は台石である。石器20は敲石である。鉄器2209-1は棒状鉄器である。杯身1は口縁端部に打ち欠きが施されている。高杯2は低脚無蓋高杯である。高杯3、4は脚端部である。甕6、7は小型甕である。甕8、12は長胴甕である。鉢13は直線状に開く体部を持つ。甑16はつつぬけ底部である。石錘17、18は結晶片岩製で、敲打による挟りが伴う。台石19は結晶片岩製で、上面に敲打痕が観察される。敲石20は砂岩製で、頂部に敲打痕が観察される。棒状鉄器2209-1は断面長方形を呈する。鉄鏃の可能性もある。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 124号竪穴式住居 (SB7124) (第1115～1121図)

馬のシャクリ地区、P5、Q6グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.3mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は12.8m、深度は80cm、床面積17.95m<sup>2</sup>、内区面積7.1m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-8°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は18層に分層できる。1層は明黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は明黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色砂質土層、13層は黄褐色砂質土層、14層は黄褐色砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘質土層、17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層は黄褐色砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.95m、EP2-3間は3.1m、EP3-4間は1.48m、EP4-1間は2.45mを測る。EP1内覆土は褐色粘質土層、2層は褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-12°-Eを測る。支脚は結晶片岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅68cm、燃焼部最大幅65cm、支脚-焚口間60cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長19cm、煙道幅33cm、支脚高14cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸90cm、短軸88cm、深度3cmを測る。

4層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、19層はオリブ褐色砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はオリブ褐色砂質土層、22層はオリブ褐色砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は明赤褐色焼土粘性砂質土層、28層は極暗赤褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層である。

## 遺物出土状況

住居中央部やや南よりの地点で、須恵器3が下層より出土。竈内燃焼部において、土師器5が下層より出土。竈支脚は石器6である。

## 出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2は椀である。須恵器3は平瓶である。須恵器4は甕である。土師器5は甕である。石器5は台石である。平瓶3は肩部にカキ目が施されている。甕5は長胴甕である。石器5は結晶片岩製で、敲打痕や剥離痕が観察される。台石を転用して、支脚としている。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。



## 126号竪穴式住居（SB7126）（第1122～1127図）

馬のシャクリ地区地区、L5、L6、M5、M6グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.40mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸方位はN-8°-E、主軸長は22.5m、深度は80cm、床面積33.88㎡、内区面積9.68㎡を測る。大型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3、4、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層である。

### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.58m、EP2-3間は2.5m、EP3-4間は1.46m、EP4-1間は2.2mを測る。EP1内覆土は灰黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は2層に分層でき、1層は褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は2層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は2層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅100cm、燃焼部最大幅70cm、支脚-焚口間18cm、支脚-奥壁間14cm、煙道長40cm、煙道幅24cm、支脚高9.4cmを測る。燃焼部覆土は1～45層である。1、～7、12層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10、11層は褐色砂質土層、13、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は褐色砂質土層、24層は焼土層、16～20層は焼土粒を含む褐色粘性砂質土層、21～23層は黄褐色砂質土層、25、26、29、30層は褐色粘性砂質土層、27、28、31～38層は灰黄褐色粘性砂質土層、39～45層は暗灰黄色粘性砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸104cm、短軸63cm、深度19cmを測る。下部構造埋土は46～50層である。46、47層は焼土ブロックを含む褐色砂質土層、48層は褐色砂質土層、49層は褐色砂質土層、50層は灰色砂質土層である。

### 遺物出土状況

遺物は竈周辺を中心に出土した。土師器甕7は竈燃焼部（支脚～煙道間）を中心に検出された。竈右袖外側には土師器甕底部10が纏まった状態で検出された。土師器甕口縁部8は竈燃焼部と右袖外側を中心に検出された。住居覆土からは須恵器細片が出土した。

### 出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3、4は杯身、5は壺、6は甕である。土師器7～10は甕である。須恵器杯蓋2の内面には粘土紐痕状のシワが2条残る。土師器甕7～10は外面にはイタナデを施す。9、10は胎土や色調から同一個体の可能性がある。

### 時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

## 127号竪穴式住居 (SB7127) (第1128～1136図)

馬のシャクリ地区、N4、O5グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.3mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は6.95m、深度は50cm、床面積31.2m<sup>2</sup>、内区面積8.51m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-16°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は12層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は褐色砂質土層である。

### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.4m、EP2-3間は2.55m、EP3-4間は2.53m、EP4-1間は3.03mを測る。EP内覆土は褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は、住居南側に構築されている。平面形態は正方形を呈し、長軸85cm、深度17.5cmを測る。遺構内覆土は、オリーブ褐色砂質土層である。

### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-14°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅90cm、燃焼部最大幅63cm、支脚-焚口間43cm、支脚-奥壁間32cm、煙道長30cm、煙道幅28cm、支脚高17cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

南北方向遺構内覆土は、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色砂質土層、29層は褐色砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘性砂質土層、36層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、37層は灰褐色砂質土層、38層は灰褐色砂質土層、39層は褐色砂質土層、40層は褐色砂質土層、41層は褐色砂質土層、42層は灰色焼土層、43層は褐色砂質土層、44層は褐色砂質土層、45層は褐色砂質土層、46層は灰色焼土層、47層は褐色砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層は褐色粘性砂質土層、50層は焼土層、51層は褐色砂質土層、52層は褐色砂質土層、53層は褐色砂質土層、54層は褐色砂質土層、55層は焼土層である。

東西方向遺構内覆土は、19層は褐色粘性砂質土層、33層は褐色砂質土層、51層は黄褐色粘性砂質土層、52層は褐色砂質土層、53層は黄褐色粘性砂質土層、54層は褐色砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層は焼土層、57層は焼土層、58層は褐色粘性砂質土層、59層は暗灰黄色粘性砂質土層、60層は黄褐色粘性砂質土層、61層は褐色粘性砂質土層、62層は焼土層、63層は褐色粘性砂質土層、64層は暗灰黄色粘性砂質土層、65層は褐色粘性砂質土層、66層は褐色粘性砂質土層、67層はオリーブ褐色砂質土層

である。

### 遺物出土状況

竈前庭部において須恵器20、土師器27、28が床面直上より出土。竈東側において、須恵器1が下層より出土。竈内からは砂岩製支脚と土師器甕片が出土したのみである。土師器甕は図化できない。総じて遺物出土量は少なく、カタヅケ行為が行われたと推定される。

### 出土遺物

須恵器1～9は杯蓋、10～17は杯身、18は台付椀、19、20は短頸壺、21は提瓶、22は壺、23～26は甕である。土師器27、28は甕、29、30は杯、31は台付壺、32、33は甗である。土製品34は不明土製品である。石器35、36は敲石である。杯蓋4、8は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身12は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身16、17は杯蓋の可能性がある。短頸壺20は成形時の粘土接合痕が観察される。甕27は長胴甕である。甕28は小型甕である。台付壺31は脚台部で。短い端部が特徴である。甗32、33はつつぬけ底部と推定される。不明土製品34は直径1cm弱の孔が焼成前に穿孔されている。表面はユビオサエとユビナデ調整が施されている。敲石35は結晶片岩製で下端部と表面に敲打痕が観察される。敲石36が結晶片岩製で、各面に敲打痕が観察される。

### 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

### 128号竪穴式住居 (SB7128) (第1137～1143図)

馬のシャクリ地区、L8、M9グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.3mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は22.1m、深度は110cm、床面積32.23m<sup>2</sup>、内区面積11.88m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-9°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は19層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は黄褐色砂質土層、12層は黄褐色砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は3.13m、EP2-3間は2.85m、EP3-4間は2.85m、EP4-1間は3.38mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土はオリーブ褐色

粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅81cm、燃焼部最大幅73cm、煙道長49cm、煙道幅17cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸130cm、短軸77cm、深度4cmを測る。

19層はオリーブ褐色砂質土層、20層はオリーブ褐色砂質土層、21層はオリーブ褐色砂質土層、22層はオリーブ褐色砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘質土層、27層はオリーブ褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層はにぶい黄褐色砂質土層、30層はオリーブ褐色粘性砂質土層、31層はオリーブ褐色砂質土層、32層は赤褐色粘質土層、33層は赤褐色粘質土層、34層はオリーブ褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色砂質土層、36層はオリーブ褐色粘性砂質土層、37層は赤褐色粘質土層、38層は赤褐色粘質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層は赤褐色粘質土層、41層は赤褐色粘質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層は褐色砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘質土層、49層はにぶい黄褐色粘質土層、50層は黄褐色砂質土層、51層は赤褐色粘質土層、52層は褐色粘質土層、53層は赤褐色粘質土層、54層は赤褐色粘質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層は赤褐色粘質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、61層は赤褐色粘質土層、62層は赤褐色粘質土層、64層は赤褐色粘質土層、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、67層はオリーブ褐色粘性砂質土層、68層はにぶい黄褐色粘質土層、69層はにぶい黄褐色粘質土層である。

## 遺物出土状況

住居中央部より焼土層が検出された。遺物はほとんど出土していない。カタヅケ行為が行われたと推定される。竈燃焼部床面直上より土師器5が出土。

## 出土遺物

須恵器1～3は杯蓋、4は杯身、5は甕である。土師器5は甗である。石器6は剥片である。甗6はつつぬけ底部で、把手が伴う。剥片6はサヌカイトである。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

## 129号竪穴式住居 (SB7129) (第1144～1150図)

馬のシャクリ地区、C17、D18グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

馬のシャクリ地区とカワラケメン地区の間の道路下に位置し、当初は東側約1/4のみの調査であった。しかし、その遺物出土状況から焼失住居で、遺存状態が良好であると推定された。調査当時、徳島では古墳時代後期に属する集落遺構は非常に少なく、資料化の必要性が高かった。そこで、本体工事着手時に、規模確認と遺物回収を行った。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は6.73m、深度は63cm、床面積45.38m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-2°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は11層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は灰黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は灰黄褐色砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は1基検出された。本来は4本柱構造である。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-2°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅85cm、燃焼部最大幅70cm、煙道長80cm、煙道幅40cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

## 遺物出土状況

炭化材が出土しており、焼失住居である。遺物は床面と炭化材の間から出土した。竈燃焼部より須恵器1が出土。竈内からはほかに遺物は出土していない。住居南東隅において、土師器32が床面直上より出土。隣接して須恵器3、7、11、14が床面からやや浮いた状態で出土。住居東壁中央付近において、須恵器9、8、10、13、15、16が集中して出土。鉄滓36が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

## 出土遺物

須恵器1～5は杯蓋である。須恵器6～24は杯身である。須恵器25はハソウである。須恵器26～29は甕、30は横瓶である。土師器31は甕、32、33は甑である。石器34、35は敲石である。杯蓋3、4、杯身7、15、23は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身6～11は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身24は杯蓋の可能性もある。かめ27の頸部にはヘラ記号が施されている。甕31は長胴甕である。甑32はつつぬけ底部である。敲石34は砂岩製で、下面には敲打痕と擦痕が観察される。敲石35は砂岩製で、下面に敲打痕が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 130号竪穴式住居 (SB7130) (第1151～1155図)

馬のシャクリ地区、F18、G19グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.3mを測る。東群集落に属する。竈のみの検出となった。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は1.15m、深度は35cm、残存床面積3.21m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-104°-Eを測る。

## 竈

竈は東辺中央部において検出された。主軸方位はN-104°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。

袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅50cm、燃焼部最大幅25cm、支脚－焚口間30cm、支脚－奥壁間15cm、煙道長91cm、煙道幅22cm、支脚高5cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸123cm、短軸95cm、深度10cmを測る。

1層はオリーブ褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は暗褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黄褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色砂質土層、17層は褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層は褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

#### 遺物出土状況

竈右袖南側において、須恵器3が床面からやや浮いた状態で出土。竈燃焼部において、土師器8が中・上層より出土。鞆羽口10が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

#### 出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3、4は杯身、5は高杯、6、7は甕である。土師器8、9は甕である。土製品10は鞆羽口である。須恵器3は口縁端部に打ち欠きが施されている。また成形時の粘土接合痕が観察される。高杯5は2方向の方形透かしが施されている。甕8、9は同一個体と推定され、長胴甕である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階。

#### 131号竪穴式住居（SB7131）（第1156～1170図）

馬のシャクリ地区、C19、D20グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.5m、深度は50cm、床面積32.83m<sup>2</sup>、内区面積9.38m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-7°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は18層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、2層は黄褐色砂質土層図、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、5層はにぶい黄褐色粘質土層図、6層は褐色粘性砂質土層図、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、8層はにぶい黄褐色粘質土層図、9層は黄褐色粘質土層図、10層は褐色粘性砂質土層図、11層は褐色粘質土層図、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、13層は暗褐色粘性砂質土層図、14層はオリーブ褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.25m、EP2-3間は3.1m、EP3-4間は2.1m、EP4-1間は3mを測る。

周壁溝は幅10cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-3°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅76cm、燃烧部最大幅52cm、支脚-焚口間30cm、支脚-奥壁間56cm、煙道長17cm、煙道幅33cm、支脚高17cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸132cm、短軸110cm、深度16cmを測る。

19層は灰黄褐色砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層は褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層は暗褐色砂質土層、26層は褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層はにぶい黄褐色砂質土層、30層は暗褐色砂質土層、31層は暗褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色砂質土層、33層は黄褐色砂質土層、34層はにぶい黄褐色砂質土層、35層はにぶい黄褐色砂質土層、36層は暗赤褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色砂質土層、38層はにぶい黄褐色砂質土層、39層は暗赤褐色砂質土層、40層はにぶい黄褐色砂質土層、41層はにぶい黄橙色砂質土層、42層は灰黄褐色砂質土層、43層は褐色砂質土層、44層は褐色砂質土層、45層は褐色砂質土層、46層はにぶい黄褐色砂質土層、47層は灰黄褐色砂質土層、48層は褐色砂質土層、49層は褐色砂質土層、50層はにぶい黄褐色砂質土層、51層はにぶい黄褐色砂質土層、52層は褐色砂質土層、53層はにぶい赤褐色砂質土層、54層はにぶい赤褐色砂質土層、55層は褐色砂質土層、56層は赤褐色砂質土層、57層はにぶい赤褐色砂質土層、58層はにぶい赤褐色砂質土層である。

## 遺物出土状況

床面直上から中層にかけて炭化材が出土しており、焼失住居である。遺物は床面から炭化材の間から出土しており、被災前の状況を残す。被災後のカタヅケ行為は行われていないと考えられる。

竈支脚は土師器42である。甕42は口縁部を上に向けて、正位置で設置されている。竈燃烧部には土師器38、39が支脚周辺より出土した。支脚周辺の燃烧部床面には、土師器40破片が花弁状に置かれていた。竈右袖東側に隣接して、土師器43が据え置かれている。据え置くにあたって土坑を掘削しており、竈構築と同時に甕43を据え置いたことが確認された。土師器43東側より、須恵器1、2、7、8、19が床面直上より出土した。杯蓋8と杯身19はセットになる可能性が高い。竈西側からは、須恵器14と土師器45が床面直上から出土。住居北西隅では、須恵器6、11、12、17、18、28、24、27が床面からやや浮いた状態で出土。内区南側では、須恵器5、13、21、33、34や土師器44が床面直上より出土している。

## 出土遺物

須恵器1～15は杯蓋、16～30は杯身、31は壺、32、33は提瓶、34は甕、35は横瓶、36、37は甕である。土師器38～46は甕である。土師器47、48、49は甗である。石器50、51、53は砥石である。石器52は敲石である。杯蓋2、6、11、12、14は成形時の粘土接合痕が観察される。杯蓋5はヘラ記号が施されている。杯身16はヘラ記号が施されている。杯身18、19、24、25、26、27、28は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身19、22、24は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身24は内面に粘土貼り付けによる補修痕が観察される。杯身29は皿状態部が特徴の、異形杯である。杯身28は外面に赤色顔料が塗布されている。甕38～41は大型長胴甕である。甕42は球形体部の小型甕である。甕43、44はその使用状況から「壺」とするべきであろう。また、その形態は須恵器甕に類似する。甕45は底部の厚味が1.8cmを測り、煮沸には向かない。甗47はつつぬけ底部である。砥石50は結晶片岩製で、左右両側縁に鉄器刃部による擦痕

が観察される。また敲打痕も観察されることから、敲石からの転用である。砥石51は結晶片岩製で、左右両側縁に鉄器刃部による擦痕が観察される。また敲打痕や剥離痕も観察されることから、敲石からの転用である。敲石52は砂岩製である。砥石53は結晶片岩製で、下部に鉄器刃部による擦痕が観察される。敲打痕が観察されることから台石からの転用品である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 133号竪穴式住居 (SB7133) (第1171～1176図)

馬のシャクリ地区、D2、E3グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は25cm、床面積16.80m<sup>2</sup>、内区面積6.73m<sup>2</sup>を測る。中型の竪穴式住居である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は2.95mを測る。

#### 遺物出土状況

床面直上より炭化材や焼土が検出された。焼失住居である。住居何せ夷隅に置いて、須恵器1、2が床面直上より重なった状態で出土。住居南壁沿いで、石器3、4が床面よりやや浮いた状態で出土。

#### 出土遺物

須恵器1は杯蓋、2は杯身である。石器1は敲石、2は台石である。杯蓋1は内面に当て具痕跡を残す。杯身2は口縁端部に打ち欠きが施されている。また、内面に当て具痕跡を残す。出土状況から須恵器1、2はセット関係である。敲石3は結晶片岩製で、敲打痕や剥離痕が観察される。台石4は結晶片岩製で、表裏面に敲打痕が観察される。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 134号竪穴式住居 (SB7134) (第1177～1185図)

馬のシャクリ地区、C5、D6グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.1m、深度は28cm、床面積16.01m<sup>2</sup>、内区面積6.15m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-12°-Wを測る。小中型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層は黄褐色砂質土層で炭化物・焼土を含み、2、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は灰オリーブ色砂質土層、7層はにぶい赤褐色砂質土層、9層は灰オリーブ色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.65m、EP2-3間は2.03m、EP3-4



間は1.93m、EP4-1間は2.38mを測る。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅86cm、燃焼部最大幅41cm、支脚-焚口間39cm、支脚-奥壁間30cm、煙道長46cm、煙道幅34cm、支脚高15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整形を呈する土坑が掘削されている。長軸114cm、短軸90cm、深度23cmを測る。

11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は暗褐色、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は暗褐色粘性砂質土層、20層は赤褐色焼土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層は暗褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層は灰黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

## 遺物出土状況

遺物は竈内と、住居南西隅を中心に出土。南西隅の遺物群は中層からの出土である。竈支脚は土師器8である。口縁部を下に向けて、倒立位で設置されている。竈燃焼部からは、土師器6、7が中層中より出土した。竈袖構築材の中から、須恵器5が出土した。竈構築時に埋納されたものであり、竈構築に伴う祭祀行為である。住居南西隅からは須恵器3、4と石器11が床面から浮いた状態で出土した。

## 出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3、4は杯身、5は甕である。土師器6、7は甕、8は直口壺、9は甑である。石器10は敲石、11は台石である。杯身4は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕6、7は長胴甕である。直口壺8は被熱により表面が剥落している。敲石10は結晶片岩製である。台石11は結晶片岩製である。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 135号竪穴式住居 (SB7135) (第1186~1194図)

馬のシャクリ地区、T14、A15グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は35cm、床面積15.35m<sup>2</sup>、内区面積3.33m<sup>2</sup>を測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は11層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来4本柱構造である。EP1-2間は2.65mを測る。EP1内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅90cm、燃烧部最大幅75cm、支脚-焚口間0cm、支脚-奥壁間41cm、煙道長55cm、煙道幅26cm、支脚高32cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸141cm、短軸123cm、深度22cmを測る。下部構造埋土中より焼土層と炭化物層が検出されている。除湿機能と推定される。

3層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は黄褐色粘性砂質土層、31層はオリーブ褐色粘性砂質土層、32層は褐色焼土層、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層はオリーブ褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色粘性砂質土層、36層はオリーブ褐色粘性砂質土層、37層は黄褐色粘性砂質土層、38層は黄褐色粘性砂質土層、39層は黄褐色粘性砂質土層、40層は黄褐色粘性砂質土層、41層は黄褐色粘性砂質土層、42層は黄褐色粘性砂質土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層は黄褐色粘性砂質土層、45層は褐色粘性砂質土層、46層は黄褐色粘性砂質土層、47層は暗灰黄色粘性砂質土層、48層は黄褐色粘性砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、50層は黄褐色粘性砂質土層、51層は褐色粘性砂質土層、52層はオリーブ褐色粘性砂質土層、53層は黄褐色粘性砂質土層、54層は黄褐色粘性砂質土層、55層は黄褐色粘性砂質土層、56層は黄褐色粘性砂質土層、57層は黄褐色粘性砂質土層、58層は黄褐色粘性砂質土層である。

## 遺物出土状況

住居覆土中層から上層にかけて炭化材や焼土層が検出された。焼失住居である。ただし、遺物の遺存状況は悪く、廃絶に伴うカタツケ行為が行われたと推定される。EP1付近において須恵器1が出土。竈内支脚周辺から土師器5が出土。土師器5の破片はEP1周辺や竈右袖東側からも出土している。

## 出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3は杯身、4は壺である。土師器5、6は甕である。石器7は磨石である。杯蓋1は焼成時の歪みが激しい。甕5は球形体部の小型甕であるが、やや長胴化の傾向がある。甕6は球形体部に、くびれのない頸部が特徴の小型甕である。磨石7は緑色岩製である。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

## 137号竪穴式住居（SB7137）（第1195～1203図）

馬のシャクリ地区、D18、E19グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.95m、床面積20.73m<sup>2</sup>、内区面積6.31m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-5°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は暗灰黄色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.9m、EP2-3間は2.05m、EP3-4間は1.9m、EP4-1間は2.15mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色砂質土層である。

周壁溝は幅20cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。燃焼部最大幅52cm、煙道長110cm、支脚高23cmを測る。試掘トレンチにより削平を受けている。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸178cm、短軸101cm、深度22cmを測る。

14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は明褐色粘性砂質土層、19層は明褐色粘性砂質土層、20層は黒褐色灰層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層は黒褐色灰層、24層は明褐色粘性砂質土層、25層は黒褐色灰層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は黒褐色灰層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層は明褐色粘性砂質土層、33層は黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層

質土層、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層は黄褐色粘性砂質土層、38層は黄褐色粘性砂質土層、39層はオリーブ褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層は黄褐色粘性砂質土層、42層は黄褐色粘性砂質土層、43層はオリーブ褐色粘性砂質土層、44層は黄褐色粘性砂質土層、45層は黄褐色粘性砂質土層、46層は黄褐色粘性砂質土層、47層は黄褐色粘性砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層は黄褐色粘性砂質土層、50層は黄褐色粘性砂質土層、51層は黄褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色粘性砂質土層、53層は明褐色粘性砂質土層、54層は明褐色粘性砂質土層、55層は黄褐色粘性砂質土層、56層は黄褐色粘性砂質土層、57層は黄褐色粘性砂質土層、58層は黄褐色粘性砂質土層、59層は黄褐色粘性砂質土層、60層は黄褐色粘性砂質土層、61層は褐色粘性砂質土層、62層は暗灰黄色粘性砂質土層、63層は暗赤褐色砂質土層、64層は暗灰黄色粘性砂質土層、65層は暗褐色粘性砂質土層、66層は暗褐色粘性砂質土層、67層は暗褐色粘性砂質土層、68層は暗赤褐色砂質土層、69層は暗赤褐色砂質土層、70層暗赤褐色砂質土層、71層は暗褐色粘性砂質土層、72層は暗赤褐色砂質土層、73層は暗赤褐色砂質土層、74層は暗灰黄色粘性砂質土層、75層は明褐色砂質土層、76層は暗褐色粘性砂質土層、77層は暗赤褐色砂質土層、78層は明褐色砂質土層、79層は暗赤褐色砂質土層、80層は暗赤褐色砂質土層、81層は暗褐色粘性砂質土層、82層は暗赤褐色砂質土層、83層は暗赤褐色砂質土層、84層は褐色粘性砂質土層、85層は暗褐色粘性砂質土層、86層は暗赤褐色砂質土層、87層は暗灰黄色粘性砂質土層、88層は暗赤褐色砂質土層、89層は暗赤褐色砂質土層、90層は褐色粘性砂質土層、91層は暗灰黄色粘性砂質土層、92層は褐色粘性砂質土層、93層は暗灰黄色粘性砂質土層、94層は褐色粘性砂質土層である。

#### 遺物出土状況

床面直上より焼土層が検出された。焼失住居である。遺物は小片のみの出土であり、被火前後にカタゾケ行為が行われたと推定される。竈支脚は石器20である。周辺からは土師器17、19が出土。

#### 出土遺物

須恵器1～7は杯蓋、8～10は杯身、11～13は高杯、14は甗、15、16は甕である。土師器17、18、19は甕である。石器20は敲石である。杯蓋3、4、高杯12は成形時の粘土接合痕が観察される。高杯11、12、13は、いずれも短脚である。甗14は胴部に刺突文が施されている。甕17、18は小型長胴甕である。甕19は大型長胴甕である。敲石20は砂岩製で、下部に敲打痕が観察される。敲石を転用して支脚としており、被熱による赤変が観察される。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 139号竪穴式住居（SB7139）（第1204～1209図）

馬のシャクリ地区、A11、B12グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.2mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は38cm、床面積5.04㎡、内区面積6.76㎡を測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は26層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は

黄褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層は灰黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層は灰黄褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は灰黄褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色砂質土層、26層は黄褐色砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は2.05mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は暗褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄褐色粘性砂質土層である。

#### 遺物出土状況

住居覆土中層より炭化材と焼土層が検出された。焼失住居である。遺物は焼土等とほぼ同じレベルで検出された。住居南壁沿いのEK1内覆土上層において、須恵器2、製塩土器3、石器6が出土。

#### 出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2は杯身である。口縁端部に打ち欠きが施されている。製塩土器3は大柿Ⅱ類である。石器4は敲石で、結晶片岩製である。敲打痕と鉄器刃部による擦痕が観察される。石器5、6は敲石で、結晶片岩製である。敲打痕が観察される。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅲ段階である。

#### 140号竪穴式住居 (SB7140) (第1210~1214図)

馬のシャクリ地区、B4、C5グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.75m、深度は15cm、床面積15.75㎡、内区面積3.18㎡、住居主軸方位はN-165°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は8層に分層できる。1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.63m、EP2-3間は1.25m、EP3-4間は1.3m、EP4-1間は1.5mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂

質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は南辺中央部において検出された。主軸方位はN-170°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。燃烧部および煙道部が検出された。燃烧部最大幅45cm、煙道長27cm、煙道幅15cm、支脚高12cmを測る。試掘トレンチにより上部構造は削平されている。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸100cm、短軸78cm、深度33cmを測る。

1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は明褐色粘性砂質土層、3層は明褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は明褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層は明褐色粘性砂質土層、10層は明褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

## 遺物出土状況

竈内より土師器甕が支脚として転用された状態で出土した。甕2である。口縁部を下に向けた倒立位で設置されている。

## 出土遺物

須恵器1は甕である。土師器2は甕である。甕2は球形体部の小型甕であるが、やや長胴化の受け移行が認められる。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

## 141号竪穴式住居（SB7141）（第1215～1223図）

松吉地区、K19、L20グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.18m、深度は18cm、床面積27.77m<sup>2</sup>、内区面積6.59m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-6°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は16層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黒褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黒粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層は黒褐色粘質土層、11層は褐色砂質土層、12層は暗褐色砂質土層、13層は黒褐色粘性砂質土層、14層は暗褐色砂質土層、15層は暗褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造である。EP1-2間は2.33m、EP2-3間は2.73mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質

土層、7層は褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-21°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。調査区側溝掘削により上部構造を削平された。

1層は灰黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘質土層、18層は灰黄褐色粘質土層、19層は明褐灰色粘質土層、20層は暗赤褐色粘質土層、21層は明赤褐色粘質土層、22層は赤褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘質土層、24層は黄褐色粘質土層、25層は暗褐色粘質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はにぶい黄橙色粘質土層、28層は黒褐色粘質土層、29層は黄褐色粘質土層、30層は明黄褐色粘質土層、31層は黄褐色粘質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色砂質土層、34層はにぶい黄褐色砂質土層である。

## 遺物出土状況

遺物は竈周辺を中心に出土している。住居南壁沿いに置いて、土師器9、石器13、16が中層より出土。住居北西隅において、石器14、15が床面直上より出土。竈西側において、床面直上より須恵器7が出土。須恵器7の破片は住居北東隅や南壁付近からも出土している。竈燃焼部床面直上より土師器8が出土。

## 出土遺物

須恵器1～4は杯身、5は壺、6は甕、7は横瓶である。土師器8～11は甕である。石器12～16は敲石である。杯身1、3、4は成形時の粘土接合痕が観察される。壺5は小型壺の口縁である。甕8、9は球形体部に直立する口辺部を有する小型甕である。甕10は中型長胴甕である。甕11は小型長胴甕である。敲石12は結晶片岩製である。敲石13は砂岩製である。敲石14は砂岩製である。敲石15は結晶片岩製である。右側縁に鉄器刃部による擦痕が観察される。敲石16は結晶片岩製である。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 142号竪穴式住居 (SB7142) (第1224～1233図)

松吉地区、H12、I12グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.96m、深度は30cm、床面積13.19m<sup>2</sup>、内区面積2.27m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-101°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。鍛冶工房の可能性もある。

## 土層

遺構内覆土は47層に分層できる。1層は暗褐色粘性砂質土層、2層は暗褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は赤褐色粘質土層、9層は褐灰色粘性砂質土層、10層は灰黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘性砂質土層、13層は灰黄褐色粘性砂質土層、14層は褐灰色粘質土層、15層は褐灰色粘性砂質土層、16層は黒褐色粘質土層、17層は灰黄褐色粘質土層、18層は褐灰色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層

層、21層は灰黄褐色粘性砂質土層、22層は褐灰色粘質土層、23層は黒褐色粘質土層、24層は褐灰色粘質土層、25層は灰黄褐色粘質土層、39層は灰黄褐色粘性砂質土層、40層は灰黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄澄砂質土層、42層は暗褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄澄砂質土層、44層は褐色粘質土層、45層は褐色粘性砂質土層、46層は褐色粘性砂質土層、47層は褐色砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.4m、EP2-3間は0.85m、EP3-4間は1.3m、EP4-1間は1mを測る。EP1内覆土は、1層は灰黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

鍛冶炉EH2は、「L」字形を呈する。遺構内覆土は、1層は褐灰色粘質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は暗褐色粘性砂質土層、5層は黒褐色粘性砂質土層、6層は暗褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層である。遺構内覆土は、1層は灰黄褐色粘質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は褐灰色粘性砂質土層、4層は褐灰色粘性砂質土層、5層は褐灰色粘質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は褐灰色粘質土層、8層は褐灰色粘質土層、9層は褐灰色粘質土層、10層は褐灰色砂質土層、11層は褐灰色粘質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層は黄褐色砂質土層、14層は灰黄褐色粘質土層、15層は褐色粘質土層、16層は灰黄褐色粘質土層、17層は褐色粘質土層、18層は灰黄褐色粘質土層である。

#### 竈

竈は東辺中央部において検出された。主軸方位はN-98°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅60cm、燃烧部最大幅31cm、支脚-焚口間23cm、支脚-奥壁間27cm、煙道長69cm、煙道幅50cm、支脚高7.5cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸136cm、短軸58cm、深度8cmを測る。1層は暗褐色粘性砂質土層、2層は暗褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は赤褐色粘質土層、9層は褐灰色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層は灰黄褐色粘性砂質土層、26層は明黄褐色粘土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層は黒褐色粘性砂質土層、29層は灰黄褐色粘性砂質土層、30層は褐灰色砂質土層、31層はにぶい黄褐色砂質土層、32層は灰黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄澄色砂質土層、34層は明黄褐色砂質土層、35層は褐色粘質土層、36層は赤褐色粘性砂質土層、37層は灰黄褐色粘性砂質土層、38層は褐色粘質土層、39層は灰黄褐色粘性砂質土層、40層は明黄褐色粘土層である。

#### 遺物出土状況

遺物は竈内と、居住区全体から出土した。ただし、居住区内の遺物は主に中層中に分布しており、埋没過程に伴う遺物が多数含まれている。竈内燃烧部においては、須恵器10、21、32、33と土師器50が床面直上～下層にかけて出土。土師器50は竈北側からも出土している。



## 出土遺物

須恵器1～18は杯蓋、19～28は杯身、29、30は短頸壺、31は蓋、32は瓶類、33、34は壺、35～38は甕である。土師器39～52は甕、53は杯、54は甑である。石器55、57は砥石、56は管玉である。杯蓋1、3、4、11、13、18は成形時の粘土接合痕が観察される。杯蓋4は内面に当て具痕跡が残る。杯身23、25は成形時の粘土接合痕が観察される。短頸壺29、30は成形時の粘土接合痕が観察される。甕39～43は長胴甕である。甕44～50は小型甕である。甕51、52は平底底部の長胴甕である。甑54はつつぬけ底部である。杯53は内面に赤色顔料が塗布されている。砥石55は結晶片岩製で、右側縁に擦痕が観察される。裏面や外縁部には剥離痕が観察されていることから転用品の可能性はある。砥石57は凝灰岩製である。欠損後も使用しており、特に上面は鉄器刃部による深い擦痕が観察される。管玉57はグリーンタフ製である。下部を欠損後に再度研磨している。鉄滓58、59は発泡が進む。鉄滓60はメタルが遺存する。鉄器2215-1は曲刃鎌である。身部の造は厚い。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 143号竪穴式住居 (SB7143) (第1235～1244図)

松吉地区、H20、I1グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.2mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.83m、深度は40cm、床面積17.21m<sup>2</sup>、内区面積4.78m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-4°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は32層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層はオリーブ褐色砂質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層はオリーブ褐色砂質土層、29層はオリーブ褐色砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.4m、EP2-3間は2.15m、EP3-4間は1.15m、EP4-1間は2.15mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP3内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂

質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-3°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅70cm、燃焼部最大幅47cm、支脚-焚口間19cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長52cm、煙道幅32cm、支脚高19cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整形を呈する土坑が掘削されている。長軸101cm、短軸48cm、深度24cmを測る。

1層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層は灰黄褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘質土層、29層は灰黄褐色粘質土層、30層は灰白色粘質土層、31層は黒褐色粘質土層、32層はにぶい橙色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は黒色粘性砂質土層、35層はにぶい橙色粘性砂質土層、36層は暗褐色粘質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘質土層、40層は褐色粘性砂質土層、41層は褐色砂質土層、42層は褐色粘質土層、43層は暗褐色粘性砂質土層、44層は黒褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘質土層、46層は灰黄褐色粘性砂質土層、47層は褐色灰色砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層は褐色灰色粘質土層、50層は灰黄褐色粘性砂質土層、51層は褐色砂質土層、52層は粘性砂質土層、53層は暗褐色粘性砂質土層、54層は褐色灰色砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層は褐色粘性砂質土層、57層は黄褐色粘質土層、58層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、59層は灰黄褐色砂質土層、60層は褐色砂質土層、61層は褐色砂質土層である。

## 遺物出土状況

遺物は竈周辺を中心に出土した。住居南東隅において、石器28が床面直上より出土。住居西壁沿いにおいて、鉄器2216-2と須恵器4が床面直上より出土。竈東側から住居北東隅の地点において、須恵器1、2、13と土師器23、26が床面直上より出土した。竈西側からは土師器14、15、16、20、21が、一箇所に集中して床面直上より出土。竈支脚は土師器22である。口縁部を下に向けて、倒立位で設置されている。竈燃焼部からは土師器20、21が出土。竈焚き口部においては、須恵器8、11が出土。竈内より獣骨片が出土。

## 出土遺物

須恵器1~7は杯蓋、8~12は杯身、13は甕である。土師器14~21は甕、22は甕形支脚、23は甕、24~26は甗である。石器28は砥石である。鉄器2216-1は馬具、2216-2は曲刃鎌である。杯蓋5、杯身8は成形時の粘土接合痕が観察される。甕13は底部に敲打による穿孔が施されている。甕14は長胴甕である。甕15~19は球形体部の小型甕である。甕形支脚22は、底部厚みが3cmを測り、内面の調整も粗く、煮沸には向いていない。当初より支脚として使用することを目的に製作されたと推定される。甕23は長胴甕で、胴中央部に内面からの敲打による穿孔が施されている。甗25~27はつつぬけ底部である。砥石28は砂岩製で、上面と左右両側面に擦痕が観察される。馬具2216-1は菱形飾金具である。鉾位置がずれており、「不揃い馬具」の一種である。曲刃鎌2216-2は大型で、左基部に折り返しが施されている。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

#### 144号竪穴式住居 (SB7144) (第1246～1250図)

松吉地区、F1グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

##### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は2.9m、床面積9.28m<sup>2</sup>、内区面積2.91m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-3°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

##### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.28m、EP2-3間は2m、EP3-4間は1m、EP4-1間は1.7mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。

##### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-16°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅58cm、燃烧部最大幅31cm、煙道長36cm、煙道幅50cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸68cm、短軸50cm、深度6cmを測る。

1層は灰黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は明黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は暗褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層である。

##### 遺物出土状況

居住区、竈内共に遺物はほとんど出土していない。廃絶に伴うカタヅケ行為が行われたものと推定される。竈右袖上面より土師器2が出土。

##### 出土遺物

須恵器1は杯身である。土師器2は甕である。甕2は球形体部に直立する口辺部が伴う小型甕である。

##### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 145号竪穴式住居 (SB7145) (第1251～1258図)

松吉地区、F17、G18グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.2mを測る。東群集落に属する。

##### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.5m、深度は37cm、床面積20.12m<sup>2</sup>、内区面積5.33m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-11°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

##### 土層

遺構内覆土は6層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐

色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.7m、EP2-3間は1.95m、EP3-4間は1.7m、EP4-1間は1.73mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-11°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅53cm、燃焼部最大幅38cm、支脚-焚口間90cm、支脚-奥壁間35cm、煙道長63cm、煙道幅15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

1層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は明黄褐色粘質土層、10層は灰黄褐色粘質土層、11層は褐色粘質土層、12層は暗赤褐色粘質土層、13層は暗赤灰色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層は明赤褐色粘質土層、18層は褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘質土層、20層は暗赤灰色粘性砂質土層である。

#### 遺物出土状況

住居隅より焼土が検出された。焼失住居の可能性がある。住居南壁付近に置いて、須恵器1が中層中より出土。EP4南東付近において、須恵器3、5、6、10、12が床面直上より出土。竈支脚は石器20である。竈燃焼部床面直上より土師器18が出土。竈焚き口部床面直上より須恵器17が出土。

#### 出土遺物

須恵器1～8は杯蓋、9は杯身、10は瓶類である。須恵器11は甕もしくは長頸壺、12は台付長頸壺、13～16は甕、17は横瓶である。土師器18、19は甕である。石器20は不明石器、21、22は敲石である。鉄器2217-1は刀子である。杯蓋1、4は成形時の粘土接合痕が観察される。甕11は刺突文が施されている。甕18は長胴甕である。甕19は小型甕である。不明石器20は砂岩製で、敲打による剥離痕が観察される。支脚に転用されており、被熱による赤変も観察される。敲石21は結晶片岩製で、上下両端部に敲打による剥離痕が観察される。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 147号竪穴式住居 (SB7147) (第1259～1267図)

松吉地区、J14、K15グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.88m、深度は13cm、床面積27.8m<sup>2</sup>、内区面積9.51m<sup>2</sup>、住居主軸

方位はN-0°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は8層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.3m、EP2-3間は2.6m、EP3-4間は2.3m、EP4-1間は2.5mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい赤褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄色砂質土層、9層はにぶい黄色砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層は黄褐色砂質土層、12層はオリーブ褐色砂質土層である。

土坑EK1は、EP3東側に構築されている。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-3°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅64cm、燃烧部最大幅41cm、支脚-焚口間34cm、支脚-奥壁間13cm、煙道長30cm、煙道幅29cm、支脚高3cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸137cm、短軸130cm、深度15cmを測る。

1層は褐色粘質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は明褐色粘質土層、12層は暗赤褐色粘質土層、13層は灰黄褐色砂質土層、14層は暗赤褐色粘質土層、15層は褐色粘質土層、16層は黄褐色粘質土層、17層は褐色砂質土層である。

#### 遺物出土状況

住居壁面沿いより焼土層が検出されている。焼失住居である。ただし、遺物出土量は少なく、被火前後にカタヅケ行為が行われたと推定される。住居南壁際において、須恵器2、4、5と土師器6、7が床面直上より出土。内区中央付近において、土師器8、9が床面直上より出土。土師器6は住居北西隅や竈内からも破片が出土している。竈内から出土した土師器6は、燃烧部下層よりの出土である。鉄滓10、11が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

#### 出土遺物

須恵器1は杯蓋、2、3は杯身、4、5は甕である。土師器6～9は甕である。鉄器2218-1は曲刃

鎌である。杯身2は杯蓋の可能性はある。杯身3は口縁端部に打ち欠きが施されている。また内外面に敲打痕が観察される。甕6は長胴甕である。甕8、9は小型長胴甕である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

#### 148号竪穴式住居 (SB7148) (第1268～1274図)

松吉地区、I14、J15グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.3mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.25m、深度は15cm、床面積13.6m<sup>2</sup>、内区面積5.25m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-10°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は5基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.65m、EP2-3間は2.35m、EP3-4間は1.55m、EP4-1間は2.05mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は暗褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は暗灰黄色粘質砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は暗灰黄色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色粘質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は暗オリーブ褐色粘質土層、6層は暗オリーブ褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は暗褐色粘質砂質土層である。EP5内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は灰オリーブ色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は暗灰黄褐色砂質土層である。

周壁溝は幅40cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、1層は暗灰黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は暗灰黄褐色砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-11°-Eを測る。支脚は結晶片岩製である。袖部、燃烧部が検出された。焚口部幅83cm、燃烧部最大幅43cm、支脚-焚口間30cm、支脚-奥壁間20cm、支脚高20cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸128cm、短軸96cm、深度12cmを測る。

1層は褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、15層は赤褐色粘質土層、16層は黄褐色砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層は黒褐色粘質土層、19層は赤色砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層は黄褐色砂質土層、22層は黄褐色粘質土層、23層は黄褐色粘質土層、24層は褐色粘質土層、25層は黄褐色砂質土層、26層は黄褐色粘質土層、27層は褐色粘

質土層である。

#### 遺物出土状況

居住区内からの遺物出土は少ない。EP4付近において、土師器4が床面直上より出土。竈燃焼部支脚周辺において、須恵器2が床面直上より出土。竈廃絶に伴い須恵器が置かれたものと推定される。

#### 出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2、3は甕である。土師器4、5、6は甕である。杯蓋1は成形時の粘土接合痕が観察される。甕4、5は大型長胴甕である。甕6は小型甕である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 149号竪穴式住居 (SB7149) (第1275～1283図)

松吉地区、F14、G15グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は6.38m、深度は35cm、床面積35.61m<sup>2</sup>、内区面積9.96m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-4°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は11層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.13m、EP2-3間は2.7m、EP3-4間は2.53m、EP4-1間は2.63mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は灰黄粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は暗褐色粘質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層、8層はにぶい黄色砂質土層、9層はにぶい黄色砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄色砂質土層、5層は黒褐色粘質土層、6層はにぶい黄色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は黒褐色粘質土層、10層はにぶい黄色砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層は暗灰黄色砂質土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP5内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層はにぶい赤褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色

砂質土層、6層はオリブ褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅80cm、燃焼部最大幅52cm、支脚-焚口間38cm、支脚-奥壁間27cm、煙道長49cm、煙道幅50cm、支脚高12cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸160cm、深度10cmを測る。

1層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層、14層は黄褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層は明黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は褐色砂質土層、20層は黄褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘質土層、22層は黄褐色粘質土層、23層は暗褐色粘質土層、24層は黄褐色粘質土層、25層は黒褐色粘質土層、26層は明黄褐色砂質土層、27層は明黄褐色粘質土層、28層は明黄褐色粘質土層、29層は黄褐色粘質土層、30層は黄褐色粘質土層、31層はにぶい黄褐色粘質土層である。

## 遺物出土状況

住居西壁沿いにおいて焼土が検出された。焼失住居の可能性もある。住居東壁沿いにおいて、鉄器2219-1が中層より出土。EP3東側において、土師器16が床面直上より、石器23が中層より出土。EP3北側において鉄滓27が出土。住居西壁沿いより、鉄器2219-2が出土。EP4付近において、須恵器13、15、石器20が中層より出土。竈支脚は石器21である。竈内燃焼部において、須恵器12、13が床面直上より出土。竈廃絶時に須恵器甕が置かれたものと推定される。鉄滓26、27が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

## 出土遺物

須恵器1~4は杯蓋、5~8は杯身、9~11は壺、12~15は甕である。土師器16~19は甕である。石器20は不明石器、21は支脚、22~24は敲石、25は打製石鋏である。鉄器2219-1は不明鉄器である。鉄器2219-2は刀子である。杯蓋4は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身8は口縁端部に打ち欠きが施されている。外面底部にも敲打による剥離が観察される。甕12、13はほぼ同一地点よりの出土であるが、外面調整や内面当て具痕跡が違うことから、別個体である。甕16は長胴甕で、短く外反する口縁が特徴である。不明石器20は砂岩製で、剥離痕や被熱赤変が観察される。支脚21は砂岩製で、上部に敲打痕が観察される。敲石からの転用である。被熱による赤変が観察される。敲石22は砂岩製である。敲石23は緑色岩製である。敲石24は結晶片岩製である。打製石鋏25は結晶片岩製である。不明鉄器2219-1は未製品である。屈曲部より厚味を減じることから、刀子未製品と考えられる。刀子2219-2は刃部が長いのが特徴である。鉄滓26、27は発泡が進み、メタルは遺存していない。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

## 150号竪穴式住居 (SB7150) (第1284~1290図)

松吉地区、D13、E14グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。



## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.63m、深度は35cm、床面積14.56m<sup>2</sup>、内区面積3.98m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-97°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.4m、EP2-3間は2.05m、EP3-4間は1.43m、EP4-1間は1.9mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は東辺中央部において検出された。主軸方位はN-100°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅61cm、燃焼部最大幅38cm、支脚-焚口間45cm、支脚-奥壁間11cm、支脚高15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸150cm、短軸127.5cm、深度18cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色砂質土層、5層は褐色粘質土層、6層は赤色粘質土層、7層は暗赤褐色粘質土層、8層は赤色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層である。

## 遺物出土状況

住居中央部において、須恵器3が上層より出土。竈焚き口部と燃焼部において土師器4が出土。竈支脚は石器8である。鉄滓10が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

## 出土遺物

須恵器1は杯身である。須恵器2は甕である。須恵器3は横瓶である。土師器4、5、6は甕である。土師器7は甗である。石器8は支脚である。石器9は台石である。杯身1は成形時の粘土接合痕が観察される。甕4、5は長胴甕である。支脚8は砂岩製で、上部に敲打痕と剥離痕が観察される。敲石からの転用品である。被熱赤変が観察される。台石9は結晶片岩製で、表裏面に敲打痕が、縁辺部に剥離痕が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 151号竪穴式住居 (SB7151) (第1291~1296図)

松吉地区、L5、M6グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺

構築面は標高79.2mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.2m、深度は13cm、床面積19.2m<sup>2</sup>、内区面積6.24m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-14°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は3層に分層できる。1層は褐色粘質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は1.6m、EP3-1間は2.58mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層は暗オリーブ褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は暗オリーブ褐色粘質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅74cm、燃焼部最大幅49cm、煙道長28cm、煙道幅26cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸35cm、短軸33cm、深度45cmを測る。

1層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層は暗褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は暗褐色粘質土層、7層はにぶい赤褐色粘質土層、8層は赤色砂質土層、9層は褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層は赤褐色粘質土層、13層は暗赤褐色粘質土層、14層は黄褐色砂質土層、15層は黄褐色砂質土層である。

#### 出土遺物

土師器1は長胴甕である。土師器2は長胴甕である。石器3は敲石で、結晶片岩製である。敲打痕が観察される。石器4は敲石で、砂岩製である。敲打痕や剥離痕が観察される。鉄器2220-1は刀子である。鉄製鞘が伴う。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 152号竪穴式住居 (SB7152) (第1297~1301図)

松吉地区、G2、H3グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.6m、深度は30cm、床面積12.29m<sup>2</sup>、内区面積1.96m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-13°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は15層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、

6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は0.9m、EP2-3間は1.15m、EP3-4間は0.93m、EP4-1間は1.13mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

#### 竈

竈は構築されていない。炉も構築されていない。

#### 遺物出土状況

住居北壁中央付近に遺物が集中している。東壁沿いにおいて、須恵器3が床面直上より出土。北壁沿いにおいて、須恵器2、土師器5、6、8、9が床面直上より出土。鉄滓10が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

#### 出土遺物

須恵器1は杯身である。須恵器2、3は高杯である。土師器4、5、7は甕である。土師器6は鉢である。土師器8は杯である。土師器9は手捏ね土器である。無蓋高杯2は、杯部外面に敲打痕が観察される。有蓋高杯3は成形時の粘土接合痕が観察される。甕4は大型長胴甕である。甕5は短く外反する口縁が特徴の長胴甕である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

### 153号竪穴式住居 (SB7153) (第1302~1309図)

松吉地区、D14、E15グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.88m、深度は30cm、床面積12.62m<sup>2</sup>、内区面積4.46m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-7°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は5層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は1.55m、EP2-3間は0.75mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、

2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-11°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅75cm、燃焼部最大幅45cm、支脚-焚口間12cm、支脚-奥壁間15cm、煙道長50cm、煙道幅37cm、支脚高24cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は暗赤褐色粘質土層、7層は明褐色粘質土層、8層は赤色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層は黒褐色粘質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘質土層、13層は黒褐色粘質土層、14層は褐色砂質土層、15層は黒褐色粘質土層、16層は暗赤色粘質土層、17層は明黄褐色粘質土層、18層は明黄褐色粘質土層である。

## 遺物出土状況

住居南東隅、EP2付近において、須恵器6と石器11が床面直上より出土した。住居東壁沿いにおいて、須恵器1が床面からやや浮いた状態で出土。住居北東隅において、須恵器5が床面からやや浮いた状態で出土。土師器8は、竈東側とEP2付近より出土。竈燃焼部からは、土師器9、10が床面直上利出土。竈西側において、須恵器4が床面直上より出土。竈支脚は石器13である。

## 出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2～4は杯身である。須恵器5は無蓋高杯である。須恵器6は甕である。土師器7～10は甕である。石器11は砥石、12は凹石、13は支脚である。杯蓋1は「×」字状のヘラ記号が施されている。無蓋高杯5外面には赤色顔料が塗布されている。杯底部には、脚接合のための沈線が施されている。甕7は球形体部を持つ大型甕である。甕8は球形体部の小型甕である。甕9、10は長胴甕である。砥石11は緑色岩製で、左右両側縁に鉄器刃部による擦痕が観察される。凹石12は緑色岩製である。支脚13は結晶片岩製で、剥離痕や被熱赤変が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

## 155号竪穴式住居 (SB7155) (第1310～1326図)

松吉地区、F15、G16グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.3mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は35cm、床面積50m<sup>2</sup>、内区面積10.12m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-27°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は59層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐

色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はオリーブ褐色砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層は褐色砂質土層、29層は灰オリーブ色粘性砂質土層、58層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.9m、EP2-3間は3.2m、EP3-4間は2.25m、EP4-1間は3mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層は褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄橙色砂質土層、5層は褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層、9層は黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄橙色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層である。

土坑EK1は、竈右前面に構築されている。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-30°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅92cm、燃焼部最大幅72cm、煙道長60cm、煙道幅25cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸85cm、短軸85cm、深度15cmを測る。

1層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、29層は灰オリーブ粘性砂質土層、30層は暗褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層は暗褐色粘質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘質土層、36層はにぶい黄橙色粘質土層、37層は赤褐色粘質土層、38層は明赤褐色粘質土層、39層は暗赤褐色粘質土層、40層は暗赤褐色粘質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層は暗赤褐色粘質土層、43層は赤褐色粘質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層は褐色粘性砂質土層、46層は極暗赤褐色砂質土層、47層は暗赤褐色粘質土層、48層は灰黄褐色砂質土層、49層は暗赤褐色粘質土層、50層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、51層は黄褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色粘性砂質土層、53層は褐色粘質土層、54層は暗赤灰粘質土層、55層は褐色粘性砂質土層、56層は赤褐色粘質土層、57層は灰褐色粘質土層である。

#### 遺物出土状況

遺物はほとんど小片である。プライマリー状況を示すのは竈内だけである。住居南西隅より石器56が出土。EP2南東側より、石器52が出土。EP2西側より、石器49と鉄器2221-1と土師器43が出土。住

居南壁沿いより須恵器25、31が出土。EP4付近において、須恵器17、土師器45が出土。竈右袖東側より須恵器21が出土。竈内燃焼部より、土師器43と鉄器2221-2が出土。鉄滓62、64、65と、鞆羽口63が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

#### 出土遺物

須恵器1～4は杯蓋、5～21は杯身、22は平瓶、23は壺、24は短頸壺、25は横瓶、26～42は甕である。土師器43～46は甕、47は甗である。石器48は敲石、49、50は凹石、51は砥石、52、53は台石、54は支脚、55、56、57、58は台石、59は不明石器、60は剥片、61は敲石である。鉄器2221-1は刀子、2221-2は棒状鉄器である。杯蓋1は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身13は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身18はヘラ記号が施されている。甕43は長胴甕である。甕44は球形体部の大型甕である。刀子2221-1は大型の刀子である。棒状鉄器2221-2は下方に向かって幅を減じる。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 156号竪穴式住居（SB7156）（第1327～1332図）

松吉地区、H1、I2グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.2mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は7.23m、深度は40cm、床面積42.3m<sup>2</sup>、内区面積10.51m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-10°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は26層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は赤黒色粘質土層、15層は赤褐色粘質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.45m、EP2-3間は2.78m、EP3-4間は2.65m、EP4-1間は2.73mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-18°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅63cm、燃烧部最大幅45cm、煙道長24cm、煙道幅26cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸76cm、短軸54cm、深度4cmを測る。

1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は赤黒色粘質土層、15層は赤褐色粘質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、27層はにぶい黄褐色粘質土層である。

## 遺物出土状況

竈内より土師器甕片が出土したが図化できない。居住区内からも出土状況図を作成するような遺物群は出土していない。住居廃絶に伴いカタヅケ行為が行われたものと推定される。

## 出土遺物

須恵器1は壺、2～7は甕（壺）、8は台付長頸壺である。土師器9は杯、10、11は甕である。石器12は台石である。壺1は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕10は長胴甕である。台石12は結晶片岩製で、敲打痕や剥離痕が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

## 157号竪穴式住居（SB7157）（第1333～1341図）

松吉地区、P4、Q5グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.5mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.6m、深度は30cm、床面積14.4㎡、内区面積4.5㎡、住居主軸方位はN-77°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層はにぶい赤褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層は灰黄褐色砂質土層、13層は褐色砂質土である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.25m、EP2-3間は2.2m、EP3-4間は1.43m、EP4-1間は1.95mを測る。EP1内覆土は、1層は暗褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層は黒褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は暗褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は暗褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は暗褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はオリーブ褐

色砂質土層である。

周壁溝は幅10cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、にぶい黄褐色砂質土層である。

## 竈

竈は西辺中央部において検出された。主軸方位はN-80°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅74cm、燃烧部最大幅36cm、支脚-焚口間38cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長122cm、煙道幅92cm、支脚高3cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸156cm、短軸123cm、深度5cmを測る。

10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄色褐色砂質土層、12層は灰黄褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層、14層は灰黄褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層は褐色砂質土層、17層は灰黄褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層は灰黄褐色砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層は褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層は暗褐色砂質土層、26層は褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層はにぶい黄褐色砂質土層、30層は暗褐色砂質土層、31層は暗褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色砂質土層、33層は黄褐色砂質土層、34層はにぶい黄褐色砂質土層、35層はにぶい黄褐色砂質土層、36層は暗赤褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色砂質土層、38層はにぶい黄褐色砂質土層、39層は暗赤褐色砂質土層、40層はにぶい黄褐色砂質土層、41層はにぶい黄褐色砂質土層、42層は灰黄褐色砂質土層、43層は褐色砂質土層、44層は褐色砂質土層、45層は褐色砂質土層、46層はにぶい黄褐色砂質土層、47層は灰黄褐色砂質土層、48層は褐色砂質土層、49層は褐色砂質土層、50層はにぶい黄褐色砂質土層、51層はにぶい黄褐色砂質土層、52層は褐色砂質土層、53層はにぶい赤褐色砂質土層、54層はにぶい赤褐色砂質土層、55層は褐色砂質土層、56層は赤褐色砂質土層、57層はにぶい赤褐色砂質土層、58層はにぶい赤褐色砂質土層、59層はにぶい赤褐色砂質土層、60層は褐色砂質土層、61層はにぶい黄褐色砂質土層、62層はにぶい黄褐色砂質土層、63層はにぶい黄褐色砂質土層、64層は暗赤褐色砂質土層、65層は褐色砂質土層、66層はにぶい黄褐色砂質土層である。

## 遺物出土状況

竈内燃烧部からは土師器15が出土。土師器15破片は住居中央部からも出土。竈左袖南側からは土師器16が出土。土師器16破片は住居北東隅からも出土。EP1西側より須恵器1が出土。竈前庭部より須恵器2が出土。居住区全体より土師器18が出土。

## 出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3～8は杯身である。土師器9～16は甕、17、18は甑である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きが施されている。内面には当て具痕跡が残る。杯身5、6は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身3は底部に渦巻き状のヘラ記号が施されている。甕9～11は球形体部にやや外反する口辺部を持つ小型甕である。甕15、16は大型長胴甕である。甑17、18はつつぬけ底部である。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 158号竪穴式住居 (SB7158) (第1342～1346図)

松吉地区、P5、Q6グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺



構構築面は標高79.5mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.63m、深度は15cm、床面積13.11m<sup>2</sup>、内区面積4.45m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-11°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は6層に分層できる。1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は灰黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.55m、EP2-3間は1.73m、EP3-4間は1.45m、EP4-1間は1.88mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅83cm、燃烧部最大幅17cm、支脚-焚口間6cm、支脚-奥壁間29cm、煙道長78cm、煙道幅90cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

1層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9層は褐色砂質土層、10層は暗褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層は暗褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層、16層は褐色砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層はにぶい黄褐色砂質土層、19層は褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層は暗褐色砂質土層、22層は暗褐色砂質土層、23層はにぶい黄褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層は褐色砂質土層、26層は褐色砂質土層、27層は褐色砂質土層である。

#### 遺物出土状況

竈周辺より土師器甕片が出土している。図化はできない。

#### 時期

古墳時代後期と推定される。

#### 159号竪穴式住居 (SB7159) (第1347~1355図)

松吉地区、P6、Q7グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.5mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.8m、深度は35cm、床面積20.75m<sup>2</sup>、内区面積8.94m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-11°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は18層に分層できる。1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は黄褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層、14層は褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層は褐色砂質土層、17層は褐色砂質土層、18層はにぶい黄褐色砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.25m、EP2-3間は2.78m、EP3-4間は2.55m、EP4-1間は2.38mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層である。

周壁溝は幅15cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、褐色砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-10°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅55cm、燃焼部最大幅42cm、支脚-焚口間22cm、支脚-奥壁間37cm、煙道長55cm、煙道幅35cm、支脚高13cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸123cm、短軸94cm、深度19cmを測る。

1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層は褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層は暗褐色砂質土層、24層は褐色砂質土層、25層は褐色砂質土層、26層は褐色砂質土層、27層は褐色砂質土層、28層は暗褐色砂質土層、29層はにぶい黄褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色砂質土層、31層は褐色砂質土層、32層は褐色砂質土層、33層は褐色砂質土層、34層は褐色砂質土層、35層はにぶい黄褐色砂質土層、37層は黄褐色砂質土層、38層は褐色砂質土層、39層は暗褐色砂質土層、40層はにぶい赤褐色砂質土層、41層は黄褐色砂質土層、42層は黄褐色砂質土層、43層は黄褐色砂質土層、44層はオリーブ褐色砂質土層、45層は灰黄褐色砂質土層、46層はにぶい黄褐色砂質土層、47層は灰黄褐色砂質土層、48層は暗褐色砂質土層、50層は黄褐色砂質土層、51層は赤褐色砂質土層、52層はにぶい黄褐色砂質土層、53層は黄褐色砂質土層、54層はにぶい黄褐色砂質土層、55層はにぶい黄褐色砂質土層、56層はにぶい黄褐色砂質土層、57層は暗褐色砂質土層、58層は赤褐色砂質土層、59層は明黄褐色砂質土層、60層は暗褐色砂質土層、61層は赤褐色砂質土層、62層は黄褐色砂質土層、63層はにぶい黄褐色砂質土層、64層は黄褐色砂質土層、65層は明黄褐色砂質土層、66層はにぶい黄褐色砂質土層、67層はにぶい黄褐色砂質土層である。

## 遺物出土状況

竈燃焼部より土師器9が出土。土師器8も燃焼部と竈西側より出土。竈西側の北壁沿いより鉄器2222

ー 1、2222ー 2 が出土。EP 2 付近より須恵器 2、3 が出土。

#### 出土遺物

須恵器 1 は杯蓋、2、3 は杯身である。土師器 4～7 は甕、8 は直口壺、9 は甑である。石器 10 台石、11 は敲石である。鉄器 2222ー 1 は刀子、2222ー 2 は棒状鉄器である。杯身 2、3 は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕 4 は長胴甕である。甕 5、7 は球形体部の小型甕である。甑 9 はつつぬけ底部である。台石 10 は砂岩製である。敲石 11 は砂岩製である。刀子 2222ー 1 は木柄が残る。棒状鉄器 2222ー 2 は製法軒の断面形態を呈する。鉄鏃の可能性もある。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相 VI 段階である。

#### 160号竪穴式住居 (SB7160) (第1356～1363図)

松吉地区、P7、Q8 グリッドにて検出。東側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高 79.5m を測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は 5.5m、深度は 15cm、床面積 26.09m<sup>2</sup>、内区面積 6.9m<sup>2</sup>、住居主軸方位は N-18°-E を測る。中型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は 4 層に分層できる。1 層はオリーブ褐色砂質土層、2 層はにぶい黄褐色砂質土層、3 層はオリーブ褐色砂質土層、4 層はオリーブ褐色砂質土層

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は 4 基検出された。4 本柱構造である。EP 1-2 間は 2.05m、EP 2-3 間は 2.3m、EP 3-4 間は 2.15m、EP 4-1 間は 1.93m を測る。EP 1 内覆土は、1 層はにぶい黄褐色砂質土層、2 層は褐色砂質土層、5 層はオリーブ褐色砂質土層、6 層はオリーブ褐色砂質土層である。EP 2 内覆土は、1 層はにぶい黄褐色砂質土層、2 層は褐色砂質土層、5 層はオリーブ褐色砂質土層、7 層はオリーブ褐色砂質土層、8 層はオリーブ褐色砂質土層である。EP 3 内覆土は、1 層はにぶい黄褐色砂質土層、8 層はオリーブ褐色砂質土層、9 層はにぶい黄褐色砂質土層、10 層オリーブ褐色砂質土層、11 層はオリーブ褐色砂質土層である。EP 4 内覆土は、1 層はにぶい黄褐色砂質土層、2 層は褐色砂質土層、3 層はオリーブ褐色砂質土層、4 層はオリーブ褐色砂質土層、5 層はオリーブ褐色砂質土層、6 層はオリーブ褐色砂質土層である。

周壁溝は幅 20cm、深度 10cm を測る。遺構内覆土は、オリーブ褐色砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位は N-19°-E を測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅 72cm、燃焼部最大幅 40cm、支脚-焚口間 53cm、支脚-奥壁間 5cm、煙道長 52cm、煙道幅 67cm、支脚高 6cm を測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸 188cm、短軸 130cm、深度 12cm を測る。

1 層はオリーブ褐色砂質土層、2 層はにぶい黄褐色砂質土層、3 層はオリーブ褐色砂質土層、5 層はにぶい黄褐色砂質土層、6 層はオリーブ褐色砂質土層、7 層はにぶい黄褐色砂質土層、8 層はにぶい黄

褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層、14層はにぶい赤褐色砂質土層、15層は暗褐色砂質土層、16層は暗赤褐色砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層はにぶい赤褐色砂質土層、19層は暗赤褐色砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層にぶい黄褐色砂質土層、22層は褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層は暗褐色砂質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層、26層は褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色砂質土層、28層は暗赤褐色砂質土層、29層はにぶい赤褐色砂質土層、30層は赤褐色砂質土層、31層はにぶい黄橙色砂質土層、32層はにぶい赤褐色砂質土層、33層はにぶい黄褐色砂質土層、34層はにぶい赤褐色砂質土層、35層はにぶい黄褐色砂質土層、36層はにぶい赤褐色砂質土層、37層は暗赤褐色砂質土層、38層はにぶい黄橙色砂質土層、39層はにぶい黄橙色砂質土層である。

#### 遺物出土状況

竈燃焼部より須恵器4、5が出土。竈右袖東側において、須恵器3、土師器8、9が床面直上より出土。窓西側の北壁沿いにおいて、須恵器6が床面直上より出土。住居南東隅において、石器10が床面からやや浮いた状態で出土。

#### 出土遺物

須恵器1～3は杯蓋、4～6は無蓋高杯、7は甕である。土師器8、9は甕である。石器10は不明石器である。石器11は砥石である。杯蓋2、3は杯身の可能性もある。甕8、9は球形体部に直立する口辺部を持つ小型甕である。不明石器10は砂岩製で、敲打痕が観察される。接合資料である。砥石11は結晶片岩製で、表面には鉄器刃部による擦痕が観察される。裏面は大きな剥離痕が残る。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

#### 161号竪穴式住居（SB7171）（第1364～1369図）

新貝地区、L4、M5グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は38cm、床面積11m<sup>2</sup>、内区面積5.15m<sup>2</sup>を測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は14層に分層できる。1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は灰黄色粘質土層、12層は黄褐色粘質土層、13層はオリーブ褐色粘質土層、14層は灰黄色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は0.98mを測る。EP1内覆土は、1層は灰黄色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は暗灰黄色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において下部構造のみ検出された。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸112.5cm、短軸57.5cm、深度17.5cmを測る。下部構造埋土は1、2層である。1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

## 遺物出土状況

遺物はほとんど出土していない。住居中央部より石器5が出土。竈西側より須恵器1が出土。

## 出土遺物

須恵器1は杯身である。須恵器2、3は甕である。土師器4は甑である。石器5は台石である。杯身1は成形時の粘土接合痕が観察される。甕2、3は中型甕である。甑4はつつぬけ底部と推定される。台石5は結晶片岩製で、敲打痕と剥離痕が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 162号竪穴式住居 (SB7162) (第1370図)

新貝地区、K3、L4グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は45cm、検出床面積4.07m<sup>2</sup>を測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は4層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘質土層、2層はオリーブ褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘質土層、4層はにぶい黄色粘質土層である。

## 時期

古墳時代後期と推定される。

## 163号竪穴式住居 (SB7163) (第1371～1376図)

新貝地区、I4、J5グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は2.95m、深度は38cm、床面積12.83m<sup>2</sup>、内区面積4.21m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-77°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は23層に分層できる。1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は灰黄色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は灰黄色粘性砂質土層、8層は灰黄色粘質土層、9層はオリーブ褐色粘質土層、10層はにぶい黄色粘質土層、11層はにぶい黄色粘質土層、12層は黄褐色粘質土層、13層は黄褐色粘質土層、14層はにぶい黄色粘質土層、15層は灰黄色粘質土層、16層は黄褐色粘質土層、17層は浅黄色粘性砂質土層、18層はにぶい黄色粘質土層、19層は黄褐色粘質土層、20層は黄褐色粘質土層、21層はにぶい黄色粘性砂質土層

層、22層は浅黄色粘質土層、23層はにぶい黄色粘質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来4本柱構造である。EP1-2間は2.0mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はオリーブ褐色粘質土層である。

土坑EK1は、住居南壁沿いに構築されている。遺構内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において下部構造のみ検出された。主軸方位はN-80°-Wを測る。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸20.5cm、短軸15.8cm、深度8cmを測る。

#### 遺物出土状況

竈下部構造上面より土師器1が出土。

#### 出土遺物

土師器1は甕で、球形体部に直立する口縁部を有する小型甕である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

### 164号竪穴式住居（SB7164）（第1377～1379図）

新貝地区、K4、L5グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。床面積13.8㎡、内区面積5.16㎡、住居主軸方位はN-17°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は1.9m、EP3-1間は2.15mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層はオリーブ褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘質土層である。

#### 竈

竈はSTにより削平されており、未検出である。

#### 出土遺物

須恵器1～4は杯蓋である。須恵器5～12は杯身である。須恵器13は高杯である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身9、10、12は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯蓋1、杯身5は成形時の粘土接合痕が観察される。高杯13は長脚で、方形透かしが3方向より施されている。上部には杯と接合する際の「設定技法」である沈線が施されている。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

## 167号竪穴式住居（SB7167）（第1380～1389図）

新貝地区、H7グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.83m、深度は30cm、床面積13.14m<sup>2</sup>、内区面積4.74m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-9°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は22層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘性砂質土層、18層は黄褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.4m、EP2-3間は1.9m、EP3-4間は1.9m、EP4-1間は1.68mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は暗灰黄色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層は暗灰黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅30cm、深度8cmを測る。遺構内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-9°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅65cm、燃烧部最大幅31cm、支脚-焚口間7cm、支脚-奥壁間23cm、煙道長20cm、煙道幅31cm、支脚高14cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸121cm、短軸111cm、深度15cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質

土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層は赤褐色粘質土層、33層は黄褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層は褐色粘性砂質土層、42層は黄褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層はオリブ褐色粘質土層、45層はオリブ褐色粘質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、47層は黄褐色粘質土層、48層は黄褐色粘質土層、49層は灰オリブ粘性砂質層、50層はオリブ褐色粘質層、51層はにぶい黄褐色粘質土層、52層は黄褐色粘質土層、53層は黄褐色粘質土層、54層は黄褐色粘質土層、55層は黄褐色粘性砂質土層、56層は褐色粘性砂質土層、57層は黄褐色粘性砂質土層、58層は黄褐色粘質土層、60層は暗灰黄色粘性砂質土である。

#### 遺物出土状況

居住区北東側の焼土層上面において、須恵器1、8が床面直上より出土。EP1覆土上面より須恵器11が出土。EP2付近において、須恵器12、13、石器16が床面直上より出土。内区中央部において、須恵器6が床面よりやや浮いた状態で出土。住居西壁沿いにおいて、須恵器14が床面直上より出土。竈内燃焼部において、須恵器2、土師器15が床面より浮いた状態で出土。竈右袖上面より石器17が出土。

#### 出土遺物

須恵器1～7は杯蓋である。須恵器8～13は杯身である。須恵器4は甕である。土師器15は甕である。石器16は敲石、17は台石である。杯蓋1～6、杯身12は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身10、11は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身9は内面に補修痕が観察される。甕15は小型甕である。敲石16は緑色岩である。台石17は結晶片岩製で、竈袖構築材へ転用された可能性もある。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 168号竪穴式住居（SB7168）（第1390～1397図）

新貝地区、F6、G7グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.78m、深度は38cm、床面積23.81m<sup>2</sup>、内区面積6.97m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-7°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は44層に分層できる。1層はにぶい黄色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は灰色粘質土層、4層は灰黄色粘質土層、5層はオリブ褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は明灰黄色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は黄褐色粘質土層、10層はオリブ褐色粘質土層、11層は灰黄色粘質土層、12層はにぶい黄褐色粘質土層、13層は灰黄色粘質土層、14層は暗灰黄色粘質土層、15層は黄褐色粘質土層、16層は黄褐色粘質土層、17層は灰オリブ色粘性砂質土層、18層は黄褐色粘質土層、19層はにぶい黄色粘質土層、20層は暗灰黄色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層は暗灰黄色粘



性砂質土層、23層は暗灰黄色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘質土層、25層はオリーブ褐色粘質土層、26層は灰黄色粘性砂質土層、27層は灰黄色粘質土層、28層は黄褐色粘質土層、29層は黄褐色粘質土層、30層はオリーブ褐色粘性砂質土層、31層は灰黄色粘性砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層は灰オリーブ色粘質土層、34層は黄褐色粘質土層、35層は黄褐色粘質土層、36層は暗灰黄色粘性砂質土層、37層は暗灰黄色粘性砂質土層、38層は暗灰黄色粘性砂質土層、39層は暗灰黄色粘性砂質土層、40層は黄褐色粘質土層、41層は暗灰黄色粘質土層、42層は黄褐色粘質土層、43層は黄褐色粘質土層、44層は黄褐色粘質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.0m、EP2-3間は2.4m、EP3-4間は1.65m、EP4-1間は2.55mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層は灰黄色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘質土層、4層は暗オリーブ色粘性砂質土層、5層は黄褐色年質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色粘質土層、9層はオリーブ褐色粘質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層はオリーブ褐色粘質土層、13層は黄褐色粘質土層、14層は灰オリーブ色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘質土層、16層は黄褐色粘質土層、17層はにぶい黄色粘質土層、18層は黄褐色粘質土層、19層は黄褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色砂質土層、16層は暗灰黄色砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層は褐色砂質土層、22層はオリーブ褐色砂質土層、23層はにぶい黄褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は灰オリーブ色粘質土層、9層は黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Wを測る。支脚は結晶片岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅73cm、燃焼部最大幅64cm、支脚-焚口間45cm、支脚-奥壁間42cm、煙道長32cm、煙道幅12cm、支脚高10cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。深度6cmを測る。

2層はにぶい黄色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘質土層、9層は灰オリーブ色粘質土層、29層は黄褐色粘質土層、43層はオリーブ褐色粘質土層、44層は黄褐色粘質土層、45層は灰黄色粘質土層、46層は暗灰黄色粘質土層、47層は黄褐色粘質土層、48層は黄褐色粘質土層、49層はオリーブ褐色粘質土層、50層は黄褐色粘質土層、51層はオリーブ褐色粘質土層、52層はオリーブ褐色粘質土層、53層は黄褐色粘質

土層、54層はオリーブ褐色粘質土層、55層はオリーブ褐色粘質土層、56層は黄褐色粘質土層、57層は黄褐色粘質土層、58層はオリーブ褐色粘質土層、59層は黄褐色粘質土層、60層はオリーブ褐色粘質土層、61層は黄褐色粘質土層である。

#### 遺物出土状況

住居西壁際と、EP 1 付近より焼土層が検出された。焼失住居の可能性はある。住居北西隅において、石器15が中層より出土。竈燃焼部において、土師器13、14が床面より浮いた状態で出土。土師器14破片は、竈右袖付近やEP 4 付近からも出土している。支脚は石器17である。

#### 出土遺物

須恵器 1～5 は杯蓋、6～10は杯身、11は高杯、12は甕である。土師器13は甕、14は甗である。石器15、16は敲石、石器17は支脚である。杯蓋 1、2 は口縁端部に刻み目が施されている。杯蓋 3 は成形時の粘土接合痕が観察される。甕13は大型長胴甕である。甗14は球形体部に、つつぬけ底部を持つ。敲石15は緑色岩である。敲石16は砂岩である。支脚17は結晶片岩製で、上下両端部に敲打痕と剥離痕が観察される。一部、被熱により赤変が認められる。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 169号竪穴式住居 (SB7169) (第1398～1403図)

新貝地区、G 9、H10グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.53m、深度は48cm、床面積13.91m<sup>2</sup>、内区面積3.89m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-22°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は67層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘質土層、10層は褐色粘質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、15層は褐色粘質土層、16層黄褐色粘質土層、17層褐色粘性砂質土層、18層オリーブ褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層は褐色粘質土層、22層は褐色粘質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘質土、32層は褐色粘性砂質土層、33層褐色粘性砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘性砂質土層、36層は褐色粘質土、37層は黄褐色粘性砂質土層、38層にぶい黄褐色粘性砂質土層、39層は褐色粘質土層、40層は暗褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はオリーブ黄褐色粘性砂質土層、43層は黄褐色砂質土層、44層はオリーブ褐色粘性砂質土層、45層はオリーブ褐色粘性砂質土層、46層は褐色粘性砂質土層、47層は褐色粘性砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層は褐色粘性砂質土層、50層は褐色粘質土層、51層は暗褐色粘質土層、52層は褐色粘性砂質土層、53層は褐色粘性砂質土層、54層は褐色粘性砂質土層、55層は褐色粘質土層、56層は褐色粘質土層、57層は暗褐色粘性砂質土層、58層は黄褐色粘質土層、59層

は黄褐色粘質土層、60層はオリーブ褐色粘性砂質土層、61層はオリーブ褐色粘性砂質土層、62層は褐色粘性砂質土層、63層は褐色粘性砂質土層、64層は褐色粘性砂質土層、65層は褐色粘性砂質土層、66層は褐色粘性砂質土層、67層は褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.4m、EP2-3間は1.6m、EP3-4間は1.15m、EP4-1間は1.9mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層、9層は黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層は褐色粘質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄色粘質土層、20層は黄褐色粘質土層、21層はにぶい黄色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はオリーブ褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層はにぶい黄色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層褐色粘質土層、15層は褐色粘質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-12°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅103cm、燃焼部最大幅56cm、支脚-焚口間20cm、支脚-奥壁間22cm、煙道長16cm、煙道幅35cm、支脚高23cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

#### 遺物出土状況

住居中央部より焼土層が検出された。焼失住居の可能性がある。焼土層に混じって、須恵器3が出土。EP2付近において、須恵器6が床面直上より、須恵器10が中層より出土。住居北東隅において、須恵器5が床面直上より出土。竈燃焼部において、土師器甕が中層より出土したが、図化できない。

#### 出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3~12は杯身、13、14は甕である。土師器15~17は甕である。杯身7は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身6、9、10は成形時の粘土接合痕が観察される。甕15、16は小型甕である。甕17は大型長胴甕である。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 170号竪穴式住居（SB7170）（第1404～1412図）

新貝地区、E8、F9グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.1m、深度は35cm、床面積28.71m<sup>2</sup>、内区面積9.25m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-29°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は29層に分層できる。1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色何質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層は褐色粘質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層は褐色粘質土層、15層はにぶい黄色粘質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層は黄褐色粘質土層、18層は褐色粘質土層、19層は褐色粘質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘質土層、24層はにぶい黄褐色粘質土層、25層は黄褐色粘質土層、26層は褐色粘質土層、27層はにぶい黄褐色粘質土層、28層は黄褐色粘質土層、29層は黄褐色粘質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は6基検出された。5本柱構造である。EP1-2間は2.2m、EP2-3間は1.25m、EP3-4間は1.35m、EP4-5間は2.15m、EP5-1間は3.1mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層はオリーブ褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層は明黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は明黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層である。EP5内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘質土層、16層は明黄褐色粘性砂質土である。EP6内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層はオリーブ褐色粘質土、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は明

黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層は褐色粘質土層、13層は黄褐色粘質土層、14層は明黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅70cm、深度15cmを測る。遺構内覆土は、1層は暗灰黄色粘性砂質土、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は、内区南東付近に構築されている。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は明黄褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-28°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅70cm、燃焼部最大幅51cm、支脚-焚口間34cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長65cm、煙道幅13cm、支脚高24cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸162.5cm、短軸107.5cm、深度18cmを測る。

30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層はにぶい褐色粘性砂質土層、32層は褐色粘質土層、33層は赤褐色粘質土層、34層は暗オリーブ色粘質土層、35層はにぶい赤褐色粘質土層、36層は褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘質土層、39層はにぶい赤褐色粘土層、40層は暗褐色粘質層、41層は褐色粘性砂質土層、42層は黄褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層は黄褐色粘性砂質土層、46層は黄褐色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層は黄褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、51層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色粘性砂質土層、53層は黄褐色粘性砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、55層はオリーブ褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄色粘性砂質土層、58層は黄褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、62層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、63層は黄褐色粘性砂質土層、64層は暗灰黄色粘性砂質層、65層はにぶい褐色粘質土層、66層は黄褐色粘性砂質土層、67層はにぶい黄色粘性砂質土層、68層はオリーブ褐色粘性砂質土層、69層は黄褐色粘性砂質土層、70層はオリーブ褐色粘性砂質土層、71層は黄褐色粘性砂質土層、72層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、73層は暗灰黄色粘性砂質土層、74層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、75層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、76層は暗灰黄色粘性砂質土層、77層は暗褐色粘質土層である。

## 遺物出土状況

遺物は竈周辺を中心に出土した。竈支脚は石器20である。支脚周辺において、土師器13、16、17が下層より出土。竈右袖東側において、須恵器1が床面直上より出土。さらに東側において、土師器16も床面直上より出土。竈西側において、土師器14が中層より出土。土師器13破片は内区中央からも出土。

## 出土遺物

須恵器1～6は杯蓋、7～11は杯身、12は横瓶である。土師器13～18は甕である。石器19は敲石、20は支脚である。杯蓋1、2、杯身10はヘラ記号が施されている。杯蓋1、2、3、杯身7は成形時の粘土接合痕が観察される。甕13は短く外反する口縁部が特徴の長胴甕である。甕14、15、16は大型長胴甕である。甕18は球形体部の小型甕である。敲石19は砂岩製で、下端部に敲打痕が観察される。支脚20は砂岩製で、上端部に敲打痕が、下端部に剥離痕が観察される。敲石からの転用品である。被熱赤変が観

察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 171号竪穴式住居（SB7171）（第1413～1421図）

新貝地区、E10、F11グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.05m、深度は63cm、床面積26.91m<sup>2</sup>、内区面積8.08m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-2°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は61層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層はオリーブ褐色砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘質土層、36層は褐色粘性砂質土層、37層は褐色粘性砂質土層、38層は褐色粘性砂質土層、39層は褐色粘性砂質土層、40層はオリーブ褐色粘性砂質土層、41層はオリーブ褐色粘性砂質土層、42層は褐色粘性砂質土層、43層は褐色粘性砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層は褐色粘性砂質土層、46層はオリーブ褐色粘性砂質土層、47層はオリーブ褐色粘性砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層はオリーブ褐色粘性砂質土層、50層は褐色粘性砂質土層、51層は褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色粘質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、54層は黄褐色粘性砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層は褐色粘性砂質土層、57層はオリーブ褐色粘性砂質土層、58層は褐色粘性砂質土層、59層は黄褐色粘性砂質土層、60層は褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.65m、EP2-3間は2.7m、EP3-4間は1.68m、EP4-1間は2.55mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は褐色粘質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘質土層、5層は褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層は褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層はオリーブ褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘質土層、21層は褐色粘質土層、22層は褐色粘砂土層、23層はにぶい黄褐色粘砂土層、24層は黄褐色粘質土層、25層はオリー

ブ褐色粘砂土層である。EP 2 内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層は褐色粘質土層、12層は褐色粘質土層、13層は黄褐色粘質土層、14層は黄褐色粘質土層、15層は褐色粘質土層、16層は褐色粘質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層は褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP 3 内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘質土層、4層は褐色粘質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層はにぶい黄褐色粘質土層、12層は褐色粘質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘質土層である。EP 4 内覆土は、1層はオリーブ褐色粘質土層、2層は褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層は褐色粘質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層は黄褐色粘質土層、23層は褐色粘質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層はオリーブ褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘質土層、30層はにぶい黄褐色粘質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層は黄褐色粘質土層、33層は褐色粘質土層、34層は黄褐色粘質土層、35層は褐色粘質土層、36層は褐色粘質土層、37層は褐色粘質土層、38層は褐色粘性砂質土層、39層は褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘質土層、41層はにぶい黄褐色粘質土層、42層はにぶい黄褐色粘質土層、43層は黄褐色粘質土層である。

周壁溝は幅25cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、1層は褐色粘質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-4°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅89cm、燃焼部最大幅58cm、支脚-焚口間27cm、支脚-奥壁間64cm、煙道長128cm、煙道幅30cm、支脚高6cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸88cm、短軸68cm、深度20cmを測る。

62層は褐色粘性砂質土層、63層は黄褐色粘質土層、64層は褐色粘質土層、65層は黄褐色粘質土層、66層は黄褐色粘質土層、67層は黄褐色粘性砂質土層、68層は褐色粘性砂質土層、69層は褐色粘性砂質土層、70層は褐色焼土層、71層は黄褐色粘性砂質土層、72層は褐色焼土層、73層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、74層は黄褐色粘質土層、75層は黄褐色粘質土層、76層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、77層は黄褐色粘性砂質土層、78層はにぶい黄褐色粘質土層、79層は黄褐色粘質土層、80層は黄褐色粘性砂質土層、81層は

褐色粘性砂質土層、82層は黄褐色粘性砂質土層、83層は褐色粘性砂質土層、84層は明黄褐色粘性砂質土層、85層は黄褐色粘性砂質土層、86層は黄褐色粘性砂質土層、87層は褐色粘性砂質土層、88層は黄褐色粘性砂質土層、89層は黄褐色粘性砂質土層、90層はオリーブ褐色粘性砂質土層、91層は褐色砂質土層、92層はにぶい黄色粘質土層、93層は褐色粘性砂質土層、94層は黄褐色粘質土層、95層は黄褐色粘性砂質土層、96層は褐色粘性砂質土層、97層は黄褐色砂質土層、98層は黄褐色粘性砂質土層、99層は褐色粘質土層、100層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、101層はにぶい褐色焼土層、102層はオリーブ褐色粘性砂質土層、103層は褐色粘性砂質土層、104層は黄褐色粘性砂質土層、105層は暗灰黄色粘性砂質土層、106層は褐色粘性砂質土層、107層は黄褐色粘性砂質土層、108層は褐色粘性砂質土層、109層はオリーブ褐色砂質土層、110層はオリーブ褐色砂質土層、111層は黄褐色砂質土層、112層は黄褐色粘性砂質土層である。

### 遺物出土状況

下層より焼土層が検出された。焼失住居である。基本的に居住区の遺物はこの焼土層より上で出土しており、埋没過程に伴う遺物群である。竈内遺物も、竈天井部より高いレベルで出土しており、プライマリな状態が保たれているとは認めがたい。被災前後にカタヅケ行為が行われたと推定される。

EP 1 東側において、須恵器 1 が中層より出土。EP 4 北西が、住居北西隅において、須恵器 7、10、11が上層より出土。住居南壁沿いにおいて、土師器16が覆土上面より出土。住居北東隅において、土師器12が上層より出土。竈西側において、土師器20が上層より出土。竈東側において、土師器22が上層より出土。竈燃焼部より約 5 cm程度浮いた状態で、土師器12、13、14が集中して出土。

### 出土遺物

須恵器 1～5 は杯蓋、6～9 は杯身、10は有蓋高杯、11は甕である。土師器12～20は甕、21は甑である。石器22は砥石、23は敲石である。杯蓋 1、杯身 7、有蓋高杯10は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身 8 は外面に赤色顔料が塗布されている。有蓋高杯10は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕11は大型甕である。甕12は長胴甕である。甕13、14、15は球形体部の小型甕である。甕19は大型長胴甕である。甑21はつつぬけ底部と推定される。砥石22は凝灰岩製で、鉄器刃部による擦痕が観察される。敲石 23は結晶片岩製で、剥離痕が観察される。

### 時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

### 172号竪穴式住居 (SB7172) (第1422～1429図)

新貝地区、D10、E11グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.3mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.75m、深度は38cm、床面積24.93m<sup>2</sup>、内区面積6.5m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-13°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は6層に分層できる。1層は黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。



## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.6m、EP2-3間は2.35m、EP3-4間は1.5m、EP4-1間は2.25mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色シルト層、2層はにぶい黄褐色シルト層、3層は褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色シルト質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色シルト質土層、2層はにぶい黄褐色シルト質土層、3層は褐色砂質土層、4層は褐色シルト質土層、5層は褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色シルト質土層、2層は褐色シルト質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層である。

周壁溝は幅25cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、にぶい黄褐色砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-14°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅67cm、燃烧部最大幅67cm、支脚-焚口間22cm、支脚-奥壁間44cm、煙道長108cm、煙道幅40cm、支脚高18cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸158cm、短軸129cm、深度12cmを測る。7層は褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は明赤褐色（焼土）砂質土層、12層は黒褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層は褐色砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色砂質土層である。

## 遺物出土状況

住居北東隅と内区南側より焼土層が検出されている。焼矢住居かどうかは判別不能である。内区西側において、土師器2が下層より出土。EP4南西側において、石器5中層より出土。住居北壁沿いにおいて、鉄滓6が覆土上面より出土。竈燃烧部において、須恵器1と土師器4が床面直上より出土。鉄滓6が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

## 出土遺物

須恵器1は杯身である。竈廃絶に伴い置かれた可能性がある。土師器2は甑で、つつぬけ底部と推定される。甕3は長胴化の傾向が認められる小型甕である。甕4は球形体部の小型甕である。石器5は敲石で、結晶片岩製である。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

## 173号竪穴式住居（SB7173）（第1430～1438図）

新貝地区、G6、H7グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.6m、深度は30cm、床面積10.59m<sup>2</sup>、内区面積4.83m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-7°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は14層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.55m、EP2-3間は2.05m、EP3-4間は1.75m、EP4-1間は1.88mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はオリーブ褐色砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅60cm、燃烧部最大幅32cm、支脚-焚口間75cm、支脚-奥壁間37cm、煙道長110cm、煙道幅30cm、支脚高15cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸126cm、短軸77cm、深度10cmを測る。

1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は黄褐色粘性砂質土層、19層褐色粘性土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘質土層、30層は暗褐色粘質土層、31層は褐色粘質土層、32層は黄褐色粘質土層、33層は褐色粘質土層、34層は黄褐色粘質土層、35層は褐色粘質土層、36層は褐色粘質土層、37層はオリーブ褐色砂質土層、38層はオリーブ褐色砂質土層、39層は暗褐色粘質土層、40層はにぶい黄褐色粘質土層、41層はオリーブ褐色粘性砂質土層、42層はオリーブ褐色粘質土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層は黄褐色砂質土層、45層は黄褐色粘性砂質土層である。

## 遺物出土状況

遺物は竈内を中心に出土した。居住区からは石器8のみである。住居廃絶に伴いカタヅケ行為が行われたと推定される。竈支脚は石器7である。竈燃焼部床面直上と、支脚上面より土師器6が出土。土師器6は煙道先端からも出土している。使用状況を反映しているのではなく、住居廃絶時に置かれた可能性も想定できよう。

## 出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3、4は杯身である。土師器5は鉢、6は甕である。石器7は支脚、8は砥石である。杯蓋1、杯身3、4は成形時の粘土接合痕が観察される。鉢5は碗形を呈し、やや造が粗い。甕6は大型長胴甕である。支脚7は砂岩製で、上部に敲打痕が観察される。また、被熱による赤変も観察される。砥石8は砂岩製で、摩滅面と鉄器刃部による擦痕が観察される。鉄器2223-1は不明鉄器で、薄い板状を呈する。鎌の可能性もある。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 174号竪穴式住居（SB7174）（第1439～1450図）

新貝地区、L7、K8グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.13m、深度は30cm、床面積24.54m<sup>2</sup>、内区面積4.67m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-20°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は39層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層はオリーブ褐色砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層は褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色粘性砂質土層、36層はオリーブ褐色粘性砂質土層、37層はオリーブ褐色粘性砂質土層、38層は黄褐色砂質土層、39層は褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.13m、EP2-3間は1.53m、EP3-4間は2.15m、EP4-1間は1.65mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘質土層、5層は褐色粘質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性

砂質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP 2 内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP 3 内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層は黄褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色砂質土層、22層はオリーブ褐色砂質土層である。EP 4 内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅15cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、1層は褐色粘質土層、2層は褐色粘性砂質土層である。

土坑 EK 1 は、住居西壁沿いに構築されている。遺構内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

土坑 EK 2 は、北西隅に構築されている。遺構内覆土は、1層はオリーブ褐色粘質土層、2層はオリーブ褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はオリーブ褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色粘質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅97cm、燃焼部最大幅55cm、支脚-焚口間62.5cm、支脚-奥壁間40cm、煙道長82.5cm、煙道幅32.5cm、支脚高15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸412.5cm、短軸172.5cm、深度34cmを測る。

1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、39層は褐色粘性砂質土層、40層は褐色粘性砂質土層、41層は褐色粘性砂質土層、42層は褐色粘性砂質土層、43層は褐色粘性砂質土層、44層は褐色粘質土層、45層は褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層は褐色粘質土層、50層はにぶい赤褐色粘質

土層（焼土層70%）、51層は褐色粘性砂質土層、52層は褐色粘質土層、53層は黄褐色粘性砂質土層、54層は暗褐色粘性砂質土層、55層は褐色粘性砂質土層、56層は褐色粘質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層は暗褐色粘性砂質土層、59層は褐色粘質土層、60層はにぶい赤褐色粘質土層、61層は褐色粘性砂質土層、62層はオリーブ褐色砂質土層、63層は暗褐色粘性砂質土層、64層はオリーブ褐色砂質土層、65層は褐色砂質土層、66層はオリーブ褐色砂質土層、67層はオリーブ褐色砂質土層、68層は褐色粘質土層、69層は褐色粘質土層、70層は褐色粘質土層、71層は褐色粘性砂質土層、72層は黄褐色粘質土層、73層は褐色砂質土層、74層は褐色砂質土層、75層はオリーブ褐色砂質土層、76層は黄褐色砂質土層、77層は褐色粘性砂質土層、78層はオリーブ褐色砂質土層、79層はオリーブ褐色砂質土層、80層は暗褐色粘性砂質土層、81層は褐色粘性砂質土層、82層は褐色粘質土層、83層は褐色粘性砂質土層、84層は褐色粘性砂質土層、85層は褐色粘性砂質土層、86層は褐色粘質土層、87層は暗褐色粘性砂質土層、88層は褐色粘性砂質土層、89層は褐色粘性砂質土層、90層は褐色粘性砂質土層、91層は赤褐色粘質土層、92層はオリーブ褐色砂質土層である。

#### 遺物出土状況

住居南壁沿いにおいて、石器23、25が覆土上層より出土。EK 1内より石器24が出土。EK 2内より鉄器2224-1が出土。住居北西隅において、須恵器18が床面直上より出土。竈左袖西側において、須恵器1、7が下層より出土。竈右袖東側において、須恵器8、14が床面直上より出土。竈焚き口部において、鉄器2224-2が床面直上より出土。竈燃焼部内において土師器20が床面直上より出土。

#### 出土遺物

須恵器1～5は杯蓋、6～17は杯身、18は提瓶、19は横瓶である。土師器20～22は甕である。石器23、24、25は砥石、25は台石である。杯蓋1、2、4は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身9、10、13は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身11は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕20は球形体部に直立する口辺部を有する小型甕である。砥石23は緑色岩製で、右側縁に鉄器刃部による擦痕が観察される。荒砥石である。砥石24は緑色岩製で、右側縁に鉄器刃部による擦痕が観察される。荒砥石である。敲石からの転用品である。砥石25は凝灰岩製で、摩滅面や鉄器刃部による擦痕が観察される。仕上げ砥石である。台石26は結晶片岩製である。鉄器2224-1は穂摘み具である。やや内湾する刃部と木柄が確認される。鉄器2224-2は鉄鏃である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

#### 175号竪穴式住居（SB7175）（第1451～1458図）

新貝地区、D6、E7グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.38m、深度は28cm、床面積12.02m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-12°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は12層に分層できる。1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘質土層、6層はオリーブ褐色粘質土層、7層

は褐色粘質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

#### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.25m、EP2-3間は1.65m、EP3-4間は1.14m、EP4-1間は1.88mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は褐色粘質土層、5層は褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層である。

#### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-11°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅102cm、燃烧部最大幅55cm、支脚-焚口間38cm、支脚-奥壁間17cm、煙道長21cm、煙道幅43cm、支脚高20cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸143cm、短軸99cm、深度21cmを測る。

2層は黄褐色粘質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ粘性砂質土層、13層オリーブ褐色粘質土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層は褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘質土層、27層は明褐色粘質土層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は褐色砂質土層、31層は褐色砂質土層、32層は褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘質土層である。

#### 遺物出土状況

遺物は竈を中心に出土した。竈内燃烧部において、床面直上より土師器4が集中して出土。竈右袖東側において、須恵器1が床面直上より出土。竈左袖西側において、須恵器2が床面直上より出土。

#### 出土遺物

須恵器1は杯蓋、2は壺、3は甕である。土師器4は甕である。石器5は紡錘車、6は敲石である。杯蓋1は成形時の粘土接合痕が観察される。壺2は、外面にはイタナデ痕跡が残る。甕4は大型長胴甕である。紡錘車5は結晶片岩製で、上下、側面に鋸歯文が線刻されている。使用による摩滅痕が観察される。敲石6は砂岩製である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 176号竪穴式住居 (SB7176) (第1459～1464図)

新貝地区、D8、E9グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.05m、床面積15.07m<sup>2</sup>、内区面積4.38m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-13°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は16層に分層できる。1層は褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層は褐色粘質土層、12層は褐色粘質土層、13層は褐色粘質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層、15層は褐色粘質土層、16層は褐色粘質土層である。

### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.08m、EP2-3間は1.75m、EP3-4間は1.45m、EP4-1間は1.9mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層にぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層は褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層である。

### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅95cm、燃烧部最大幅36cm、支脚-焚口間32cm、支脚-奥壁間16cm、煙道長98cm、煙道幅80cm、支脚高12cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸145cm、短軸145cm、深度7cmを測る。

9層は褐色粘質土層、16層は褐色粘質土層、17層は褐色粘質土層、18層は褐色粘質土層、19層は褐色粘質土層、20層は暗褐色粘質土層、21層は褐色焼土層、22層は暗褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘質土層、24層暗褐色粘質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘質土層、28層は褐色粘質土層、29層は黄褐色粘質土層、30層は黄褐色粘質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層は褐色粘性砂質土層である。

### 遺物出土状況

竈燃烧部内において、土師器2が床面直上より出土。居住区内からは土器小片のみの出土である。

### 出土遺物

須恵器1は甕である。土師器2は甕である。甕2は長胴甕の丸底底部である。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅴ段階である。

## 177号竪穴式住居（SB7177）（第1465～1471図）

新貝地区、J9、K10グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.35m、深度は48cm、床面積14.51m<sup>2</sup>、内区面積3.69m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-12°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層はオリーブ褐色砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層は褐色砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色砂質土層、29層は褐色砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.55m、EP2-3間は1.18m、EP3-4間は1.6m、EP4-1間は1.4mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は黄褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は褐色粘質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層である。

周壁溝は幅45cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。



## 竈

竈は北辺中央部において検出された。中央部を古代 SP により削平されている。主軸方位は N-10°-E を測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅66cm、燃焼部最大幅51cm、煙道長90cm、煙道幅31cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は、3層は褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘質土層、33層はにぶい黄褐色粘質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘質土層、36層は褐色焼土層、37層は褐色焼土層、38層は褐色粘性砂質土層、39層は黄褐色粘質土層、40層は黄褐色粘性砂質土層、41層は褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘質土層、43層は褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層は明褐色粘性砂質土層、46層は褐色粘性砂質土層、47層は褐色粘性砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層は褐色粘質土層、50層は褐色粘性砂質土層、51層はオリーブ褐色粘性砂質土層、52層はにぶい黄褐色粘質土層、53層はにぶい黄褐色粘質土層である。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸165cm、短軸110cm、深度13cmを測る。

## 遺物出土状況

EP 2 南側において、須恵器 1 が床面直上より出土。

## 出土遺物

須恵器 1 は杯身で、成形時の粘土接合痕が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相 V 段階である。

## 178号竪穴式住居 (SB7178) (第1472~1477図)

新貝地区、B 9、C10グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は1.23m、深度は23cm、残存床面積4.7m<sup>2</sup>、住居主軸方位は N-0°-E を測る。小型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は21層に分層できる。1層は暗褐色砂質土層、2層は暗褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は暗褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は赤褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は黒褐色砂質土層、12層は赤褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黒褐色砂質土層、17層は褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層、20層はオリーブ褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位は N-0°-E を測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅54cm、燃焼部最大幅34cm、支脚-焚口間40cm、支脚-奥壁間28cm、煙道長65cm、煙道幅34cm、支脚高30cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸149cm、短軸106cm、深度13cmを測る。

2層は暗褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は赤褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は黒褐色砂質土層、12層は赤褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黒褐色砂質土層、17層は褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層、20層はオリーブ褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層はにぶい赤褐色砂質土層、23層は黒褐色砂質土層、24層はオリーブ褐色砂質土層である。

#### 遺物出土状況

竈内燃烧部床面直上より土師器1、2が出土。

#### 出土遺物

土師器1、2は甕である。甕1、2は長胴甕である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

#### 179号竪穴式住居（SB7189）（第1478～1481図）

新貝地区、I13、J14グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.53m、深度は50cm、床面積12.27m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-63°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は11層に分層できる。1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい赤褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は黒褐色砂質土層、7層はにぶい褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層である。

#### 竈

竈は西辺中央部において検出された。主軸方位はN-66°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅68cm、燃烧部最大幅86cm、煙道長79cm、煙道幅30cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は、1層は褐色砂質土層、4層はにぶい赤褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は黒褐色砂質土層、7層はにぶい赤褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層、14層は黄褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層は褐色砂質土層、17層はにぶい赤褐色砂質土層、18層はにぶい赤褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層は褐色砂質土層、22層はにぶい赤褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸187.5cm、短軸162.5cm、深度12.5cmを測る。

#### 遺物出土状況

竈燃烧部内において、土師器1、2、3が床面直上より出土。

## 出土遺物

土師器 1、2、3 は甕である。甕 1 は小型甕である。甕 2、3 は長胴甕である。甕 2、3 は同一個体の可能性がある。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

## 180号竪穴式住居 (SB7180) (第1482～1489図)

新貝地区、C13、D14グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は2.58m、深度は18cm、床面積12.74㎡、内区面積4.06㎡、住居主軸方位はN-11°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は5層に分層できる。1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は1.9mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色シルト層、2層は黄褐色シルト層、3層は褐色砂質層、4層はのび黄褐色シルト層である。EP2内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにび黄褐色砂質土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅95cm、燃焼部最大幅42cm、支脚-焚口間45cm、支脚-奥壁間37cm、煙道長13cm、煙道幅45cm、支脚高15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質層、4層はオリーブ褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層はにび赤褐色砂質土層、9層はにび赤褐色砂質土層、10層は黒褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層、14層はにび黄褐色砂質土層、15層はにび赤褐色砂質土層、16層は褐色砂質土層、17層はにび黄褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層は褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層は褐色砂質土層、22層は褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層は褐色砂質土層、25層は褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸127cm、短軸92cm、深度5cmを測る。

## 遺物出土状況

竈燃焼部内において、土師器 2、3 が床面直上より出土。居住区からの遺物出土はない。

## 出土遺物

須恵器 1 は杯蓋である。土師器 2、3 は甕である。甕 2 は大型長胴甕である。甕 3 は中型長胴甕である。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅴ段階である。

## 181号竪穴式住居（SB7181）（第1490～1498図）

新貝地区、L2、M1グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.78m、深度は50cm、床面積14.82m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-3°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は9層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色～褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9層は褐色砂質土層である。

### 柱穴・周壁溝

土坑EK1は、北東隅において検出された。遺構内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。

### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-10°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅90cm、燃焼部最大幅54cm、支脚-焚口間60cm、支脚-奥壁間23cm、煙道長55cm、煙道幅52cm、支脚高17cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

2層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色～褐色砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色～褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色～褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層はにぶい赤褐色砂質土層、19層は黄褐色砂質土層、20層は黄褐色砂質土層、21層はオリーブ褐色砂質土層、22層は褐色～黄褐色砂質土層、23層はオリーブ褐色砂質土層、24層は褐色砂質土層、25層はオリーブ褐色砂質土層、26層はオリーブ褐色砂質土層、27層は褐色砂質土層、28層はにぶい黄橙色砂質土層、29層はにぶい黄褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色砂質土層、31層は褐色砂質土層、32層は赤褐色～明褐色砂質土層、33層はにぶい赤褐色砂質土層、34層は褐色砂質土層、35層は赤褐色～明褐色砂質土層、36層はにぶい黄褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色砂質土層、38層は褐色砂質土層、39層はにぶい黄褐色～褐色砂質土層、40層はにぶい黄褐色砂質土層、41層は黄褐色砂質土層、42層は黄褐色砂質土層、43層はにぶい黄褐色砂質土層、44層はにぶい黄褐色砂質土層、45層は明黄褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色砂質土層、47層は黄褐色砂質土層、48層は黄褐色砂質土層、49層は黄褐色砂質土層、50層はにぶい黄橙色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸132cm、短軸119cm、深度8cmを測る。

### 遺物出土状況

竈内燃焼部において、土師器3が床面直上より出土。住居南側において、土師器3が下層より出土。住居南西隅において、石器4が床面直上より出土。EK1内より土師器甕片や須恵器甕片や結晶片岩礫が出土しているが、図化できない。

### 出土遺物

土師器1は甕である。土師器2、3は甑である。石器4は敲石である。甕1は長胴甕である。甑2、3はつつぬけ底部と推定される。敲石4は結晶片岩製で、右側縁に敲打痕や剥離痕が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

### 183号竪穴式住居 (SB7183) (第1499～1501図)

新貝地区、N9、O10グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は45cm、床面積3.9m<sup>2</sup>を測る。中型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は6層に分層できる。1層はオリーブ褐色砂質粘土層、2層はにぶい黄褐色砂質粘土層、3層は褐色砂質粘土層、4層は黄褐色砂質粘土層、5層はオリーブ褐色砂質粘土層、6層は黄褐色砂質土層である。

#### 遺物出土状況

中層より炭化材や炭化物層・焼土層が検出された。焼失住居の可能性はある。遺物は中層～上層にかけて出土しており、埋没過程に伴う一群である。

#### 出土遺物

須恵器1、2は杯蓋である。杯蓋1はヘラ記号が施されている。また、成形時の粘土接合痕が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

### 184号竪穴式住居 (SB7184) (第1502～1511図)

新貝地区、L9、M9グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

#### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.45m、深度は55cm、床面積32.22m<sup>2</sup>、内区面積7.43m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-15°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

#### 土層

遺構内覆土は32分層にできる。1層はにぶい黄褐色砂質粘土層、2層はにぶい黄褐色砂質粘土層、3層はにぶい黄褐色砂質粘土層、4層は暗褐色砂質粘土層、5層は暗褐色砂質粘土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はオリーブ褐色砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層、12層はオリーブ褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層、16層はオリーブ褐色砂質土層、17層はオリーブ褐色砂質土層、18層はにぶい黄褐色砂質粘土層、19層はオリーブ褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層は暗褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色砂質土層、31層はにぶい赤褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は5基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.7m、EP2-3間は2.38m、EP3-4間は2.05m、EP4-1間は2.3mを測る。EP1～5内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質粘土層、2層はにぶい黄褐色砂質粘土層、3層はにぶい黄褐色砂質粘土層、4層は暗褐色砂質土層、5層は暗褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層である。

土坑EK1は、内区中央に構築されている。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質粘土層、2層はにぶい黄褐色砂質粘土層である。

土坑EK2は、住居南壁沿いに構築されている。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質粘土層、2層はにぶい黄褐色砂質粘土層、3層はにぶい黄褐色砂質粘土層である。

## 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。燃烧部および煙道部が検出された。煙道長19cm、煙道幅42cm、支脚高18cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質粘土層、2層はオリーブ褐色砂質粘土層、5層は暗褐色砂質土層、17層はオリーブ褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層は暗褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色砂質土層、31層はにぶい赤褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色砂質土層、33層はにぶい赤褐色砂質土層、34層は黄褐色砂質土層、35層は褐色砂質土層、36層は褐色砂質土層、37層は褐色砂質土層、38層はにぶい黄褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸112cm、短軸76cm、深度20cmを測る。

## 遺物出土状況

住居覆土中層より焼土層や炭化物が検出された。焼失住居である。床面から炭化物までの間からは遺物は出土していない。床面直上遺物群は、竈燃烧部出土遺物のみである。恐らく、住居廃絶時にカタツケ行為が行われ、さらに被火したものと考えられる。居住区出土遺物は、埋没過程に伴う一群である。

竈燃烧部からは土師器26、27が出土。両遺物のみがカタツケ行為前の遺物群である。土師器27は支脚に転用されている。

## 出土遺物

須恵器1～15は杯蓋、16～19は杯身、20～22は椀（杯身）、23は椀、24は有蓋高杯、25は壺である。土師器26～28は甕、29は甕、30は高杯である。杯蓋1、3、5、7、杯身18は成形時の粘土接合痕が観察される。杯蓋1は内面に当て具痕跡が残る。杯蓋3は外面に補修痕が観察される。杯蓋6は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身19は口縁端部に打ち欠きが施されている。内面には当て具痕跡が残る。有蓋高杯24は脚接合部に「設定技法」の沈線が施されている。甕26～28は長胴甕である。甕27は過半部欠損後に支脚として転用されている。甕29は小型甕である。高杯30は柱状脚部が特徴である。鉄器225-1は棒状鉄器で、鉄滓が付着する。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 185号竪穴式住居（SB7185）（第1512～1521図）

新貝地区、N5、O6グリッドにて検出。東側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

### 形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は6.85m、深度は50cm、床面積48.26m<sup>2</sup>、内区面積10.05m<sup>2</sup>、住居主軸方位はN-5°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

### 土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質粘土層、2層はオリーブ褐色砂質粘土層、3層はにぶい黄褐色砂質粘土層、4層はにぶい黄褐色砂質粘土層、5層はにぶい黄褐色砂質粘土層、6層はにぶい黄褐色砂質粘土層、7層はオリーブ褐色砂質粘土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は灰黄褐色砂質粘土層である。

### 柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.4m、EP2-3間は2.8m、EP3-4間は2.35m、EP4-1間は2.55mを測る。EP1、3内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質粘土層、3層は褐色砂質粘土層、4層は褐色砂質粘土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質粘土層、3層は褐色砂質粘土層、4層は褐色砂質粘土層、5層は黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質粘土層、3層は暗灰黄砂質粘土層、4層は褐色砂質粘土層である。

周壁溝は幅30cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝と南壁間には約135cmの空間がある。周壁構内外の遺物に時期差は認められないことから、拡大が行われたものと推定される。その際、竈、柱穴は既存遺構を使用したものと考えられる。

### 竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅105cm、燃焼部最大幅73cm、支脚-焚口間39cm、支脚-奥壁間45cm、煙道長92cm、煙道幅34cm、支脚高23cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

3層はにぶい黄褐色砂質粘土層、5層はにぶい黄褐色砂質粘土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黄褐色砂質土層、16層は赤褐色砂質土層、17層はオリーブ褐色砂質土層、18層は黄褐色砂質土層、19層は褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層は黄褐色砂質土層、22層は暗褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層は褐色砂質土層、25層は黄褐色砂質土層、26層は暗褐色砂質土層、27層は褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層はにぶい黄褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色砂質土層、31層は褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色砂質土層、33層は黄褐色砂質土層、34層はオリーブ褐色砂質粘土、35層は黄褐色砂質土層、36層は褐色砂質土層、37層は黄褐色砂質土層、38層は褐色砂質土層、39層はにぶい黄褐色砂質土層、40層は褐色砂質土層、41層はにぶい黄褐色砂質土層、42層はにぶい黄褐色砂質土層、43層は褐色砂質土層、44層はにぶい黄褐色砂質土層、45層は褐色砂質土層、46層はにぶい黄褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸116cm、短軸110cm、深度31cmを測る。

## 遺物出土状況

竈燃焼部において、土師器21、22、24、28、29が下層より出土。竈右袖東側において、土師器26が床面からやや浮いた状態で出土。竈左袖西側において、須恵器13が床面直上より出土。竈焚き口部において、土師器26が床面直上より出土。竈西側において、須恵器1と石器34が床面よりやや浮いた状態で出土。住居北東隅において、須恵器17が床面直上より出土。内区中央において、須恵器20、土師器25、27が床面直上より出土。住居南西隅において、須恵器3、10、11、土師器30、31、石器33が下層より出土。竈前面に広がる焼土層と灰層は、竈からの掻き出しである。鉄滓35が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

## 出土遺物

須恵器1～7は杯蓋、8～12は杯身、13～16は盃、17は台付長頸壺、18は横瓶、19は提瓶、20は甕である。土師器21～29は甕、30、31は甗である。石器32、33、34は敲石である。杯蓋3はヘラ記号が施されている。杯身12は口縁端部に打ち欠きが施されている。台付長頸壺17は3方向の円形透かしが施されている。甕21、23、24、25は長胴甕である。甕22は球形体部の小型甕である。甗30、31はつつぬけ底部である。敲石32、33、34は砂岩製である。鉄器2226-1は曲刃鎌である。左側基部に折り返しと木柄が観察される。

## 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

## 186号竪穴式住居（SB7186）（第1522～1530図）

馬のシャクリ地区、T14、A2グリッドにて検出。東側微高地の南西北側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.4mを測る。東群集落に属する。

## 形態・規模

平面形態は方形を呈する。直交軸長は5.95m、推定床面積35.4m<sup>2</sup>を測る。大型の竪穴式住居である。

## 土層

遺構内覆土は、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層である。

## 柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は2.95mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅15cm、深度5cmを測る。遺構内覆土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は、住居南壁沿いに構築されている。遺構内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層



である。

#### 遺物出土状況

住居覆土下層より、焼土層や炭化材が検出された。焼失住居と推定される。EP 1 東側において、須恵器 7 が中層より出土。EP 1 南西において、須恵器10、16、18、26、27が上層より出土。EK 1 内上面において須恵器11が出土。EK 1 北側において、須恵器 2、15、16、13、土師器28が中・上層より出土。EP 2 北東側において、須恵器17、25、土師器29が中層より出土。須恵器24が床面直上より出土。

#### 出土遺物

須恵器 1～9 は杯蓋、10～22は杯身、23は壺、24は短頸壺、25、27は甕、26は横瓶である。土師器28は甕、29は甗である。石器30、31は敲石である。杯蓋 1 はヘラ記号が施されている。杯蓋 1、5、7は成形時の粘土接合痕が観察される。杯身17、20、壺23は成形時の粘土接合痕が観察される。甕28は布留甕の特徴を残す。甗29はつつぬけ底部と推定される。敲石30は結晶片岩製である。敲石31は砂岩製である。

#### 時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

### ③土坑（第1531～1537図）

古墳時代の遺構面で検出された、および古墳時代に属すると推定される土坑（SK）は、総計738基を数える。その内訳は、池田地区は1基（SK7001）、大船渡地区は0基、鳥井地区は48基（SK7002～7049）、大坪地区は36基（SK7050～7085）、横田地区は40基（SK7086～7125）、カワラケメン地区は8基（SK7126～7133）、馬のシャクリ地区は113基（SK7134～7246）、松吉地区は254基（SK7247～7500）、新貝地区は238基（SK7501～7738）である。

本稿にて事実報告を行うのは、主に図化可能遺物が出土した土坑のみとする。それ以外の土坑に関しては土坑計測一覧表を参照していただきたい。なお、不掲載遺構の図面類は財徳鳥県埋蔵文化財センターにて保管されており、実見可能である。

なお、遺構掲載スケールは1/25に統一されている。また、遺物掲載スケールは須恵器（断面黒色塗りつぶし）および土師器（断面白抜き）は1/3（無印）に、鉄器は2/3（無印）に、鍛冶関連遺物は2/3（無印）に、石器は1/2（無印）と1/3（実測図右下側に●）と2/3（実測図右下側に▲）に、石製品、ガラス製品は1/1（実測図右下側に■）に統一されている。さらに、図中に第IV系国土座標軸を基準に設定した5mグリッドを表記することにより、絶対位置と方位を表示した。なお、図版上位または左側が北となるように編集している。遺構平面図、遺物出土状況図、遺物出土断面図等の、●は土器、▲は石器および石、■は鉄器、□は骨片を示す。

### 19号土坑（SK7019）（第1538図）

鳥井地区、Q2グリッドにて検出。平面形態はほぼ円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は不整逆台形を呈する土坑。長軸72.5cm、短軸68.8cm、深度11.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、1層は褐色シルト質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より石器1が出土。1はサヌカイト剥片である。外縁部に刃部調整は認められない。流れ込みと推定される。

古墳時代後期遺構面（第7遺構面）より検出されたが、縄文時代～弥生時代に属すると推定される。

### 59号土坑（SK7059）（第1539図）

大坪地区、R10グリッドにて検出。平面形態は不整長方形、底面形態は不整長方形、断面形態は三角形を呈する土坑。長軸447.5cm、短軸103.8cm、深度21.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1、2層は褐灰色粘質土層、第3層はにぶい黄褐色シルト土層である。

遺構内より須恵器1が出土。杯蓋口縁端部である。

時期は古墳時代後期である。

### 60号土坑（SK7060）（第1540図）

大坪地区、R10グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸123.8cm、短軸72.5cm、深度3.8cmを測る。遺構内覆土は1層で、灰黄褐色シルト土層である。

遺構内より須恵器1が出土。臑胴部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 69号土坑 (SK7069) (第1541図)

大坪地区、I11グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸503.8cm、残存短軸76.3cm、深度13.8cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することが出来、第1、2、3層は黄褐色粘性砂質土層、第4層は暗灰黄色粘性砂質土層である。

遺構内より石器1が出土。砂岩製敲石である。左右側縁部と下辺部に敲打痕が、上部に剥離痕が観察される。また、図化出来ない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 71号土坑 (SK7071) (第1542図)

大坪地区、K10グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は不明を呈する土坑。長軸221.3cm、短軸131.3cm、深度は不明。遺構内覆土の土質、土色は不明である。

遺構内より土師器1が出土。甕C類上半部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 76号土坑 (SK7076) (第1543図)

大坪地区、L8グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸95.0cm、短軸91.3cm、深度10.0cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層は暗灰黄色粘質土層、第2層は黄灰色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

#### 86号土坑 (SK7086) (第1544図)

横田地区、C19グリッドにて検出。平面形態は隅丸方形、底面形態は隅丸方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸80.0cm、短軸75.0cm、深度18.8cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2層は赤褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 108号土坑 (SK7108) (第1545図)

横田地区、S10グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸56.3cm、短軸50.0cm、深度27.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層はオリーブ褐色砂質土層、第2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。高杯脚部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 121号土坑 (SK7121) (第1546図)

横田地区、A13グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸50.0cm、短軸46.3cm、深度20.0cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層はオリブ褐色粘性砂質土層、第2層はオリブ褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。甕口縁部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 124号土坑 (SK7124) (第1547図)

横田地区、E19グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する。遺構内覆土は3層に分層でき、第1～3層はオリブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2と、鉄滓3が出土。1は杯蓋、1は甕胴部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 128号土坑 (SK7128) (第1549図)

カワラケメン地区、J1グリッドにて検出。平面形態は不整隅丸長方形、底面形態は不整隅丸長方形、断面形態は舟底形を呈する土坑。残存長軸258.8cm、短軸215.0cm、深度6.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1、3層はにぶい黄褐色砂質土層、第2層は灰黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1～4が出土。1、2は高杯脚端部である。2、3は甕である。

時期は古墳時代後期である。

#### 129号土坑 (SK7129) (第1548図)

カワラケメン地区、K1グリッドにて検出。平面形態は不整隅丸長方形、底面形態は不整隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸181.3cm、短軸152.5cm、深度5.0cmを測る。遺構内覆土は5層に分層することが出来、第1、2層はにぶい黄褐色砂質土層、第3層は灰黄褐色砂質土層、第4、5層は褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1～4が出土。1、2は杯蓋、2は椀、4は甕である。

時期は古墳時代後期である。

#### 130号土坑 (SK7130) (第1550図)

カワラケメン地区、K1グリッドにて検出。平面形態は不整隅丸長方形、底面形態は不整隅丸長方形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸127.5cm、短軸120.0cm、深度7.5cmを測る。遺構内覆土は1層で、暗灰黄色砂質土層である。

遺構内より土師器1～3が出土。1は杯、2は甕、3は甕口縁部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 131号土坑 (SK7131) (第1553図)

カワラケメン地区、K18グリッドにて検出。平面形態は不整菱形、底面形態は不整菱形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸236.3cm、短軸195.0cm、深度62.5cmを測る。遺構内覆土は11層に分層するこ

とが出来、第1層は明褐色砂質土層、第2、3、4、5層は灰黄褐色砂質土層、第6、7、8、10層はにぶい黄褐色砂質土層、第9層は褐色砂質土層、第11層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より図化出来ない土器片が出土。9、10層中に炭化材が検出された。

時期は古墳時代後期である。

#### 133号土坑 (SK7133) (第1554図)

カワラケメン地区、K5グリッドにて検出。平面形態はほぼ円形、底面形態はほぼ円形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸183.8cm、短軸181.3cm、深度6.3cmを測る。遺構内覆土は1層で、黄褐色砂質土層である。

遺構内より鉄鎌2227-1が出土。鉄鎌はU字形鋤先の転用品である。

時期は古墳時代後期である。

#### 167号土坑 (SK7167) (第1555図)

馬のシャクリ地区、R8グリッドにて検出。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸182.5cm、短軸102.5cm、深度14.0cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質粘土層、2層はにぶい黄褐色砂質粘土層、3層はにぶい黄褐色砂質粘土層、4層は暗褐色砂質粘土層、5層は暗褐色砂質粘土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1～6、土師器7～9、鉄滓10が出土。1、2は杯蓋、3は杯身、4は椀、5は高杯である。高杯5口縁端部には打ち欠きが施される。6は甕である。7～9は甕である。

時期は古墳時代後期である。

#### 169号土坑 (SK7169) (第1551図)

馬のシャクリ地区、R4グリッドにて検出。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸77.5cm、短軸52.5cm、深度16.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化出来ない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 174号土坑 (SK7174) (第1552図)

馬のシャクリ地区、Q3グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。残存長軸125.1cm、残存短軸102.5cm、深度18.8cmを測る。遺構内覆土は6層に分層することが出来、第1、4、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘質土層、第3層はにぶい黄褐色粘質土層、第6層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化出来ない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 189号土坑 (SK7189) (第1556図)

馬のシャクリ地区、L7グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸378.8cm、短軸286.3cm、深度31.3cmを測る。遺構内覆土は16層に分層することが出来、第1、2、4、5、6、9、11、12、13、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3層は褐色粘質土層、第7、14、16層はオリブ褐色粘性砂質土層、第8層は褐色粘性砂質土層、第10層は褐色砂質土層である。

遺構内より図化出来ない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 206号土坑 (SK7206) (第1557図)

馬のシャクリ地区、S16グリッドにて検出。平面形態は隅丸方形、底面形態は隅丸方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸67.5cm、短軸58.8cm、深度68.8cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することが出来、第1層は褐色粘質土層、第2層はにぶい黄褐色粘質土層、第3層は褐色粘性砂質土層、第4層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 216号土坑 (SK7216) (第1558図)

馬のシャクリ地区、T17グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸337.5cm、残存短軸206.3cm、深度18.8cmを測る。遺構内覆土は19層に分層することが出来、第1、3、11、16、18層は黄褐色砂質土層、第2、17、19層は暗灰黄色砂質土層、第4層は暗オリブ褐色砂質土層、第5、6、7、8、13、15層はオリブ褐色砂質土層、第9、10、12、14は褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2が出土。1、2ともに杯身である。2底部は手持ちヘラ削りが施されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 222号土坑 (SK7222) (第1560図)

馬のシャクリ地区、D19グリッドにて検出。平面形態は隅丸方形、底面形態は隅丸方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸142.5cm、短軸133.8cm、深度22.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層はオリブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2が出土。1は杯身、2は壺である。

時期は古墳時代後期である。

時期は古墳時代後期である。

#### 230号土坑 (SK7230) (第1559図)

馬のシャクリ地区、B7グリッドにて検出。平面形態は不整長方形、底面形態は不整長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸242.5cm、短軸150.0cm、深度3.8cmを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より土師器 1、2 と鉄滓 1 が出土。土師器 1、2 は甕である。  
時期は古墳時代後期である。

#### 237号土坑 (SK7237) (第1562図)

馬のシャクリ地区、B18グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。残存長軸137.5cm、残存短軸106.3cm、深度31.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2、3層は褐色粘性砂質土層である。堅穴住居の可能性もある。

遺構内より土師器 1 が出土。  
時期は古墳時代後期である。

#### 242号土坑 (SK7242) (第1561図)

馬のシャクリ地区、B7グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸105.0cm、短軸101.3cm、深度35.0cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は黄褐色砂質土層、第3層は褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は短頸壺である。  
時期は古墳時代後期である。

#### 246号土坑 (SK7246) (第1563図)

馬のシャクリ地区、D4グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸298.8cm、短軸243.8cm、深度40.0cmを測る。遺構内覆土は9層に分層することが出来、第1、3、4、5、6、7、8、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は杯蓋である。  
時期は古墳時代後期である。

#### 247号土坑 (SK7247) (第1564図)

松吉地区、P2グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。残存長軸140.0cm、短軸106.3cm、深度8.8cmを測る。遺構内覆土は9層に分層することが出来、第1、2、4、5、6、7、8、9層は褐色砂質土層、第3層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器 1、2、石器 3 が出土。1 は杯蓋、2 は提瓶である。3 は砂岩製砥石である。表裏面に鉄器による擦痕が観察される。

時期は古墳時代後期である。

#### 248号土坑 (SK7248) (第1565図)

松吉地区、P2グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸111.3cm、短軸85.0cm、深度17.5cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが

出来、第1、2層はにぶい黄褐色砂質土層、第3層は褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は短頸壺である。

時期は古墳時代後期である。

#### 262号土坑 (SK7262) (第2228図)

松吉地区、I2グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸112.5cm、短軸92.5cm、深度16.3cmを測る。遺構内覆土は11層に分層することが出来、第1、6、9層は黄褐色粘性砂質土層、第2、8層はにぶい黄色粘性砂質土層、第3層は黄褐色粘性砂質土層、第4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第5、10層は黄褐色粘性砂質土層、第7、11層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より鉄器1が出土。1は鉄鏃もしくは鉄剣の先端部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 270号土坑 (SK7270) (第1566図)

松吉地区、H2グリッドにて検出。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸198.8cm、短軸142.5cm、深度22.5cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することが出来、第1、3、4層は褐色粘性砂質土層、第2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身であるが、杯蓋の可能性もある。

時期は古墳時代後期である。

#### 306号土坑 (SK7306) (第2237図)

松吉地区、D1グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸97.5cm、短軸57.5cm、深度16.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より鉄滓1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 313号土坑 (SK7313) (第1568図)

松吉地区、E18グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形を、底面形態は不整楕円形を、断面形態は逆台形を呈する。遺構内覆土は2層に分層することが出来、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。受け部端部に細かい敲打痕（打ち欠き）が施されている。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 337号土坑 (SK7337) (第2238図)

松吉地区、G16グリッドにて検出。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸183.8cm、短軸100.0cm、深度40.0cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することが出来、第



1層は灰黄褐色砂質土層、第2層は褐色砂質土層、第3、4層はにぶい黄褐色粘性砂質である。  
遺構内より鉄滓1、2が出土。  
時期は古墳時代後期である。

#### 341号土坑 (SK7341) (第1571図)

松吉地区、E13にて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸176.3cm、短軸97.5cm、深度10.0cmを測る。遺構内覆土は5層に分層することが出来、第1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2、5層は黄褐色粘性砂質土層、第3層は褐色粘性砂質土層、第4層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。底部外面には赤色顔料が塗布されている。口縁及び受け部には打ち欠きが施されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 342号土坑 (SK7342) (第1572図)

松吉地区、E14グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸106.3cm、短軸75.0cm、深度15.0cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より土師器1、鉄滓2が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 353号土坑 (SK7353) (第1573、1574図)

松吉地区、K13グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整円形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸115.0cm、短軸97.5cm、深度12.5cmを測る。遺構内覆土は7層に分層することが出来、第1層は灰オリーブ色粘性砂質土層、第2、6層はにぶい黄褐色砂質土層、第3層はにぶい黄粘性砂質土層、第4層は灰黄色粘性砂質土層、第5、7層は黄褐色砂質土層である。多数の砂岩礫や結晶片岩礫が土壌内に充填されている。遺物類はこれら礫の間から破碎された状態で出土した。

遺構内より須恵器1～8、石器9が出土。1は甗、2～6は甕、7は横瓶である。

時期は古墳時代後期である。

#### 367号土坑 (SK7367) (第2239図)

松吉地区、L5グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸195.0cm、短軸106.3cm、深度30.0cmを測る。遺構内覆土は10層に分層することが出来、第1、9層は褐色粘性砂質土層、第2、3、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第5、7、8、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第6層は灰色粘性砂質土層である。

遺構内より鉄滓1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 385号土坑 (SK7385) (第1576図)

松吉地区、I10グリッドにて検出。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸130.0cm、短軸103.8cm、深度15.0cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は甕である。頸部から口縁部にかけて赤色顔料が塗布されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 386号土坑 (SK7386) (第1577図)

松吉地区、K20グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸175.0cm、短軸120.0cm、深度12.5cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することが出来、第1、2、3層は黄褐色粘性砂質土層、第4層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2が出土。1は杯蓋、2は杯身である。

時期は古墳時代後期である。

#### 447号土坑 (SK7447) (第1578図)

松吉地区、Q7グリッドにて検出。平面形態は不整長方形、底面形態は不整長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸106.3cm、短軸96.3cm、深度10.0cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は甕である。

時期は古墳時代後期である。

#### 463号土坑 (SK7463) (第1579図)

松吉地区、O8グリッドにて検出。平面形態はほぼ円形、底面形態はほぼ円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸70.0cm、短軸66.3cm、深度25.0cmを測る。遺構内覆土は1層で、黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2が出土。1は甕で、胴部最大径付近にヘラ記号が施されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 479号土坑 (SK7479) (第1580図)

松吉地区、グリッドQ5にて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸240.0cm、短軸220.0cm、深度13.8cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1、2層はにぶい黄褐色砂質土層、第3層は褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2が出土。1、2は杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

#### 482号土坑 (SK7482) (第1581図)

松吉地区、Q6グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は長方形を呈すると推定される土坑。残存長軸97.5cm、残存短軸127.5cm、深度13.8cmを測る。遺構内覆土は3層に分

層することが出来、第1層は褐色砂質土層、第2、3層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。1は杯身もしくは椀である。

時期は古墳時代後期である。

#### 483号土坑 (SK7483) (第1582図)

松吉地区、Q8グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸77.5cm、短軸60.0cm、深度15.0cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層は褐色砂質土層、第2層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。1は甕である。

時期は古墳時代後期である。

#### 505号土坑 (SK7505) (第1583図)

新貝地区、J12グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は不整逆台形を呈する土坑。長軸91.3cm、短軸85.0cm、深度18.8cmを測る。遺構内覆土は5層に分層することが出来、第1、4層は黄褐色粘性砂質土層、第2、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は甕底部付近である。

時期は古墳時代後期である。

#### 507号土坑 (SK7507) (第1584図)

新貝地区、K8グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸150.0cm、短軸135.0cm、深度26.3cmを測る。遺構内覆土は5層に分層することが出来るが、土質、土色は不明。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。

時期は古墳時代後期である。

#### 510号土坑 (SK7510) (第1585図)

新貝地区、K8グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態はほぼ逆台形を呈する土坑。残存長軸167.5cm、短軸75.5cm、深度31.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1層は黄褐色粘質土層、第2、3層はオリーブ褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身で、内外面に接合痕(?)が観察される。

時期は古墳時代後期である。

#### 511号土坑 (SK7511) (第1586図)

新貝地区、K8グリッドにて検出。平面形態は楕円形、底面形態は楕円形、断面形態は不整形を呈すると推定される土坑。残存長軸83.8cm、短軸56.3cm、深度22.5cmを測る。遺構内覆土は5層に分層することが出来、第1、3、5層は黄褐色粘質土層、第2、4層はにぶい黄色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。

時期は古墳時代後期である。

#### 512号土坑 (SK7512) (第1587図)

新貝地区、H1グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整円形。断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸62.5cm、短軸52.5cm、深度3.8cmを測る。遺構内覆土は1層で、褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

#### 513号土坑 (SK7513) (第1588図)

新貝地区、L4グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。残存長軸242.5cm、残存短軸122.5cm、深度3.8cmを測る。遺構内覆土は1層で、オリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。

時期は古墳時代後期である。

#### 521号土坑 (SK7521) (第1589図)

新貝地区、L5グリッドにて検出。平面形態は円、底面形態は円、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸97.5cm、短軸92.5cm、深度17.5cmを測る。遺構内覆土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より鉄滓1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 533号土坑 (SK7533) (第1590図)

新貝地区、K7グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸103.8cm、短軸91.3cm、深度33.8cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層は黄褐色粘性砂質土層、第2、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。1は甕底部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 538号土坑 (SK7538) (第1591図)

新貝地区、G4グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸103.8cm、短軸90.0cm、深度27.5cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1、2層はオリーブ褐色粘質土層、第3層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は器台脚端部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 549号土坑 (SK7549) (第1592図)

新貝地区、F4グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸118.8cm、短軸95.0cm、深度33.8cmを測る。遺構内覆土は5層に分層することが

出来、第1層はオリーブ褐色粘質土層、第2、4、5層は黄褐色粘質土層、第3層はにぶい黄色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

#### 556号土坑 (SK7556) (第1593図)

新貝地区、J8グリッドにて検出。平面形態は不整隅丸長方形、底面形態は不整隅丸長方形、断面形態は不整形を呈する土坑。長軸112.5cm、短軸51.3cm、深度は不明。遺構内覆土は4層に分層することが出来、第1、4層は黄褐色粘質土層、第2層は黄褐色粘性砂質土層、第3層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は甕である。

時期は古墳時代後期である。

#### 558号土坑 (SK7558) (第1594図)

新貝地区、I9グリッドにて検出。平面形態は不整形、底面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸198.8cm、短軸128.8cm、深度は不明。遺構内覆土は9層に分層することが出来、第1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2、3、5、7、9層は褐色粘性砂質土層、第4層はにぶい赤色粘性砂質土層、第6、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

#### 562号土坑 (SK7562) (第1595図)

新貝地区、II4グリッドにて検出。平面形態は円形、底面形態は円形、断面形態は逆台形を呈する。遺構内覆土は1層で、オリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は壺である。

時期は古墳時代後期である。

#### 578号土坑 (SK7578) (第1570図)

新貝地区、E7グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸153.8cm、短軸112.5cm、深度26.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層は黄褐色粘質土層、第2層はオリーブ褐色粘質土層である。

遺構内より土器2805、2806が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 600号土坑 (SK7600) (第1596図)

新貝地区、H13グリッドにて検出。平面形態は隅丸三角形、底面形態は隅丸三角形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸60.0cm、短軸48.8cm、深度31.3cmを測る。遺構内覆土は5層に分層することが出来、第1、2、3、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第5層は

黄褐色粘性砂質土層ある。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は杯身底部で、外面にヘラ記号が施されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 610号土坑 (SK7610) (第1597図)

新貝地区、L7グリッドにて検出。平面形態はほぼ円形、底面形態はほぼ円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸142.5cm、短軸132.5cm、深度11.3cmを測る。遺構内覆土は7層に分層することが出来、第1、2、3、5層は黄褐色粘性砂質土層、第4、7層は暗灰黄色粘性砂質土層、第6層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

#### 614号土坑 (SK7614) (第1598図)

新貝地区、L8グリッドにて検出。平面形態は半円形、底面形態は半円形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸97.5cm、短軸46.3cm、深度31.3cmを測る。遺構内覆土は9層に分層することが出来、第1、3層は褐色粘性砂質土層、第2、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第4、6、8、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第7層は黄褐色粘性砂質土層ある。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は甕である。

時期は古墳時代後期である。

#### 728号土坑 (SK7728) (第1600図)

新貝地区、N8グリッドにて検出。平面形態は不整長方形、底面形態は不整長方形、断面形態は浅い箱形を呈する土坑。遺構内覆土は3層に分層することが出来、第1層は黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘性砂質土層、第3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は杯身底部で、ヘラ記号が施されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 729号土坑 (SK7729) (第1602図)

新貝地区、N7グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸68.8cm、短軸65.0cm、深度10.0cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1、2層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は横瓶である。

時期は古墳時代後期である。

#### 732号土坑 (SK7732) (第1601図)

新貝地区、M6グリッドにて検出。平面形態は不整円形、底面形態は不整菱形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸66.3cm、短軸56.3cm、深度12.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層はオリーブ褐色砂質土層、第2層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は大型甕胴部である。  
時期は古墳時代後期である。

#### 733号土坑 (SK7733) (第1603図)

新貝地区、M7グリッドにて検出。平面形態は不整楕円形、底面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸51.0cm、短軸31.3cm、深度17.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することが出来、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より土師器 1、2 が出土。1 は甕、2 は甑である。  
時期は古墳時代後期である。

#### 734号土坑 (SK7734) (第1604図)

新貝地区、N6グリッドにて検出。平面形態は長楕円形、底面形態は長楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。深度10cmを測る。遺構内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器 1 が出土。1 は壺口縁部で、頸部から口縁部にかけて赤色顔料が塗布されている。  
時期は古墳時代後期である。

#### 737号土坑 (SK7737) (第1599図)

新貝地区、M6グリッドにて検出。平面形態は楕円形、底面形態は楕円形、断面形態は不整船底形を呈する土坑。遺構内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より石器 1 が出土。1 は結晶片岩製敲石である。  
時期は古墳時代後期である。

#### ④土壙墓（第1605～1942図）

古墳時代後期の遺構面（第7遺構面）より検出、もしくは古墳時代に属すると推定される土壙墓(ST)は、総計345基検出された。今回「土壙墓」として報告する遺構は、平面形態が隅丸長方形を呈する土坑である。深度は20cm程度の浅いものもあるが、おおむね70cm前後のものが多い。すべての遺構に明確な墓壙であるとの確証はない。しかし、一部の遺構の土層断面観察により木棺状の土層堆積や裏込土状の土層堆積が確認された事により「土壙墓」としての可能性を考える。また、「土壙墓」ではないにしても、その主軸方位も竪穴住居や掘立柱建物に平行もしくは直交する一群が多く、集落構成上において有機的な関連が伺える遺構群である。主に微高地縁辺部や住居群縁辺部より検出される。

なお、遺構掲載スケールは1/25に統一されている。また、遺物掲載スケールは須恵器（断面黒色塗りつぶし）および土師器（断面白抜き）は1/3（無印）に、鉄器は2/3（無印）に、鍛冶関連遺物は2/3（無印）に、石器は1/2（無印）と1/3（実測図右下側に●）と2/3（実測図右下側に▲）に、石製品、ガラス製品は1/1（実測図右下側に■）に統一されている。さらに、図中に第IV系国土座標軸を基準に設定した5mグリッドを表記することにより、絶対位置と方位を表示した。なお、図版上位または左側が北となるように編集している。遺構平面図、遺物出土状況図、遺物出土断面図等の、●は土器、▲は石器および石、■は鉄器、□は骨片を示す。

#### 1号土壙墓（ST7001）（第1611図）

鳥井地区、H14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は122.5cm、深度は20.0cmを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は灰オリーブ色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

#### 2号土壙墓（ST7002）（第1612図）

鳥井地区、H11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は144.4cm、短軸は106.3cm、深度は10.7cmを測る。主軸方位はN-12°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

#### 3号土壙墓（ST7003）（第1613図）

鳥井地区、R2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を



呈する。長軸は168.75cm、短軸は93.75cm、深度は12.5cmを測る。主軸方位はN-37°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層は褐色灰色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

#### 4号土壙墓 (ST7004) (第1615図)

鳥井地区、P1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は167.5cm、短軸は100.0cm、深度は56.25cmを測る。主軸方位はN-83°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 5号土壙墓 (ST7005) (第1614図)

鳥井地区、P20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸108.8cm、短軸71.3cm、深度26.3cmを測る。主軸方位はN-77°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層は黄褐色粘性砂質土層、第2、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。上面より結晶片岩川原石を検出。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 6号土壙墓 (ST7006) (第1616図)

鳥井地区、O4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸160.0cm、短軸78.8cm、深度33.8cmを測る。主軸方位はN-3°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、2層は黄褐色粘性砂質土層、第3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。3層中より結晶片岩川原石を検出。

遺構内より鉄滓1～3が出土。

時期は古墳時代後期である。ただし、中世の可能性もある。

#### 7号土壙墓 (ST7007) (第1617図)

鳥井地区、N20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸203.8cm、短軸92.5cm、深度43.8cmを測る。主軸方位はN-3°-Wを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、第1、3、4、5層は黄褐色粘性砂質土層、第2層は暗灰黄色粘性砂質土層、第6層は灰黄褐色粘性砂質土層、第7層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。3層中より土師

器1が出土。

遺構内より土師器1が出土。土師器1は横転した状態で出土し、ほぼ完形であるが、底部が欠損する。この欠損が破損の因るものか、底部穿孔に因るものかは不明である。甕胴中央部には使用時に竈に固定するための粘(質)土が付着しており、ST内に埋納する前には使用されていたと推定される。

時期は古墳時代後期である。

#### 8号土壙墓 (ST7008) (第1618図)

鳥居地区、N14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は91.25cm、短軸は75.0cm、深度は32.5cmを測る。主軸方位はN-82°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 9号土壙墓 (ST7009) (第1619図)

大坪地区、R10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸126.3cm、短軸26.3cm、深度10.0cmを測る。主軸方位はN-69°-Wを測る。遺構内覆土は6層で、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層である。5、7層は垂直に堆積しており、裏込土の可能性はある。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 10号土壙墓 (ST7010) (第1620図)

大坪地区、I9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は115.0cm、短軸は56.25cm、深度は23.75cmを測る。主軸方位はN-62°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1～3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 11号土壙墓 (ST7011) (第1621図)

大坪地区、G8、H8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は166.25cm、短軸は106.25cm、深度は62.5cmを測る。主軸方位はN-10°-Wを測る。遺構内覆土は10層に分層することができ、1層は暗灰黄色粘質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土

層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

#### 12号土壙墓 (ST7012) (第1622図)

横田地区、C18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は162.5cm、短軸は115.0cmを測る。主軸方位はN-64.5°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

#### 13号土壙墓 (ST7013) (第1623図)

横田地区、D20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は156.3cm、短軸は90.6cm、深度は75.0cmを測る。主軸方位はN-84°-Wを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘質土層、7層は灰白色粘質土層、8層は褐色粘性砂質土層である。7層は基底部裏込土、8層は短側壁側裏込土の可能性もある。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

#### 14号土壙墓 (ST7014) (第1624図)

横田地区、C1、C2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は136.9cm、短軸は111.3cm、深度は67.5cmを測る。主軸方位はN-89.5°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

#### 15号土壙墓 (ST7015) (第1625図)

横田地区、B2、C2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層

堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は127.5cm、短軸は72.5cm、深度は55.6cmを測る。主軸方位はN-11.5°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 16号土壙墓 (ST7016) (第1626図)

横田地区、B1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は171.9cm、短軸は87.5cm、深度は67.5cmを測る。主軸方位はN-69°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層である。4層中より結晶片岩川原石が出土。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 17号土壙墓 (ST7017) (第1627図)

横田地区、A7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は186.3cm、短軸は161.3cm、深度は51.3cmを測る。主軸方位はN-53.5°-Wを測る。遺構内覆土は10層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は灰褐色焼土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘質土層、7層は灰黄色粘質土層、8層は暗灰黄色粘質土層、9層はにぶい黄色粘質土層、10層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 18号土壙墓 (ST7018) (第1628図)

横田地区、T8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は150.0cm、短軸は106.3cm、深度は46.3cmを測る。主軸方位はN-10°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は褐色砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 19号土壙墓 (ST7019) (第1629図)

横田地区、A9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は170.0cm、短軸は113.8cmを測る。主軸方位はN-2°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は灰黄褐色砂質土層である。

遺構内より、須恵器1、土師器2が出土。須恵器1は横瓶胴部である。土師器2は壺口縁である。時期は古墳時代後期である。

### 20号土壙墓 (ST7020) (第1630図)

横田地区、S13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は116.2cm、短軸は82.5cm、深度は35.0cmを測る。主軸方位はN-82°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は灰黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。時期は古墳時代後期と推定される。

### 21号土壙墓 (ST7021) (第1632図)

横田地区、R14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は131.3cm、短軸は83.1cm、深度は54.4cmを測る。主軸方位はN-86°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色焼土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。時期は古墳時代後期と推定される。

### 22号土壙墓 (ST7022) (第1631図)

横田地区、S12、R12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は141.3cm、短軸は76.3cm、深度は45.0cmを測る。主軸方位はN-84.5°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は褐色砂質土層、2層は灰黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。時期は古墳時代後期と推定される。

### 23号土壙墓 (ST7023) (第1633図)

横田地区、B2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状

況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は11.3cm、短軸は70.0cm、深度は41.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 24号土壙墓 (ST7024) (第1634図)

横田地区、B6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸112.5cm、短軸77.5cm、深度23.8cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、2層はにぶい黄褐色砂質土層、第3層はオリブ褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。

時期は古墳時代後期である。

#### 25号土壙墓 (ST7025) (第1635図)

カワラケメン地区、H20、H1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は125.0cm、短軸は63.8cm、深度は37.5cmを測る。主軸方位はN-2.5°-Eを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は暗オリブ褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘土層、4層は褐色粘土層、5層はオリブ褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は暗褐色粘性砂質土層、8はオリブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 26号土壙墓 (ST7026) (第1636図)

カワラケメン地区、G3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は103.8cm、短軸は66.3cm、深度は26.9cmを測る。主軸方位はN-56.5°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリブ褐色粘性砂質土層、2層はオリブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 27号土壙墓 (ST7027) (第1637図)

カワラケメン地区、G2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は125.0cm、短軸は71.3cm、深度は22.5cmを測る。主軸方位はN-68.5°-Eを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層はオリブ褐色粘性砂質土層、2層はオリブ褐色

色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 29号土壙墓 (ST7029) (第1638図)

カワラケメン地区、H4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は141.9cm、短軸は95.0cm、深度は29.4cmを測る。主軸方位はN-89.5°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は暗オリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黒褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 30号土壙墓 (ST7030) (第1639図)

カワラケメン地区、H4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は135.0cm、短軸は70.0cm、深度は16.9cmを測る。主軸方位はN-22°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 31号土壙墓 (ST7031) (第1640図)

カワラケメン地区、H4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は126.9cm、短軸は80.6cm、深度は25.3cmを測る。主軸方位はN-8°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 32号土壙墓 (ST7032) (第1641図)

カワラケメン地区、G4、G3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は105.0cm、短軸は90.0cm、深度は12.5cmを測る。主軸方位はN-6.5°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

### 33号土壙墓 (ST7033) (第1642図)

カワラケメン地区、F4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は189.4cm、短軸は107.5cm、深度は11.3cmを測る。主軸方位はN-40.5°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

### 34号土壙墓 (ST7034) (第1643図)

カワラケメン地区、F4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は152.5cm、短軸は93.8cm、深度は14.4cmを測る。主軸方位はN-40°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

### 35号土壙墓 (ST7035) (第1644図)

カワラケメン地区、E5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は156.3cm、短軸は98.1cm、深度は13.8cmを測る。主軸方位はN-75°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリブ褐色粘性砂質土層、2層はオリブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

### 36号土壙墓 (ST7036) (第1646図)

カワラケメン地区、F7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は116.3cm、短軸は111.3cm、深度は20.0cmを測る。主軸方位はN-2.5°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。



### 37号土壙墓 (ST7037) (第1645図)

カワラケメン地区、F8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は176.3cm、短軸は118.8cm、深度は40.0cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より石器1、2が出土。石器1は結晶片岩製敲石で、側縁部に敲打痕と剥離痕が認められる。石器2は砂岩製敲石である。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

### 38号土壙墓 (ST7038) (第1648図)

カワラケメン地区、F9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は151.3cm、短軸は103.1cm、深度は15.0cmを測る。主軸方位はN-78°-Eを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。

時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

### 39号土壙墓 (ST7039) (第1647図)

カワラケメン地区、E15グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は130.0cm、短軸は91.3cm、深度は43.6cmを測る。主軸方位はN-11°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 40号土壙墓 (ST7040) (第1649図)

カワラケメン地区、E16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は168.8cm、短軸は109.4cm、深度は27.5cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。1層中より結晶片岩割石が出土。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 41号土壙墓 (ST7041) (第1650図)

カワラケメン地区、E7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は140.6cm、短軸は101.3cm、深度は118.8cmを測る。主軸方位はN-25°-Eを測る。遺構内覆土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 42号土壙墓 (ST7042) (第1651図)

カワラケメン地区、F10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は178.8cm、短軸は100.0cm、深度は41.9cmを測る。主軸方位はN-68.5°-Wを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 43号土壙墓 (ST7043) (第1652図)

カワラケメン地区、F10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は161.9cm、短軸は90.0cm、深度は26.9cmを測る。主軸方位はN-76.5°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 44号土壙墓 (ST7044) (第1653図)

カワラケメン地区、E12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は175.0cm、短軸は123.8cm、深度は22.5cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身である。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 45号土壙墓 (ST7045) (第1654図)

カワラケメン地区、E13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態

は方形を呈する。長軸は146.7cm、短軸は120.0cm、深度は35.6cmを測る。主軸方位はN-3.25°-Wを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層は黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はにぶい褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層はにぶい褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 46号土壙墓 (ST7046) (第1655図)

カワラケメン地区、E14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は170.6cm、短軸は100.6cm、深度は18.8cmを測る。主軸方位はN-76°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 47号土壙墓 (ST7047) (第1656図)

カワラケメン地区、E14、D14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は200.0cm、短軸は125.0cm、深度は55.0cmを測る。主軸方位はN-89.5°-Wを測る。遺構内覆土は19層に分層することができ、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は明黄褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層はオリーブ褐色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1～3、土師器4が出土。1は杯蓋、2は杯身、3は平瓶、4は甑である。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 48号土壙墓 (ST7048) (第1657図)

カワラケメン地区、D13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は169.4cm、短軸は106.3cm、深度は25.6cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 49号土壙墓 (ST7049) (第1658図)

カワラケメン地区、D12、E12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は123.8cm、短軸は100.0cm、深度は23.8cmを測る。主軸方位はN-81°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は明黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色焼土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 50号土壙墓 (ST7050) (第1659図)

カワラケメン地区、E12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は183.8cm、短軸は137.5cm、深度は103.8cmを測る。遺構内覆土は10層に分層することができ、1層は黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は明褐色焼土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は褐色粘土層、8層は黄褐色砂質土層、9層は褐色砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 51号土壙墓 (ST7051) (第1660図)

カワラケメン地区、E11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は135.0cm、短軸は95.6cm、深度は74.4cmを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 52号土壙墓 (ST7052) (第1661図)

カワラケメン地区、F6、G6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は132.5cm、短軸は72.5cm、深度は18.8cmを測る。遺構内覆土は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 53号土壙墓 (ST7053) (第1662図)

カワラケメン地区、E4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土

層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸正方形を、底面形態は隅丸正方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は85cm、短軸は72.5cm、深度は17.5cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 54号土壙墓 (ST7054) (第1663図)

カワラケメン地区、H10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸130.0cm、短軸81.3cm、深度46.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 55号土壙墓 (ST7055) (第1664図)

カワラケメン地区、G15グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は186.9cm、短軸は98.8cm、深度は64.4cmを測る。主軸方位はN-14°-Eを測る。遺構内覆土は11層に分層することができ、1層は褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。7層は基底部層、9層は裏込土の可能性が高い。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 56号土壙墓 (ST7056) (第1665図)

カワラケメン地区、H13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は152.5cm、短軸は59.4cm、深度は31.3cmを測る。主軸方位はN-71.5°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は暗オリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はにぶい褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 57号土壙墓 (ST7057) (第1666図)

カワラケメン地区、G12、G13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は210.0cm、短軸は73.8cm、深度は61.3cmを測る。主軸方位はN-71°-Wを測る。遺構内覆土は15層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黒褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。13、15層は裏込土と推定される。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 58号土壙墓 (ST7058) (第1667図)

カワラケメン地区、I7、I8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は141.9cm、短軸は105.0cm、深度は43.8cmを測る。主軸方位はN-14°-Eを測る。遺構内覆土は16層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層である。10層は基底部層、9、11、12層は裏込土と推定される。

遺構内より須恵器1、2が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 59号土壙墓 (ST7059) (第1668図)

カワラケメン地区、G12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は船底形を呈する。長軸は111.9cm、短軸は75.6cm、深度は15.0cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 60号土壙墓 (ST7060) (第1669図)

カワラケメン地区、H9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は楕円形を、底面形態は楕円形を、断面形態は方形を

呈する。長軸は108.1cm、短軸は71.9cm、深度は27.5cmを測る。主軸方位はN-15°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 61号土壙墓 (ST7061) (第1670図)

カワラケメン地区、J8、J9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は125.0cm、短軸は74.4cm、深度は38.8cmを測る。主軸方位はN-80.55°-を測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 62号土壙墓 (ST7062) (第1671図)

カワラケメン地区、I8、J8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整隅丸長方形を、底面形態は不整隅丸長方形を、断面形態は逆台形で、2段堀を呈する。長軸は173.1cm、短軸は111.9cm、深度は72.5cmを測る。主軸方位はN-84°-Wを測る。遺構内覆土は16層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。13~15層は基底部層、9、16層は裏込土と推定される。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 63号土壙墓 (ST7063) (第1672図)

カワラケメン地区、I7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は194.4cm、短軸は123.1cm、深度は55.0cmを測る。主軸方位はN-86°-Wを測る。遺構内覆土は15層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は暗褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は暗褐色粘性砂質土層土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層は明黄褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層である。14、15

層は基底部層、裏込土層である。

遺構内より須恵器 1、2、土師器 3、4 が出土。1 は椀、2 は短頸壺、3、4 は甕である。  
時期は古墳時代後期である。

#### 64号土壙墓 (ST7064) (第1673図)

カワラケメン地区、I4、J4 グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は不整逆台形を呈する。長軸は128.8cm、短軸は71.9cmを測る。主軸方位はN-9.5°-Eを測る。遺構内覆土は見図化であり不明である。

遺構内より須恵器 1、2 が出土。1 は杯蓋、2 は甕である。  
時期は古墳時代中期である。

#### 65号土壙墓 (ST7065) (第1674図)

カワラケメン地区、J4 グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は203.8cm、短軸は90.0cm、深度は38.1cmを測る。主軸方位はN-71°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

#### 66号土壙墓 (ST7066) (第1675図)

カワラケメン地区、J3 グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は140.6cm、短軸は84.4cm、深度は36.9cmを測る。主軸方位はN-78.5°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

#### 67号土壙墓 (ST7067) (第1676図)

カワラケメン地区、J2 グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は147.5cm、短軸は78.1cm、深度は39.4cmを測る。主軸方位はN-67.5°-Wを測る。遺構内覆土は12層に分層することができ、1層はにぶい褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は明黄褐色粘性砂質土層、4層は黒褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層、9層はにぶい



黄橙色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層土層、12層は黄褐色粘性砂質土層である。なお、6～12層はSP覆土と推定される。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 68号土壙墓 (ST7068) (第1678図)

カワラケメン地区、F16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は172.5cm、短軸は不明、深度は87cmを測る。遺構内覆土は11層に分層することができ、1層は明黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 69号土壙墓 (ST7069) (第1677図)

カワラケメン地区、H11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は130cm、短軸は87.5cm、深度は48.8cmを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は明黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層である。6層は裏込土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。4層上面より結晶片岩川原石が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 70号土壙墓 (ST7070) (第1679図)

カワラケメン地区、I9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸方形を、底面形態は隅丸方形を、断面形態は船底形を呈する。長軸は95cm、短軸は77.5cm、深度は22.5cmを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 71号土壙墓 (ST7071) (第1680図)

カワラケメン地区、I7、I8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形

を呈する。長軸は182.5cm、短軸は118.25cm、深度は37.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 72号土壙墓 (ST7072) (第1683図)

馬のシャクリ地区、T17グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は186.3cm、短軸は121.3cm、深度は68.8cmを測る。主軸方位はN-1°-Eを測る。遺構内覆土は25層に分層することができ、1層はにぶい黄橙色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層はにぶい黄橙色粘質土層、6層は褐色粘質土層、7層は明黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層はにぶい黄褐色粘質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層は褐色粘質土層、15層はにぶい黄橙色粘質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。7、8層は木棺痕跡、14、15、16層は基底部層、9～13、17、22～25層は裏込土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 73号土壙墓 (ST7073) (第1684図)

馬のシャクリ地区、Q17グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸103.8cm、短軸62.5cm、深度36.3cmを測る。主軸方位はN-20°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層は褐色砂質土層、第2層はにぶい黄褐色砂質土層、第3層は暗褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 74号土壙墓 (ST7074) (第1685図)

馬のシャクリ地区、P16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸161.3cm、短軸91.3cm、深度41.3cmを測る。主軸方位はN-80°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層はにぶい黄褐色砂質土層、第3層は暗褐色粘性砂質土層、第4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 75号土壙墓 (ST7075) (第1686図)

馬のシャクリ地区、P14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸140.0cm、短軸83.8cm、深度40.0cmを測る。主軸方位はN-85°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1、2、3、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第5層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 76号土壙墓 (ST7076) (第1687図)

馬のシャクリ地区、Q13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸137.5cm、短軸87.5cm、深度47.5cmを測る。主軸方位はN-5°-Eを測る。遺構内覆土は10層に分層することができ、第1、3、5、6、7層は褐色砂質土層、第2、4層はにぶい黄褐色砂質土層、第8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第9層は灰黄褐色粘性砂質土層、第10層は暗褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 77号土壙墓 (ST7077) (第1688図)

馬のシャクリ地区、R12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸157.5cm、短軸90.0cm、深度68.8cmを測る。主軸方位はN-75°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1、3層は褐色粘性砂質土層、第2層は褐色砂質土層、第4、5層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 78号土壙墓 (ST7078) (第1689図)

馬のシャクリ地区、Q14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸137.5cm、短軸87.5cm、深度47.5cmを測る。主軸方位はN-5°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は灰黄色粘質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 79号土壙墓 (ST7079) (第1690図)

馬のシャクリ地区、O18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は157.5cm、短軸は90.0cm、深度は68.8cmを測る。主軸方位はN-75°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 80号土壙墓 (ST7080) (第1691図)

馬のシャクリ地区、L16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は166.25cm、短軸は110.0cm、深度は22.5cmを測る。主軸方位はN-15°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 81号土壙墓 (ST7081) (第1692図)

馬のシャクリ地区、O14、O15グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は112.5cm、短軸は80.0cm、深度は13.75cmを測る。主軸方位はN-62°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 82号土壙墓 (ST7082) (第1693図)

馬のシャクリ地区、N15グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸211.25cm、短軸86.25cm、深度6.25cmを測る。主軸方位はN-51°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層は褐色砂質土層、第3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 84号土壙墓 (ST7084) (第1694図)

馬のシャクリ地区、M14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土

層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸118.8cm、短軸93.8cm、深度8.8cmを測る。主軸方位はN-5°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層はオリブ褐色粘性砂質土層、第2層は褐色砂質土層、第3層は暗灰黄色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 85号土壙墓 (ST7085) (第1695図)

馬のシャクリ地区、O14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は133.75cm、短軸は102.5cm、深度は11.25cmを測る。主軸方位はN-4°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 86号土壙墓 (ST7086) (第1696図)

馬のシャクリ地区、J17グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は不整逆台形を呈する。長軸は122.5cm、短軸は66.25cm、深度は11.25cmを測る。主軸方位はN-28°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 87号土壙墓 (ST7087) (第1697図)

馬のシャクリ地区、K17グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は145.0cm、短軸は91.25cm、深度は11.25cmを測る。主軸方位はN-25°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリブ黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 88号土壙墓 (ST7088) (第1698図)

馬のシャクリ地区、K11、K12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は浅い逆台形を呈する。長軸は180.0cm、短軸は88.75cm、深度は5.0cmを測る。主軸方位はN-36°-Wを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 89号土壙墓 (ST7089) (第1700図)

馬のシャクリ地区、K11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は不明を呈する土坑。長軸138.8cm、短軸90.0cm、深度不明。主軸方位はN-45°-Wを測る。遺構内覆土は1層で、褐色粘性砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 90号土壙墓 (ST7090) (第1701図)

馬のシャクリ地区、O8、O9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は楕円形を、底面形態は楕円形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は96.25cm、短軸は57.5cm、深度は6.25cmを測る。主軸方位はN-80°-Wを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 91号土壙墓 (ST7091) (第1699図)

馬のシャクリ地区、Q8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸151.3cm、短軸52.5cm、深度30.0cmを測る。主軸方位はN-85°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色砂質土層、第3層は褐色粘性砂質土層、第4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 92号土壙墓 (ST7092) (第1699図)

馬のシャクリ地区、P8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸202.5cm、残存短軸95.0cm、深度13.8cmを測る。主軸方位はN-25°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1層はにぶい黄色砂質土層、第2、4層は褐色粘性砂質土層、第3、5層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 93号土壙墓 (ST7093) (第1699図)

馬のシャクリ地区、P8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸112.5cm、短軸64.8cm、深度31.3cmを測る。主軸方位はN-70°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2、3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 94号土壙墓 (ST7094) (第1702図)

馬のシャクリ地区、Q7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整楕円形を、底面形態は不整楕円形を、断面形態は浅いU字形を呈する。長軸は146.25cm、短軸は72.5cm、深度は8.75cmを測る。主軸方位はN-89°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はオリブ黄色粘質土層、3層は暗灰黄色粘質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 95号土壙墓 (ST7095) (第1703図)

馬のシャクリ地区、R7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸170.0cm、短軸93.8cm、深度30.0cmを測る。主軸方位はN-75°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘性砂質土層、第3層は褐色粘質土層、第4層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 96号土壙墓 (ST7096) (第1704図)

馬のシャクリ地区、R7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は107.5cm、短軸は68.75cm、深度は17.5cmを測る。主軸方位はN-82°-Wを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 97号土壙墓 (ST7097) (第1705図)

馬のシャクリ地区、R6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸120.0cm、短軸92.5cm、深度3.1cmを測る。主軸方位はN-70°-Eを測る。遺

構内覆土は2層に分層することができ、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 98号土壙墓 (ST7098) (第1706図)

馬のシャクリ地区、Q6グリッドにて検出。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸175.0cm、短軸102.5cm、深度12.5cmを測る。主軸方位はN-0°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1、2、4層は黄褐色粘性砂質土層、第3層はオリーブ褐色粘質土層、第5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 99号土壙墓 (ST7099) (第1707図)

馬のシャクリ地区、P6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。残存長軸は88.75cm、短軸は67.5cm、深度は11.25cmを測る。主軸方位はN-74°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリーブ黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 100号土壙墓 (ST7100) (第1708図)

馬のシャクリ地区、S4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は不整逆台形を呈する。長軸は113.75cm、短軸は55.0cm、深度は18.75cmを測る。主軸方位はN-78°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 101号土壙墓 (ST7101) (第1709図)

馬のシャクリ地区、R2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸120.0cm、短軸47.5cm、深度30.0cmを測る。主軸方位はN-80°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1層は褐色粘質土層、第2層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。



時期は古墳時代後期と推定される。

#### 102号土壙墓 (ST7102) (第1710図)

馬のシャクリ地区、M10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は111.25cm、短軸は73.75cm、深度は6.25cmを測る。主軸方位はN-70°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 103号土壙墓 (ST7103) (第1711図)

馬のシャクリ地区、N6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は182.5cm、短軸は82.5cm、深度は31.25cmを測る。主軸方位はN-14°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はオリーブ黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 104号土壙墓 (ST7104) (第1714図)

馬のシャクリ地区、M6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸155.0cm、短軸81.3cm、深度31.3cmを測る。主軸方位はN-5°-Eを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、第1、2、4、5、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3、9層はグライ化土層、第6層は褐色粘性砂質土層、第8層は不明である。

遺構内より須恵器1、2、3が出土。1は椀、2は高杯、3が甕である。甕3胴部にはヘラ記号が施されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 105号土壙墓 (ST7105) (第1712図)

馬のシャクリ地区、M5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸148.8cm、短軸111.3cm、深度31.3cmを測る。主軸方位はN-0°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 106号土壙墓 (ST7106) (第1713図)

馬のシャクリ地区、N4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸150.0cm、短軸81.3cm、深度40.0cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2、4層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 107号土壙墓 (ST7107) (第1681図)

馬のシャクリ地区、O12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸146.3cm、短軸105.0cm、深度12.5cmを測る。主軸方位はN-10°-Wを測る。遺構内覆土は12層に分層することができ、第1、3、7、9、10、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘質土層、第4層は褐色砂質土層、第5、6、11層は褐色粘性砂質土層、第8層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 108号土壙墓 (ST7108) (第1699図)

馬のシャクリ地区、P8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸156.3cm、短軸95.0cm、深度72.5cmを測る。主軸方位はN-3°-Wを測る。遺構内覆土は10層に分層することができ、第1、2層は黄褐色粘性砂質土層、第3、4、6層は褐色粘性砂質土層、第5、7、10層は黄褐色砂質土層、第8層はオリーブ褐色砂質土層、第9層は赤褐色炭化物土層である。

遺構内より須恵器1、2、土師器3、4が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 109号土壙墓 (ST7109) (第1682図)

馬のシャクリ地区、T19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は船底形を呈する。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 110号土壙墓 (ST7110) (第1715図)

馬のシャクリ地区、T20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸200.0cm、短軸156.3cm、深度18.8cmを測る。主軸方位はN-85°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1、2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 111号土壙墓 (ST7111) (第1716図)

馬のシャクリ地区、R2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸168.8cm、短軸111.3cm、深度53.8cmを測る。主軸方位はN-74°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、第1、2、4、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3、5層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 112号土壙墓 (ST7112) (第1717図)

馬のシャクリ地区、R1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸167.5cm、短軸118.8cm、深度41.3cmを測る。主軸方位はN-80°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1、2、4、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1、土師器2が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 113号土壙墓 (ST7113) (第1718図)

馬のシャクリ地区、O2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸127.5cm、短軸65.0cm、深度21.3cmを測る。主軸方位はN-30°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1、2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 114号土壙墓 (ST7114) (第1719図)

馬のシャクリ地区、S17グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は115.0cm、短軸は73.75cm、深度は8.75cmを測る。主軸方位はN-82°-

Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は灰褐色粘質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 115号土壙墓 (ST7115) (第1720図)

馬のシャクリ地区、S3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は隅丸長方形を呈する土坑。長軸130.0cm、短軸72.3cm、深度21.3cmを測る。主軸方位はN-80°-Eを測る。遺構内覆土の土質、土色は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 116号土壙墓 (ST7116) (第1721図)

馬のシャクリ地区、S20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態はほぼ長方形、底面形態はほぼ長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸186.3cm、短軸115.0cm、深度37.5cmを測る。主軸方位はN-30°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1、2、3層は灰黄色粘性砂質土層、第4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1～6、土師器7、石器8が出土。1は杯蓋、2、3は杯身、4は壺、5は高杯、6は甕、7は甕、8は結晶片岩製敲石である。2にはヘラ記号が施されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 117号土壙墓 (ST7117) (第1722図)

馬のシャクリ地区、T20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈すると推定される土坑。残存長軸90.0cm、残存短軸76.3cm、深度35.0cmを測る。主軸方位はN-85°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘質土層、第3層はオリーブ褐色砂質土層、第4層は灰黄色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 118号土壙墓 (ST7118) (第1723図)

馬のシャクリ地区、Q19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸146.3cm、短軸85.0cm、深度28.8cmを測る。主軸方位はN-0°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、2、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 119号土壙墓 (ST7119) (第1724図)

馬のシャクリ地区、Q20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸96.3cm、短軸83.8cm、深度17.5cmを測る。主軸方位はN-60°-Eを測る。遺構内覆土は1層で、黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 120号土壙墓 (ST7120) (第1725図)

馬のシャクリ地区、P19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。残存長軸157.5cm、短軸87.5cm、深度31.3cmを測る。主軸方位はN-85°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第3層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 121号土壙墓 (ST7121) (第1726図)

馬のシャクリ地区、P19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸140.0cm、短軸82.5cm、深度41.3cmを測る。主軸方位はN-5°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層はオリーブ褐色砂質土層である。2層は基底部層、3層は裏込土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 122号土壙墓 (ST7122) (第1727図)

馬のシャクリ地区、T14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は75cm、短軸は56.25cm、深度は22.5cmを測る。遺構内覆土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。1は壺である。

時期は古墳時代前期と推定される。

#### 123号土壙墓 (ST7123) (第1728図)

馬のシャクリ地区、B20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土

層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は不整形を呈する。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は浅黄色粘質土層、2層は黄灰色粘質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は浅黄色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 124号土壙墓 (ST7124) (第1729図)

馬のシャクリ地区、D18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。残存長軸135.0cm、短軸108.8cm、深度63.8cmを測る。主軸方位はN-90°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層は黄褐色粘性砂質土層、第2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3層は褐色粘性砂質土層、第4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1～3、土師器4が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 125号土壙墓 (ST7125) (第1730図)

馬のシャクリ地区、C20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸112.5cm、短軸43.8cm、深度26.3cmを測る。主軸方位はN-65°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は横瓶である。

時期は古墳時代後期である。

#### 126号土壙墓 (ST7126) (第1731図)

馬のシャクリ地区、E19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸137.5cm、短軸107.5cm、深度35.0cmを測る。主軸方位はN-25°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、2、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2、土師器3、4が出土。1、2は杯身であるが、2は杯蓋の可能性もある。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 127号土壙墓 (ST7127) (第1732図)

馬のシャクリ地区、C1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整形長方形を、底面形態は不整形長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は141.25cm、短軸は113.75cm、深度は33.75cmを測る。主軸方位はN-87°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 128号土壙墓 (ST7128) (第1733図)

馬のシャクリ地区、C20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸113.8cm、短軸83.8cm、深度32.5cmを測る。主軸方位はN-10°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、2、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 129号土壙墓 (ST7129) (第1734図)

馬のシャクリ地区、C1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・逆台形土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は隅丸長方形を呈する。長軸は187.5cm、短軸は121.45cm、深度は40.0cmを測る。主軸方位はN-2°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ黄色粘質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 130号土壙墓 (ST7130) (第1737図)

馬のシャクリ地区、C20、D20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は235.0cm、短軸は146.25cm、深度は56.25cmを測る。主軸方位はN-1°-Eを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄色砂質土層、3層はオリーブ黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はオリーブ黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 131号土壙墓 (ST7131) (第1741図)

馬のシャクリ地区、C2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸236.3cm、短軸171.3cm、深度85.0cmを測る。主軸方位はN-75°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2、4層は褐色粘性砂質土層、第3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 132号土壙墓 (ST7132) (第1735図)

馬のシャクリ地区、C2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸218.8cm、短軸131.3cm、深度75.0cmを測る。主軸方位はN-90°-Wを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、第1、4、7、8、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は黄褐色粘性砂質土層、第3層は褐色粘性砂質土層、第5層は黄褐色シルト質土層、第6層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 133号土壙墓 (ST7133) (第1736図)

馬のシャクリ地区、C3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸208.8cm、短軸127.5cm、深度82.5cmを測る。主軸方位はN-80°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層は黄褐色粘性砂質土層、第2、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第4層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 134号土壙墓 (ST7134) (第1739図)

馬のシャクリ地区、C3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸228.8cm、短軸112.5cm、深度65.0cmを測る。主軸方位はN-85°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘性砂質土層、第3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1、2が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 135号土壙墓 (ST7135) (第1738図)

馬のシャクリ地区、B3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整隅丸長方形を、底面形態は不整隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は173.5cm、短軸は112.5cm、深度は48.75cmを測る。主軸方位はN-5°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。



#### 136号土壙墓 (ST7136) (第1742図)

馬のシャクリ地区、B3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸127.5cm、短軸81.3cm、深度47.5cmを測る。主軸方位はN-15°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 137号土壙墓 (ST7137) (第1740図)

馬のシャクリ地区、A6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈すると推定される土坑。残存長軸118.8cm、短軸108.8cm、深度26.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 138号土壙墓 (ST7138) (第1743図)

馬のシャクリ地区、B10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。残存長軸は107.5cm、短軸は97.5cm、深度は68.75cmを測る。主軸方位はN-4°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 139号土壙墓 (ST7139) (第1744図)

馬のシャクリ地区、E18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は90cm、短軸は63.79cm、深度は65.0cmを測る。主軸方位はN-7°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は灰黄色粘質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 140号土壙墓 (ST7140) (第1746図)

馬のシャクリ地区、F19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸222.5cm、短軸105.0cm、深度46.3cmを測る。主軸方位はN-60°-Wを測る。

遺構内覆土は8層に分層することができ、第1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3、4、6、7層は褐色粘性砂質土層、第5層は灰黄褐色粘質土層、第8層は暗褐色粘性砂質土層である。7層は基底部、裏込土層である。

遺構内より須恵器1～4、土師器5が出土。2杯身外面には赤色顔料が塗布されている。  
時期は古墳時代後期である。

#### 141号土壙墓 (ST7141) (第1745図)

馬のシャクリ地区、E20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整隅丸長方形を、底面形態は不整隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は140.0cm、短軸は76.3cm、深度は46.3cmを測る。主軸方位はN-5°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。上面より大型結晶片岩川原石が検出された。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

#### 142号土壙墓 (ST7142) (第1747図)

馬のシャクリ地区、C1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は108.75cm、短軸は103.75cm、深度は25.0cmを測る。主軸方位はN-70°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

#### 143号土壙墓 (ST7143) (第1748図)

馬のシャクリ地区、D3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は90.0cm、短軸は58.75cm、深度は46.25cmを測る。主軸方位はN-84°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄橙色砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はオリーブ色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

#### 144号土壙墓 (ST7144) (第1750図)

馬のシャクリ地区、B7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は153.75cm、短軸は115.0cm、深度は47cmを測る。主軸方位はN-12°-Eを測る。

遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は灰黄色粘質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 145号土壙墓 (ST7145) (第1749図)

馬のシャクリ地区、B7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整楕円形を、底面形態は不整楕円形を、断面形態は方形を呈する。長軸は108.75cm、短軸は91.25cm、深度は37.5cmを測る。主軸方位はN-9°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 146号土壙墓 (ST7146) (第1751図)

馬のシャクリ地区、B8、B9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は211.5cm、短軸は115.0cm、深度は56.25cmを測る。主軸方位はN-62°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 147号土壙墓 (ST7147) (第1752図)

馬のシャクリ地区、A9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は210.0cm、短軸は92.0cm、深度は50.0cmを測る。主軸方位はN-51°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 148号土壙墓 (ST7148) (第1753図)

馬のシャクリ地区、T11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸方形を、底面形態は隅丸方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は110.0cm、短軸は92.5cm、深度は45.0cmを測る。主軸方位はN-79°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はオリーブ黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 149号土壙墓 (ST7149) (第1754図)

馬のシャクリ地区、B5、C5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は140.0cm、短軸は100.0cm、深度は73.75cmを測る。主軸方位はN-7°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 150号土壙墓 (ST7150) (第1755図)

馬のシャクリ地区、P2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は船底形を呈する。長軸は170cm、短軸は71.25cm、深度は8.75cmを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 151号土壙墓 (ST7151) (第1756図)

馬のシャクリ地区、P1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長楕円形を、底面形態は長楕円形を、断面形態は船底形を呈する。長軸は127.5cm、短軸は62.5cm、深度は15.0cmを測る。主軸方位はN-65.65°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は灰オリーブ色粘性砂質土層、2層は浅黄色粘質土層、3層は灰オリーブ色粘性砂質土層、4層は暗灰黄色粘性砂質土層、5層は浅黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 152号土壙墓 (ST7152) (第1757図)

松吉地区、J20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は147.5cm、短軸は91.9cm、深度は27.5cmを測る。主軸方位はN-34°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 153号土壙墓 (ST7153) (第1758図)

松吉地区、I19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は143.1cm、短軸は78.8cm、深度は20.6cmを測る。主軸方位はN-9°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はオリーブ黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 154号土壙墓 (ST7154) (第1759図)

松吉地区、H8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は130.0cm、短軸は81.3cm、深度は36.3cmを測る。主軸方位はN-76°-Wを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ砂質土層、5層は灰白色粘性砂質土層、6層は灰オリーブ粘性砂質土層、7層は灰オリーブ粘性砂質土層、8層は灰色粘質土層、9層は灰色粘質土層である。9層は基底部層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 155号土壙墓 (ST7155) (第1760図)

松吉地区、H8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は132.5cm、短軸は96.3cm、深度は16.9cmを測る。主軸方位はN-22°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は灰黄色粘質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 156号土壙墓 (ST7156) (第1762図)

松吉地区、F9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は171.3cm、短軸は108.0cm、深度は29.4cmを測る。主軸方位はN-82°-Wを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄橙色粘性砂質土層

である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 157号土壙墓 (ST7157) (第1763図)

松吉地区、F9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は190.0cm、短軸は95.6cm、深度は50.0cmを測る。主軸方位はN-84°-Wを測る。遺構内覆土は20層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は褐色砂質土層、4層は黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層はにぶい褐色砂質土層、9層はにぶい黄橙色砂質土層、10層はにぶい黄色粘性砂質土層、11層はオリーブ色粘性砂質土層、12層は灰褐色粘質土層、13層は灰黄色粘性砂質土層、14層は黄灰色粘性砂質土層、15層は灰黄色粘性砂質土層、16層は黄灰色粘性砂質土層、17層は灰黄色粘性砂質土層、18層は灰黄色粘性砂質土層、19層は黄灰色粘性砂質土層、20層は黄灰色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 158号土壙墓 (ST7158) (第1765図)

松吉地区、G7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は160.0cm、短軸は89.4cm、深度は22.5cmを測る。主軸方位はN-79.5°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 159号土壙墓 (ST7159) (第1761図)

松吉地区、G7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は128.8cm、短軸は67.5cm、深度は13.1cmを測る。主軸方位はN-8°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 160号土壙墓 (ST7160) (第1764図)

松吉地区、P1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は方形を、底面形態は方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は90.0cm、短軸は75.0cm、深度は15.6cmを測る。主軸方位はN-27°-Eを測る。遺構内覆土は2層

に分層することができ、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 161号土壙墓 (ST7161) (第1770図)

松吉地区、P2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。短軸は61.9cm、深度は20.0cmを測る。主軸方位はN-64°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は灰オリーブ色粘性砂質土層、2層は浅黄色粘質土層、3層は灰オリーブ色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 162号土壙墓 (ST7162) (第1766図)

松吉地区、P2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は162.5cm、短軸は77.5cm、深度は18.8cmを測る。主軸方位はN-25°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 163号土壙墓 (ST7163) (第1767図)

松吉地区、P2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整隅丸長方形を、底面形態は不整隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は130.0cm、短軸は86.3cm、深度は25.0cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 164号土壙墓 (ST7164) (第1768図)

松吉地区、O3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整円形を、底面形態は不整円形を、断面形態は不整逆台形を呈する。長軸は137.8cm、短軸は79.4cm、深度は27.5cmを測る。主軸方位はN-46°-Eを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 165号土壙墓 (ST7165) (第1769図)

松吉地区、O4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は145.0cm、短軸は81.3cm、深度は46.3cmを測る。主軸方位はN-76.45°-Wを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層は暗灰黄色粘性砂質土層、7層は黄灰色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 166号土壙墓 (ST7166) (第1771図)

松吉地区、O4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は152.5cm、短軸は78.8cm、深度は51.3cmを測る。主軸方位はN-74.5°-Wを測る。遺構内覆土は19層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は明黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、12層は浅黄色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は灰黄褐色粘性砂質土層、15層は灰オリーブ色粘性砂質土層、16層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、17層は灰白色粘性砂質土層、18層は灰オリーブ色粘性砂質土層、19層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 167号土壙墓 (ST7167) (第1772図)

松吉地区、F16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は不整逆台形を呈する。長軸は150.0cm、短軸は90.6cm、深度は21.9cmを測る。主軸方位はN-12.55°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 168号土壙墓 (ST7168) (第1773図)

松吉地区、G16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状



況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は163.8cm、短軸は92.5cm、深度は39.4cmを測る。主軸方位はN-20°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 169号土壙墓 (ST7169) (第1774図)

松吉地区、L3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は153.8cm、短軸は82.5cm、深度は73.8cmを測る。主軸方位はN-68.5°-Wを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層は褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層は浅黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は灰オリーブ色粘性砂質土層、9層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 170号土壙墓 (ST7170) (第1776図)

松吉地区、L4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は215.0cm、短軸は106.3cm、深度は51.3cmを測る。主軸方位はN-78°-Wを測る。遺構内覆土は10層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄橙色粘質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 171号土壙墓 (ST7171) (第1775図)

松吉地区、K15、K16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は108.8cm、短軸は79.4cm、深度は41.3cmを測る。主軸方位はN-80°-Wを測る。遺構内覆土は11層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 172号土壙墓 (ST7172) (第1777図)

松吉地区、H20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。残存長軸は126.25cm、残存短軸は76.25cm、深度は21.25cmを測る。主軸方位はN-72°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 175号土壙墓 (ST7175) (第1778図)

松吉地区、F20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は126.3cm、短軸は76.3cm、深度は21.3cmを測る。主軸方位はN-72°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 178号土壙墓 (ST7178) (第1779図)

松吉地区、F18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸115.0cm、短軸78.8cm、深度15.0cmを測る。主軸方位はN-82°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。第2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 179号土壙墓 (ST7179) (第1780図)

松吉地区、F18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸102.5cm、短軸72.5cm、深度28.8cmを測る。主軸方位はN-87°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、第1、2、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第4層は褐色粘性砂質土層、第5、6層は暗褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 180号土壙墓 (ST7180) (第1781図)

松吉地区、E18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸85.0cm、短軸57.5cm、深度18.8cmを測る。主軸方位はN-87°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1、3層は褐色粘性砂質土層、第2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 181号土壙墓 (ST7181) (第1782図)

松吉地区、K14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸120.0cm、短軸71.3cm、深度16.3cmを測る。主軸方位はN-90°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 182号土壙墓 (ST7182) (第1783図)

松吉地区、K13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は110.0cm、短軸は61.3cm、深度は12.5cmを測る。主軸方位はN-22°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 183号土壙墓 (ST7183) (第1784図)

松吉地区、J13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸133.8cm、短軸90.0cm、深度18.8cmを測る。主軸方位はN-47°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 184号土壙墓 (ST7184) (第1786図)

松吉地区、G13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状

況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸205.0cm、短軸125.0cm、深度25.0cmを測る。主軸方位はN-5°-Eを測る。遺構内覆土は19層に分層することができ、第1、7、10、11、15、17、18、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2、4、12、13、14、16層は黄褐色粘性砂質土層で、第3層は灰オリーブ色粘性砂質、第5、8層はオリーブ褐色粘性砂質、第6層は褐色粘性砂質土層、第9層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 185号土壙墓 (ST7185) (第1785図)

松吉地区、F13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸115.0cm、短軸96.3cm、深度17.5cmを測る。主軸方位はN-77°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2、3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 186号土壙墓 (ST7186) (第1787図)

松吉地区、F11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸125.0cm、短軸80.0cm、深度20.0cmを測る。主軸方位はN-90°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。第3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 187号土壙墓 (ST7187) (第1788図)

松吉地区、G10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸125.3cm、短軸76.3cm、深度13.8cmを測る。主軸方位はN-9°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1層は黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 188号土壙墓 (ST7188) (第1790図)

松吉地区、H11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は長方形、断面形態は舟底形を呈する土坑。長軸146.3cm、短軸101.3cm、深度7.5cmを測る。主軸方位はN-49°-Wを測る。遺構内覆土は

10層に分層することができ、第1、5、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第3、10層は褐色粘性砂質土層、第6、9層は黄褐色粘性砂質土層、第8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 189号土壙墓 (ST7189) (第1789図)

松吉地区、L11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。残存長軸は111.3cm、残存短軸は72.5cm、深度は20.0cmを測る。推定主軸方位はN-68°-Wを測る。遺構内覆土は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 190号土壙墓 (ST7190) (第1791図)

松吉地区、L6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸148.8cm、短軸73.8cm、深度46.3cmを測る。主軸方位はN-17°-Eを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、第1、2、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3、4、6層は黄褐色粘性砂質土層、第7層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 191号土壙墓 (ST7191) (第1792図)

松吉地区、K3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸182.5cm、短軸100.0cm、深度21.3cmを測る。主軸方位はN-18°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層は黄褐色粘性砂質土層、第2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3層は褐色粘性砂質土層、第4層は、オリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 192号土壙墓 (ST7192) (第1793図)

松吉地区、H4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は167.5cm、短軸は133.8cm、深度は56.3cmを測る。主軸方位はN-75°-Wを測る。遺構内覆土は14層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性土層、

6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は、オリーブ褐色粘性砂質土層、12層は灰黄色粘質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 193号土壙墓 (ST7193) (第1794図)

松吉地区、J3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸162.5cm、短軸65.0cm、深度18.8cmを測る。主軸方位はN-12°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層は褐色粘性砂質土層、第2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 194号土壙墓 (ST7194) (第1795図)

松吉地区、I1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は152.5cm、短軸は66.3cm、深度は37.5cmを測る。主軸方位はN-20°-Eを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は褐色粘性砂質土層は、7層は黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 195号土壙墓 (ST7195) (第1797図)

松吉地区、G3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸218.8cm、短軸92.5cm、深度28.8cmを測る。主軸方位はN-18°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2層は黄褐色粘性砂質土層、第3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 196号土壙墓 (ST7196) (第1796図)

松吉地区、H20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は127.5cm、短軸は65.0cm、深度は17.5cmを測る。主軸方位はN-38°-Eを測る。遺構

内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 197号土壙墓 (ST7197) (第1798図)

松吉地区、O5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸台形、底面形態は隅丸台形、断面形態は逆台形を呈すると推定される土坑。残存長軸150.0cm、短軸107.5cm、深度23.8cmを測る。遺主軸方位はN-27°-Eを測る。構内覆土は3層に分層することができ、第1、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 198号土壙墓 (ST7198) (第1799図)

松吉地区、Q8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸203.8cm、短軸95.0cm、深度11.3cmを測る。主軸方位はN-64°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 199号土壙墓 (ST7199) (第1800図)

松吉地区、O7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸216.3cm、短軸103.8cm、深度21.3cmを測る。主軸方位はN-80°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1、2、3、4層はにぶい黄褐色砂質土層、第5層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 200号土壙墓 (ST7200) (第1802図)

松吉地区、O8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈すると推定される土坑。残存長軸131.3cm、短軸105.0cm、深度6.3cmを測る。主軸方位はN-78°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期である。

#### 201号土壙墓 (ST7201) (第1801図)

松吉地区、P9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸138.8cm、短軸65.0cm、深度15.0cmを測る。主軸方位はN-84°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1層は黄褐色砂質土層、第2層は褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期である。

#### 202号土壙墓 (ST7202) (第1803図)

松吉地区、Q2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸141.3cm、短軸75.0cm、深度232.8cmを測る。主軸方位はN-83°-Wを測る。遺構内覆土は1層で、褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期である。

#### 203号土壙墓 (ST7203) (第1804図)

松吉地区、P10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は152.5cm、短軸は77.5cm、深度は11cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

#### 204号土壙墓 (ST7204) (第1805図)

松吉地区、P10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は191.3cm、短軸は105cm、深度は21.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

#### 205号土壙墓 (ST7205) (第1806図)

松吉地区、O11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を



呈する。長軸は155cm、短軸は78.8cm、深度は52.5cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層である。遺構内より須恵器1、2が出土。時期は古墳時代後期と推定される。

#### 206号土壙墓 (ST7206) (第1807図)

松吉地区、O14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は177.5cm、短軸は90cm、深度は6.25cmを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。遺構内より図化できない土器片が出土。時期は古墳時代後期と推定される。

#### 207号土壙墓 (ST7207) (第1808図)

松吉地区、Q8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。短軸は98cm、深度は18.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層である。遺構内より図化できない土器片が出土。時期は古墳時代後期と推定される。

#### 209号土壙墓 (ST7209) (第1809図)

松吉地区、O19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態はほぼ逆台形を呈する土坑。長軸130.0cm、短軸77.5cm、深度16.3cmを測る。主軸方位はN-88°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1、2層はオリーブ褐色砂質土層である。遺構内より図化できない土器片が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 210号土壙墓 (ST7210) (第1810図)

松吉地区、M19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態はほぼ逆台形を呈する土坑。長軸200.0cm、短軸112.5cm、深度18.8cmを測る。主軸方位はN-9°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1、2層はオリーブ褐色砂質土層である。遺構内より須恵器1が出土。1は杯蓋で、内面天井部に当て具痕を有する。時期は古墳時代後期である。

#### 211号土壙墓 (ST7211) (第1812図)

松吉地区、L19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状

況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。残存長軸110.0cm、残存短軸95.0cm、深度10.0cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片と鉄滓1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 212号土壙墓 (ST7212) (第1811図)

松吉地区、グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈すると推定される土坑。残存長軸110.0cm、短軸95.0cm、深度10.0cmを測る。主軸方位はN-83°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2層は暗褐色砂質土層、第3層は褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 213号土壙墓 (ST7213) (第1813図)

松吉地区、Q11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は106.3cm、短軸は123.8cm、深度は66.3cmを測る。主軸方位はN-70°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 214号土壙墓 (ST7214) (第1814図)

松吉地区、O7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸172.5cm、短軸77.5cm、深度18.8cmを測る。主軸方位はN-86°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2、4層はオリーブ褐色砂質土層、第3層は暗灰黄色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 215号土壙墓 (ST7215) (第1815図)

松吉地区、P6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸150.0cm、短軸90.0cm、深度31.3cmを測る。主軸方位はN-70°-Wを測る。遺構内覆

土は3層に分層することができ、第1層はオリーブ褐色砂質土層、第2層は褐色砂質土層、第3層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身で、底部にヘラ記号が施されている。

時期は古墳時代後期である。

#### 216号土壙墓 (ST7216) (第1816図)

新貝地区、L5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態はほぼ逆台形を呈する土坑。長軸118.8cm、短軸66.3cm、深度25.0cmを測る。主軸方位はN-79°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、第1層はオリーブ褐色粘質土層、第2層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 217号土壙墓 (ST7217) (第1817図)

新貝地区、J7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸196.3cm、短軸121.3cm、深度55.0cmを測る。主軸方位はN-9°-Eを測る。遺構内覆土は13層に分層することができ、第1、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘性砂質土層、第4、6、11、13層は黄褐色粘性砂質土層、第5、7、8、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第10層は暗灰黄色粘性砂質土層、第12層は灰黄色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1～5が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 218号土壙墓 (ST7218) (第1818図)

新貝地区、H6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は156.3cm、短軸は77.5cm、深度は73.8cmを測る。主軸方位はN-8°-Eを測る。遺構内覆土は10層に分層することができ、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層は暗灰黄色粘性砂質土層、7層は黄灰色粘性砂質土層、8層は暗灰黄色粘性砂質土層、9層は灰オリーブ色粘性砂質土層、10層は浅黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 219号土壙墓 (ST7219) (第1819図)

新貝地区、F4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈すると推定される土坑。残存長軸77.5cm、短軸67.5cm、深度33.8cmを測る。主軸方位はN-69°-Wを測る。遺

構内覆土は4層に分層することができ、第1、2層は黄褐色粘質土層、第3層はオリーブ褐色粘質土層、第4層はにぶい黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 220号土壙墓 (ST7220) (第1820図)

新貝地区、E4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。残存長軸122.5cm、短軸117.5cm、深度65.0cmを測る。主軸方位はN-16°-Eを測る。遺構内覆土は17層に分層することができ、第1、2、5、6、9、14、15、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第3、4、7、8、10、11、12、13、17層は褐色粘性砂質土層である。15、16、17層は基底部層、12、13は裏込土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 221号土壙墓 (ST7221) (第1821図)

新貝地区、I7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸147.5cm、短軸102.5cm、深度31.2cmを測る。主軸方位はN-9°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、2層は褐色粘性砂質土層、第3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 222号土壙墓 (ST7222) (第1822図)

新貝地区、F5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は140.0cm、短軸は78.8cm、深度は26.3cmを測る。主軸方位はN-82°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 223号土壙墓 (ST7223) (第1823図)

新貝地区、L5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は190.0cm、短軸は81.3cm、深度は31.3cmを測る。主軸方位はN-72°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶ

い黄色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 224号土壙墓 (ST7224) (第1824図)

新貝地区、H8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は不整楕円形を、断面形態は方形を呈する。長軸は106.3cm、短軸は68.8cm、深度は41.3cmを測る。主軸方位はN-9°-Eを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 225号土壙墓 (ST7225) (第1825図)

新貝地区、E8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸108.8cm、短軸77.5cm、深度30.0cmを測る。主軸方位はN-71°-Wを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、第1、3、4、5、6、7層は黄褐色粘質土層、第2層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 226号土壙墓 (ST7226) (第1826図)

新貝地区、D8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は177.5cm、短軸は83.8cm、深度は15.0cmを測る。主軸方位はN-12°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 228号土壙墓 (ST7228) (第1827図)

新貝地区、E12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は150.0cm、短軸は76.3cm、深度は18.8cmを測る。主軸方位はN-16°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 229号土壙墓 (ST7229) (第1829図)

新貝地区、J15グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は207.5cm、短軸は92.5cm、深度は26.3cmを測る。主軸方位はN-85°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 230号土壙墓 (ST7230) (第1828図)

新貝地区、G13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は103.8cm、短軸は61.3cm、深度は20.0cmを測る。主軸方位はN-18°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 231号土壙墓 (ST7231) (第1830図)

新貝地区、F14、G14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は168.8cm、短軸は91.3cm、深度は27.5cmを測る。主軸方位はN-8°-Eを測る。遺構内覆土は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 232号土壙墓 (ST7232) (第1831図)

新貝地区、G13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は150.0cm、短軸は116.3cm、深度は27.5cmを測る。主軸方位はN-5°-Wを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6、9層は褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 233号土壙墓 (ST7233) (第1832図)

新貝地区、D14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は127.5cm、短軸は75.0cm、深度は28.8cmを測る。主軸方位はN-73°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 234号土壙墓 (ST7234) (第1833図)

新貝地区、J9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は楕円形を、底面形態は楕円形を、断面形態は方形を呈する。長軸は172.5cm、短軸は82.5cm、深度は31.3cmを測る。主軸方位はN-7°-Eを測る。遺構内覆土は13層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は灰黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層は灰黄褐色粘質土層土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 235号土壙墓 (ST7235) (第1834図)

新貝地区、K9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は隅丸長方形を呈する土坑。残存長軸82.5cm、残存短軸73.8cm、深度32.5cmを測る。主軸方位はN-85°-Wを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、第1、3、4、5、6、7、8層は黄褐色粘性砂質土層、第2層はにぶい黄色粘性砂質土層、第9層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より鉄器320が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 236号土壙墓 (ST7236) (第1835図)

新貝地区、K7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は131.3cm、短軸は115.0cm、深度は17.5cmを測る。主軸方位はN-23°-Eを測る。遺構内覆土は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 237号土壙墓 (ST7237) (第1836図)

新貝地区、J8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸161.3cm、短軸77.5cm、深度30.0cmを測る。主軸方位はN-79°-Wを測る。遺構内覆土は12層に分層することができ、第1層は黄褐色粘性砂質土層、第2、3、4、5、6、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第8、9、10、11層は褐色粘性砂質土層、第12層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より土師器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 238号土壙墓 (ST7238) (第1840図)

新貝地区、7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は240.0cm、短軸は96.3cm、深度は23.8cmを測る。主軸方位はN-33°-Wを測る。遺構内覆土は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 239号土壙墓 (ST7239) (第1841図)

新貝地区、19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸隅丸長方形、底面形態は隅丸隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸193.8cm、短軸132.5cm、深度50.0cmを測る。主軸方位はN-7°-Eを測る。遺構内覆土は22層に分層することができ、第1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、13、14、15、16、17、18、21、22層は褐色粘性砂質土層、第11、12、19、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。17層は基底部層である。

遺構内より須恵器1、2が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 240号土壙墓 (ST7240) (第1842図)

新貝地区、J9、J10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は167.5cm、短軸は121.3cm、深度は41.3cmを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐灰色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。



#### 241号土壙墓 (ST7241) (第1843図)

新貝地区、I8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は170.0cm、短軸は80.0cm、深度は21.3cmを測る。主軸方位はN-7°-Eを測る。遺構内覆土は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 242号土壙墓 (ST7242) (第1837図)

新貝地区、H10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は122.5cm、短軸は68.8cm、深度は33.8cmを測る。主軸方位はN-14°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 243号土壙墓 (ST7243) (第1844図)

新貝地区、I6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は160.0cm、短軸は93.8cm、深度は27.5cmを測る。主軸方位はN-51°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 244号土壙墓 (ST7244) (第1838図)

新貝地区、F10グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は152.5cm、短軸は86.3cm、深度は47.5cmを測る。主軸方位はN-11°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 245号土壙墓 (ST7245) (第1839図)

新貝地区、G11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を

呈する。長軸は101.3cm、短軸は58.8cm、深度は47.5cmを測る。主軸方位はN-50°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 246号土壙墓 (ST7246) (第1845図)

新貝地区、G9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は166.3cm、短軸は87.5cm、深度は33.8cmを測る。主軸方位はN-83°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 247号土壙墓 (ST7247) (第1846図)

新貝地区、F6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は140.0cm、短軸は107.5cm、深度は13.8cmを測る。主軸方位はN-89°-Wを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 248号土壙墓 (ST7248) (第1847図)

新貝地区、H6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は160.0cm、短軸は82.5cm、深度は33.8cmを測る。主軸方位はN-72°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 249号土壙墓 (ST7249) (第1848図)

新貝地区、D6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は106.3cm、短軸は73.8cm、深度は33.8cmを測る。主軸方位はN-66°-Eを測る。遺構内覆土は3

層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 250号土壙墓 (ST7250) (第1849図)

新貝地区、F6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は不整逆台形を呈する。長軸は117.5cm、短軸は65.0cm、深度は37.5cmを測る。主軸方位はN-27°-Eを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘質土層、7層は暗灰黄色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 251号土壙墓 (ST7251) (第1850図)

新貝地区、D5、D6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は150.0cm、短軸は72.5cm、深度は55.0cmを測る。主軸方位はN-67°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 252号土壙墓 (ST7252) (第1851図)

新貝地区、C8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は137.5cm、短軸は76.3cm、深度は20.0cmを測る。主軸方位はN-75°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 253号土壙墓 (ST7253) (第1852図)

新貝地区、E8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は141.0cm、短軸は95.0cm、深度は12.5cmを測る。主軸方位はN-81°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 254号土壙墓 (ST7254) (第1853図)

新貝地区、E4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は250.0cm、短軸は105.0cm、深度は97.5cmを測る。主軸方位はN-65°-Wを測る。遺構内覆土は31層に分層することができ、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層、9層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は暗灰黄色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は灰黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は灰褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は灰黄褐色粘性砂質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層は灰黄褐色粘性砂質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層は暗灰黄色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄褐色粘質土層である。31層は基底部層、32層は裏込土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 255号土壙墓 (ST7255) (第1854図)

新貝地区、E3、E4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は231.3cm、短軸は102.5cm、深度は32.5cmを測る。主軸方位はN-67°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 256号土壙墓 (ST7256) (第1855図)

新貝地区、C4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は楕円形を、底面形態は楕円形を、断面形態は方形を呈する。長軸は186.3cm、短軸は130.0cm、深度は23.8cmを測る。主軸方位はN-26°-Eを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 257号土壙墓 (ST7257) (第1856図)

新貝地区、D4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は173.8cm、短軸は90.0cm、深度は37.5cmを測る。主軸方位はN-12°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 258号土壙墓 (ST7258) (第1858図)

新貝地区、E3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は178.8cm、短軸は116.3cm、深度は30.0cmを測る。主軸方位はN-68°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。上面より砂岩川原石が検出された。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 259号土壙墓 (ST7259) (第1859図)

新貝地区、G5、G6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は182.5cm、短軸は103.8cm、深度は22.5cmを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層は黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 260号土壙墓 (ST7260) (第1857図)

新貝地区、D5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は163.8cm、短軸は76.3cm、深度は28.8cmを測る。主軸方位はN-68°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 261号土壙墓 (ST7261) (第1860図)

新貝地区、C5グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は156.3cm、短軸は102.5cm、深度は26.3cmを測る。主軸方位はN-76°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 262号土壙墓 (ST7262) (第1861図)

新貝地区、C6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は107.5cm、短軸は57.5cm、深度は26.3cmを測る。主軸方位はN-2°-Eを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄橙色砂質土層、2層はにぶい黄色砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 263号土壙墓 (ST7263) (第1862図)

新貝地区、C6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は165.0cm、短軸は93.8cm、深度は32.5cmを測る。主軸方位はN-68°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 264号土壙墓 (ST7264) (第1863図)

新貝地区、D6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は141.3cm、短軸は73.8cm、深度は32.5cmを測る。主軸方位はN-66°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 265号土壙墓 (ST7265) (第1864図)

新貝地区、F10、F11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は190.0cm、短軸は81.2cm、深度は47.5cmを測る。主軸方位はN-2°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 266号土壙墓 (ST7266) (第1865図)

新貝地区、D9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は137.5cm、短軸は102.5cm、深度は26.3cmを測る。主軸方位はN-20°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 267号土壙墓 (ST7267) (第1866図)

新貝地区、E8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は131.3cm、短軸は72.5cm、深度は37.5cmを測る。主軸方位はN-86°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 268号土壙墓 (ST7268) (第1867図)

新貝地区、D8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は127.5cm、短軸は76.3cm、深度は18.8cmを測る。主軸方位はN-67°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は明黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は明黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 269号土壙墓 (ST7269) (第1868図)

新貝地地区、C7、D7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は151.0cm、短軸は70.0cm、深度は21.3cmを測る。主軸方位はN-11°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 270号土壙墓 (ST7270) (第1869図)

新貝地区、D7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は168.8cm、短軸は82.5cm、深度は31.3cmを測る。主軸方位はN-13°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は明黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 271号土壙墓 (ST7271) (第1870図)

新貝地区、J6、K6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は111.3cm、短軸は65.0cm、深度は21.3cmを測る。主軸方位はN-78°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 272号土壙墓 (ST7272) (第1872図)

新貝地区、K5、K6グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は128.8cm、短軸は55.0cm、深度は30.0cmを測る。主軸方位はN-76°-Wを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。



### 273号土壙墓 (ST7273) (第1872図)

新貝地区、K4グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は141.3cm、短軸は83.8cm、深度は26.3cmを測る。主軸方位はN-86°-Eを測る。遺構内覆土は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 274号土壙墓 (ST7274) (第1874図)

新貝地区、J9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は130.0cm、短軸は83.8cm、深度は35.0cmを測る。主軸方位はN-80°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄橙色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 275号土壙墓 (ST7275) (第1874図)

新貝地区、D3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は隅丸長方形を呈する。長軸は201.0cm、短軸は136.3cm、深度は30.0cmを測る。主軸方位はN-70°-Wを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄橙色粘質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層は暗灰黄色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 276号土壙墓 (ST7276) (第1876図)

新貝地区、C3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は楕円形を、底面形態は楕円形を、断面形態は方形を呈する。長軸は122.5cm、短軸は78.8cm、深度は27.5cmを測る。遺構内覆土は11層に分層することができ、1層はにぶい黄色砂質土層、2層は灰黄褐色砂質土層、3層は灰黄褐色砂質土層、4層は灰黄褐色砂質土層、5層は灰黄褐色砂質土層、6層は灰黄褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層、8層は灰黄褐色砂質土層、9層はオリーブ褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は灰黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 277号土壙墓 (ST7277) (第1875図)

新貝地区、D1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は不整逆台形を呈する。長軸は171.3cm、短軸は78.8cm、深度は33.8cmを測る。主軸方位はN-11°-Eを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は明黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 278号土壙墓 (ST7278) (第1877図)

新貝地区、D20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は83.8cm、短軸は70.0cm、深度は43.8cmを測る。主軸方位はN-12°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は明黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 279号土壙墓 (ST7279) (第1878図)

新貝地区、C1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は140.0cm、短軸は90.0cm、深度は25.0cmを測る。主軸方位はN-4°-Wを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄橙色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 280号土壙墓 (ST7280) (第1879図)

新貝地区、C20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は132.5cm、短軸は71.3cm、深度は21.3cmを測る。主軸方位はN-7°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は明黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 281号土壙墓 (ST7281) (第1880図)

新貝地区、C11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は208.75cm、短軸は143.75cm、深度は61.25cmを測る。主軸方位はN-74°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 282号土壙墓 (ST7282) (第1881図)

新貝地区、J11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は131.25cm、短軸は108.75cm、深度は35.0cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は明黄褐色砂質土層、7層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 283号土壙墓 (ST7283) (第1881図)

新貝地区、J11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は125cm、短軸は75cm、深度は15.8cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は明黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 284号土壙墓 (ST7284) (第1882図)

新貝地区、J15グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は115.0cm、短軸は65.0cm、深度は53.8cmを測る。遺主軸方位はN-81°-Wを測る。構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄橙色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 285号土壙墓 (ST7285) (第1883図)

新貝地区、L8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状

況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。短軸は55.8cm、深度は25cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は暗褐色砂質土層、3層はにぶい黄橙色砂質土層である。

遺構内より鉄滓1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 286号土壙墓 (ST7286) (SK3007) (第1884図)

新貝地区、J8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸205.0cm、短軸156.3cm、深度30.0cmを測る。主軸方位はN-7°-Eを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、第1、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2、3、4、6層は褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 287号土壙墓 (ST7287) (SK3014) (第1885図)

新貝地区、G9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸173.8cm、短軸103.8cm、深度36.3cmを測る。主軸方位はN-25°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2層は黄褐色粘性砂質土層、第3、4層は褐色粘性砂質土層、第5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 288号土壙墓 (ST7288) (第1886図)

新貝地区、H11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は156.3cm、短軸は83.8cm、深度は26.25cmを測る。主軸方位はN-6°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は暗褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 289号土壙墓 (ST7289) (第1887図)

新貝地区、H12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は165cm、短軸は127.5cm、深度は23.8cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄橙色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 290号土壙墓 (ST7290) (第1888図)

新貝地区、G12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は162.5cm、短軸は100.0cm、深度は42.5cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、1層は明黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 291号土壙墓 (ST7291) (SK3035) (第1889図)

新貝地区、D11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸183.8cm、短軸112.5cm、深度35.0cmを測る。主軸方位はN-37°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1、2、3層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 292号土壙墓 (ST7292) (第1890図)

新貝地区、C12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は107.5cm、短軸は58.8cm、深度は27.5cmを測る。主軸方位はN-45°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄橙色粘質土層、3層は明黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 293号土壙墓 (ST7293) (第1891図)

新貝地区、D13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は180cm、短軸は90cm、深度は38.8cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は明黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 294号土壙墓 (ST7294) (第1892図)

新貝地区、D12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は133.8cm、短軸は93.8cm、深度は25.0cmを測る。主軸方位はN-20°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 295号土壙墓 (ST7295) (第1893図)

新貝地区、F13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は166.3cm、短軸は101.3cm、深度は37.5cmを測る。主軸方位はN-17°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 296号土壙墓 (ST7296) (第1895図)

新貝地区、F13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は167.5cm、短軸は105cm、深度は42.5cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄灰色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 297号土壙墓 (ST7297) (第1894図)

新貝地区、F13グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は120cm、短軸は70cm、深度は32.5cmを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄色砂質土層、2層は灰黄褐色砂質土層、3層は灰黄褐色砂質土層、4層は灰黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 298号土壙墓 (ST7298) (第1897図)

新貝地区、I15、I16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆

積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は175cm、短軸は106.3cm、深度は47.8cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 299号土壙墓 (ST7299) (第1896図)

新貝地区、I14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は船底形を呈する。長軸は148.8cm、短軸は63.8cm、深度は30.0cmを測る。主軸方位はN-7°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 300号土壙墓 (ST7300) (第1898図)

新貝地区、G16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は163.8cm、短軸は71.3cm、深度は55.0cmを測る。主軸方位はN-85°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 301号土壙墓 (ST7301) (第1899図)

新貝地区、F14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は178.8cm、短軸は75.0cm、深度は48.8cmを測る。主軸方位はN-85°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は浅黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 302号土壙墓 (ST7302) (第1900図)

新貝地区、E16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は181.3cm、短軸は87.5cm、深度は60.0cmを測る。主軸方位はN-73°-Wを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3

層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 303号土壙墓 (ST7303) (第1901図)

新貝地区、C18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は148.8cm、短軸は66.3cm、深度は35.0cmを測る。主軸方位はN-41°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 304号土壙墓 (ST7304) (第1902図)

新貝地区、F18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は138.8cm、短軸は93.8cm、深度は52.5cmを測る。主軸方位はN-77°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 305号土壙墓 (ST7305) (第1903図)

新貝地区、G19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は152.5cm、短軸は82.5cm、深度は47.5cmを測る。主軸方位はN-5°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、4層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 306号土壙墓 (ST7306) (SK3068) (第1904図)

新貝地区、I19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸177.5cm、短軸121.3cm、深度75.0cmを測る。主軸方位はN-24°-Eを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、第1、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、第2層は褐色粘質土層、第3層はにぶい黄褐色粘質土層、第4、6層は黄褐色粘質土層、第7層は褐色粘性砂質土層である。



遺構内より須恵器 1、2、土師器 3、鉄滓 4 が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 307号土壙墓 (ST7307) (SK3069) (第1905図)

新貝地区、I20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸177.5cm、短軸107.5cm、深度60.0cmを測る。主軸方位はN-11°-Eを測る。遺構内覆土は8層に分層することができ、第1、4層はにぶい黄褐色砂質土層、第2、3、6、7層は褐色砂質土層、第5層は暗褐色砂質土層、第8層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 308号土壙墓 (ST7308) (SK3070) (第1906図)

新貝地区、I20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸平行四辺形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸187.5cm、短軸118.8cm、深度75.0cmを測る。主軸方位はN-15°-Eを測る。遺構内覆土は13層に分層でき、1層はにぶい黄色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 309号土壙墓 (ST7309) (SK3073) (第1907図)

新貝地区、J19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形、底面形態は長方形、断面形態は長方形を呈する土坑。長軸172.5cm、短軸102.5cm、深度46.3cmを測る。主軸方位はN-9°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1、2層はにぶい黄褐色砂質土層、第3、4層は褐色砂質土層、第5層は暗褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器 1、2、3、鉄滓 1 が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 310号土壙墓 (ST7310) (SK3074) (第1908図)

新貝地区、K19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈すると推定される土坑。残存長軸110.0cm、短軸112.5cm、深度22.5cmを測る。主軸方位はN-16°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2、3層は褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期である。

### 311号土壙墓 (ST7311) (第1909図)

新貝地区、K3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は178.8cm、短軸は88.8cm、深度は58.8cmを測る。主軸方位はN-12°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

### 312号土壙墓 (ST7312) (第1910図)

新貝地区、J3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は120.0cm、短軸は86.3cm、深度は48.8cmを測る。主軸方位はN-17°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。ただし、古墳時代初頭もしくは古代の可能性もある。

### 313号土壙墓 (ST7313) (第1911図)

新貝地区、H2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は168.8cm、短軸は92.5cm、深度は67.5cmを測る。主軸方位はN-8°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。  
時期は古墳時代後期と推定される。

### 314号土壙墓 (ST7314) (第1912図)

新貝地区、H2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は206.3cm、短軸は85.0cm、深度は71.3cmを測る。主軸方位はN-54°-Eを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 315号土壙墓 (ST7315) (第1913図)

新貝地区、H1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は158.8cm、短軸は113.8cm、深度は58.8cmを測る。主軸方位はN-73°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 316号土壙墓 (ST7316) (第1914図)

新貝地区、F2グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は165.0cm、短軸は100.0cm、深度は78.8cmを測る。主軸方位はN-8°-Eを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 317号土壙墓 (ST7317) (第1915図)

新貝地区、F1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は137.5cm、短軸は57.5cm、深度は43.8cmを測る。主軸方位はN-6°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 318号土壙墓 (ST7318) (第1916図)

新貝地区、F1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は123.8cm、短軸は70.0cm、深度は50.0cmを測る。主軸方位はN-21°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 319号土墳墓 (ST7319) (第1917図)

新貝地区、F1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土墳墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は236.3cm、短軸は152.5cm、深度は70.0cmを測る。主軸方位はN-86°-Wを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 320号土墳墓 (ST7320) (第1918図)

新貝地区、E20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土墳墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は131.3cm、短軸は87.5cm、深度は22.5cmを測る。主軸方位はN-79°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 321号土墳墓 (ST7321) (第1919図)

新貝地区、E1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土墳墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は156.3cm、短軸は100.0cm、深度は32.5cmを測る。主軸方位はN-19°-Eを測る。遺構内覆土は6層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 322号土墳墓 (ST7322) (SK3100) (第1921図)

新貝地区、I16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土墳墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸176.3cm、短軸107.5cm、深度56.3cmを測る。主軸方位はN-3°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2層は黄褐色砂質土層、第3、4層は褐色砂質土層、第5層はにぶい黄色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

### 324号土壙墓 (ST7324) (第1920図)

新貝地区、L7グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は170.0cm、短軸は120.0cm、深度は75.0cmを測る。主軸方位はN-24°-Eを測る。遺構内覆土は12層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層は黄褐色砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層は黄褐色砂質土層である。12層は基底部層である。

遺構内より須恵器1、石器2が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 325号土壙墓 (ST7325) (第1922図)

新貝地区、L3グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は153.8cm、短軸は76.3cm、深度は65.0cmを測る。主軸方位はN-17.5°-Eを測る。遺構内覆土は7層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 326号土壙墓 (ST7326) (第1923図)

新貝地区、L1グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は楕円形を、底面形態は楕円形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は118.1cm、短軸は82.5cm、深度は26.3cmを測る。主軸方位はN-54°-Wを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 327号土壙墓 (ST7327) (第1924図)

新貝地区、L20グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は208.8cm、短軸は100.0cm、深度は43.1cmを測る。主軸方位はN-18°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 328号土壙墓 (ST7328) (第1926図)

新貝地区、L19、K19グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は169.4cm、短軸は85.0cm、深度は28.8cmを測る。主軸方位はN-14°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 329号土壙墓 (ST7329) (第1925図)

新貝地区、L18グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は121.9cm、短軸は65.0cm、深度は42.5cmを測る。主軸方位はN-28.5°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 330号土壙墓 (ST7330) (第1927図)

新貝地区、L17グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は158.8cm、短軸は78.8cm、深度は87.5cmを測る。主軸方位はN-81°-Wを測る。遺構内覆土は10層に分層することができ、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は暗灰黄色砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。8、9層は基底部層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 331号土壙墓 (ST7331) (第1928図)

新貝地区、M17グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整楕円形を、底面形態は不整楕円形を、断面形態は方形を呈する。長軸は122.5cm、短軸は67.5cm、深度は32.5cmを測る。主軸方位はN-2°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 332号土壙墓 (ST7332) (第1929図)

新貝地区、L16グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は136.9cm、短軸は76.3cm、深度は40.0cmを測る。主軸方位はN-37°-Eを測る。遺構内覆土は4層に分層することができ、1層は暗灰黄色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 333号土壙墓 (ST7333) (第1930図)

新貝地区、L15グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は161.9cm、短軸は76.3cm、深度は38.8cmを測る。主軸方位はN-48°-Eを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 334号土壙墓 (ST7334) (第1931図)

新貝地区、M14グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は143.8cm、短軸は80.0cm、深度は65.0cmを測る。主軸方位はN-86°-Wを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 335号土壙墓 (ST7335) (第1932図)

新貝地区、M14、M15グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は141.3cm、短軸は78.1cm、深度は31.3cmを測る。主軸方位はN-89°-Wを測る。遺構内覆土は5層に分層することができ、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色

砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 336号土壙墓 (ST7336) (第1933図)

新貝地区、N12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は長方形を、底面形態は長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は141.3cm、短軸は66.3cm、深度は38.6cmを測る。主軸方位はN-85.5°-Wを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は暗褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘土層、9層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 337号土壙墓 (ST7337) (第1934図)

新貝地区、M12グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は144.4cm、短軸は88.1cm、深度は56.3cmを測る。主軸方位はN-21°-Eを測る。遺構内覆土は9層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 338号土壙墓 (ST7338) (第1935図)

新貝地区、N9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は220.0cm、短軸は102.0cm、深度は100.0cmを測る。主軸方位はN-25°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

### 339号土壙墓 (ST7339) (第1936図)

新貝地区、N9グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は方形を呈する。長軸は95.6cm、短軸は80.0cm、深度は16.3cmを測る。主軸方位はN-37°-Wを測る。遺構内



覆土は2層に分層することができ、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 340号土壇墓 (ST7340) (第1937図)

新貝地区、M8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壇墓と推定される。平面形態は不整長方形を、底面形態は不整長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は166.3cm、短軸は107.5cm、深度は16.3cmを測る。主軸方位はN-5.5°-Eを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 341号土壇墓 (ST7341) (第1938図)

新貝地区、M8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壇墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸は190.0cm、短軸は147.5cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを測る。遺構内覆土は不明である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 342号土壇墓 (ST7342) (第1939図)

新貝地区、L7、L8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壇墓と推定される。平面形態は不整楕円形を、底面形態は不整楕円形を、断面形態は方形を呈する。長軸は143.8cm、短軸は83.8cm、深度は17.5cmを測る。主軸方位はN-86°-Wを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 343号土壇墓 (ST7343) (SK4018) (第1940図)

新貝地区、M11グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壇墓と推定される。平面形態は隅丸長方形、底面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸108.8cm、短軸76.3cm、深度46.3cmを測る。主軸方位はN-12°-Eを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色砂質土層、第2、3層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より図化できない土器片が出土。

時期は古墳時代後期である。

#### 344号土壙墓 (ST7344) (第1941図)

新貝地区、E8グリッドにて検出。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は船底形を呈する。長軸は102.5cm、短軸は82.5cm、深度は25cmを測る。遺構内覆土は3層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より石器1が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

#### 345号土壙墓 (ST7345) (第1942図)

カワラケメン地区、D9グリッドにて検出。土器棺墓である。遺構内より人骨は検出されていないが、形態・規模・土層堆積状況等から土壙墓と推定される。平面形態は隅丸長方形を、底面形態は隅丸長方形を、断面形態は方形を呈する。短軸は60cm、深度は22.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層することができ、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1、土師器2が出土。

時期は古墳時代後期と推定される。

## ⑤柱穴・小穴

柱穴及び小穴は、各調査区より検出された。他遺構同様に東西両微高地の高所より検出された。その数は1000基以上となり、すべての遺構を掲載することはできない。今回は図化可能遺物を出土した遺構のみを掲載する。

なお、遺構は断面図のみを掲載する。遺構掲載スケールは1/25に統一されている。また、遺物掲載スケールは須恵器（断面黒色塗りつぶし）および土師器（断面白抜き）は1/3（無印）に、鉄器は2/3（無印）に、鍛冶関連遺物は2/3（無印）に、石器は1/2（無印）と1/3（実測図右下側に●）と2/3（実測図右下側に▲）に、石製品、ガラス製品は1/1（実測図右下側に■）に統一されている。

### 1号小穴（SP7001）

鳥井地区にて検出された小穴。長軸32.5cm、深度17.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。鉄滓1が出土。時期は古墳時代後期と推定される。

### 2号小穴（SP7002）

鳥井地区にて検出された小穴。長軸27.5cm、深度13.8cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。鉄滓1、2が出土。時期は古墳時代後期である。

### 3号小穴（SP7003）

鳥井地区にて検出された小穴。長軸23.8cm、深度3.8cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は灰褐色粘質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層である。鉄滓1が出土。時期は古墳時代後期である。

### 4号小穴（SP7004）

横田地区にて検出された小穴。長軸33.8cm、深度26.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。須恵器1が出土。1杯身口縁端部には打ち欠きが施される。時期は古墳時代後期である。

### 5号小穴（SP7005）

横田地区にて検出された小穴。長軸20cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。大甕胴部である。外面には平行タタキ、内面には青海波文が施されている。時期は古墳時代後期である。

### 6号小穴（SP7006）

カワラケメン地区にて検出された小穴。長軸63.8cm、深度72cmを測る。遺構内覆土は9層に分層でき、

1層は浅黄色粘質土層、2層は黄灰色粘質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は浅黄色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層である。2～5層は柱痕である。須恵器1、2が出土。須恵器1は杯蓋口縁、須恵器2は甕肩部である。時期は古墳時代後期である。

#### 7号小穴 (SP7007)

カワラケメン地区にて検出された小穴。長軸38.8cm、深度40cmを測る。遺構内覆土は9層に分層でき、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、7層は灰オリーブ粘性砂質土層、8層は灰色粘質土層、9層は灰色粘質土層である。2、3層は柱痕である。土師器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 8号小穴 (SP7008)

カワラケメン地区にて検出された小穴。長軸40cm、深度40cmを測る。遺構内覆土は8層に分層でき、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層である。2、3層は柱痕である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 9号小穴 (SP7009)

カワラケメン地区にて検出された小穴。長軸17.5cm、深度22.3cmを測る。遺構内覆土は褐色粘性砂質土層である。須恵器11が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 10号小穴 (SP7010)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸32.5cm、深度23.8cmを測る。遺構内覆土は5層に分層でき、1、2、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 11号小穴 (SP7011)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸22.5cm、深度26.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は褐色砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 12号小穴 (SP7012)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸41.3cm、深度11.3cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層はオリーブ色粘性砂質土層、2層は灰褐色粘質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層である。須恵器1、2が出土。時期は古墳時代後期である。

### 13号小穴 (SP7013)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸30cm、深度32.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

### 14号小穴 (SP7014)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸125cm、深度16.3cmを測る。遺構内覆土は不明である。土師器1が出土。時期は古墳時代後期である。

### 15号小穴 (SP7015)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸40.3cm、深度24.5cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

### 16号小穴 (SP7016)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸22.8cm、深度17.5cmを測る。遺構内覆土は褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

### 17号小穴 (SP7017)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸26cm、深度26.5cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は灰オリーブ色粘性砂質土層、2層は浅黄色粘質土層、3層は灰オリーブ色粘性砂質土層である。須恵器1、2が出土。時期は古墳時代後期である。

### 18号小穴 (SP7018)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸30cm、深度25cmを測る。遺構内覆土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

### 19号小穴 (SP7019)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸72.5cm、深度25cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1、2層は褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

### 20号小穴 (SP7020)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸17.5cm、深度18.8cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は黄褐色粘質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

### 21号小穴 (SP7021)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸11.3cm、深度10.3cmを測る。遺構内覆土は灰黄褐色粘性

砂質土層である。土師器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 22号小穴 (SP7022)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸30cm、深度20cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層である。鉄滓 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 23号小穴 (SP7023)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸20.3cm、深度16.8cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 24号小穴 (SP7024)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸40cm、深度21.3cmを測る。遺構内覆土は5層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は明黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。土師器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 25号小穴 (SP7025)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸35cm、深度16.8cmを測る。遺構内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 26号小穴 (SP7026)

馬のシャクリ地区にて検出された小穴。長軸33.8cm、深度18cmを測る。遺構内覆土は灰黄褐色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 27号小穴 (SP7027)

松吉地区にて検出された小穴。長軸32.5cm、深度30.3cmを測る。遺構内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 28号小穴 (SP7028)

松吉地区にて検出された小穴。長軸20.5cm、深度35.5cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層は灰オリーブ色粘性砂質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。杯蓋口縁端部には刻み目が施されている。時期は古墳時代後期である。

#### 29号小穴 (SP7029)

松吉地区にて検出された小穴。長軸60cm、深度29.8cmを測る。遺構内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂

質土層である。土師器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

### 30号小穴 (SP7030)

松吉地区にて検出された小穴。長軸33.8cm、深度30cmを測る。遺構内覆土は褐色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

### 31号小穴 (SP7031)

松吉地区にて検出された小穴。長軸20.5cm、深度26.5cmを測る。遺構内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

### 32号小穴 (SP7032)

松吉地区にて検出された小穴。長軸27.5cm、深度 5 cm を測る。遺構内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

### 33号小穴 (SP7033)

松吉地区にて検出された小穴。長軸23.8cm、深度16.3cmを測る。遺構内覆土は 2 層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。須恵器 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

### 34号小穴 (SP7034)

松吉地区にて検出された小穴。長軸35.5cm、深度23.3cmを測る。遺構内覆土は 4 層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。鉄滓 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

### 35号小穴 (SP7035)

松吉地区にて検出された小穴。長軸22.5cm、深度17.5cmを測る。遺構内覆土は褐色粘性砂質土層である。鉄滓 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

### 36号小穴 (SP7036)

松吉地区にて検出された小穴。長軸31.3cm、深度12.5cmを測る。遺構内覆土は 2 層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は土層、4層は土層である。鉄滓 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

### 37号小穴 (SP7037)

松吉地区にて検出された小穴。長軸55cm、深度12.5cmを測る。遺構内覆土は 2 層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。鉄滓 1 が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 38号小穴 (SP7038)

松吉地区にて検出された小穴。長軸23cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 39号小穴 (SP7039)

松吉地区にて検出された小穴。長軸38.8cm、深度28.8cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 40号小穴 (SP7040)

松吉地区にて検出された小穴。長軸33.8cm、深度6.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 41号小穴 (SP7041)

松吉地区にて検出された小穴。長軸67.5cm、深度26.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層で、2層は灰オリーブ色粘性砂質土層である。土師器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 42号小穴 (SP7042)

松吉地区にて検出された小穴。長軸35cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 43号小穴 (SP7043)

松吉地区にて検出された小穴。長軸26.3cm、深度12cmを測る。遺構内覆土は灰黄褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 44号小穴 (SP7044)

新貝地区にて検出された小穴。長軸29cm、深度37.5cmを測る。遺構内覆土は4層に分層でき、1層は1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、第2、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。第3層は褐色粘性砂質土層である。鉄滓1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 45号小穴 (SP7045)

新貝地区にて検出された小穴。長軸52.5cm、深度30cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。鉄滓1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 46号小穴 (SP7046)

新貝地区にて検出された小穴。長軸17.5cm、深度13.8cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層



は褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。須恵器1、2が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 47号小穴 (SP7047)

新貝地区にて検出された小穴。長軸20cm、深度16.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層である。土師器1が出土。時期は古墳時代後期である。

#### 48号小穴 (SP7048)

新貝地区にて検出された小穴。長軸20cm、深度15.3cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。時期は古墳時代後期である。

## ⑥性格不明遺構

### 噴砂 (SX7001) (第1991図)

大坪地区において検出された古墳時代後期の水田遺構から、噴砂（噴泥）が確認された。浅黄色シルト質土の水田土壌に東西約16m、南北約16mの範囲に砂粒を含む灰黄色シルト質土が網目状に拡がった状態で検出された。噴砂は幅約20～40cmである。当初、調査区壁面の断面観察によって、噴砂は断面U字形を呈する深さ約25cm程度の水田に伴う溝状遺構と推定されていた。しかし検出の結果、網目状に拡がり、溝としては機能していないと断定された。また、噴砂の土壌を観察すると浅黄色シルト質土と細砂が薄いレンズ状に互層に堆積していることが確認された。この浅黄色シルト質土は約60cm下の弥生時代の水田土壌、細砂は約80cm下の弥生時代前期末水田を覆う洪水砂が供給源になったと推定される。以上の点からこの砂脈は噴砂と考えられる。噴砂が検出された地点は、弥生時代においては二つの微高地を繋ぐ自然堤防の北側斜面部にあたる。この地区は旧喜来谷川の支流の細奥部にあたる。しかし、吉野川の洪水「シマづけ」による砂層が微高地高所部を除き、低位段丘裾まで堆積していることが確認された。こうした土層状況から、当地区は不安定な軟弱地盤であったと推定される。

噴砂の時期については、噴砂が検出された水田に伴う灌漑用水路内覆土中から陶器 TK209、TK217式併行段階の須恵器が出土していることから、当該期の水田を上限とすることが出来よう。一方、噴砂を覆っていた水田土壌は、厚さ約10cm程度であり、この水田経営にあたっては噴砂及び前時代の水田土壌を攪乱した可能性は高い。また、出土遺物が少なく確定は困難であり、今後の検討課題とする面が強い。しかし、水田に伴う溝内覆土層中より陶器 TK48式併行段階の須恵器が出土していることから、この時期を下限とすることが出来よう。

### 2号不明遺構 (SX7002) (第1992図)

馬のシャクリ地区、M6グリッドで検出。長軸7.14m、短軸4.66m、深度70cmを測る。平面形態は不整楕円形、断面形態は緩いU字状を呈する。遺構内覆土は14層に分層でき、1層は黄褐色粘質土層、2層は褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層は黄褐色粘質土層、13層は黄褐色粘質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。1は杯身で、口縁端部に打ち欠きを施す。

時期は古墳時代後期である。

### 3号不明遺構 (SX7003) (第1993図)

馬のシャクリ地区、B1グリッドにて検出。長軸2.76m、短軸2.4m、深度19cmを測る。平面形態は不整長方形、断面形態は台形を呈する。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

須恵器1、2、3が出土。1は杯蓋、2は甕、3は甕である。

古墳時代後期である。

#### 4号不明遺構 (SX7004) (第1994図)

松吉地区、E19グリッドにて検出。長軸3.88m、短軸3.4m、深度15cmを測る。平面形態は方形、断面形態は浅い台形を呈する。当初小型竪穴住居の可能性も想定されたが、竈、柱穴等は未検出である。遺構内覆土は12層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は明黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、12層は浅黄色粘性砂質土層である。

遺構内より須恵器1～10、土師器11、12、砥石13、鞆羽口14、15、鉄滓16～19が出土。1は杯蓋で、口縁端部に打ち欠きが施されている。鞆羽口14、15の法量はほぼ同じであり、同一固体の可能性はある。鉄滓16の上面は、水平であり、左側側縁に向かって垂直に立ち上がる。製品もしくは工具表面等に付着したものと推定される。遺物は主に3、4層より出土しており、垂直分布の状況より北東方向からの投げ込みによる堆積と推定される。遺構床面からは焼土は未検出である。鍛冶工房の可能性は低い。

時期は古墳時代後期である。

#### 5号不明遺構 (SX7005) (第1996図)

新貝地区、L6グリッドにて検出。長軸4.55m、短軸1.25m、深度30cmを測る。平面形態は不整楕円形、断面形態は不整方形を呈する。遺構内覆土は20層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘質土層、19層は灰黄褐色粘質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1～3が出土。2は杯蓋で、内面に当て具痕を有する。3は杯蓋で、内面に当て具痕を有する。

時期は古墳時代後期である。

#### 6号不明遺構 (SX7006) (第1997図)

新貝地区、L7グリッドにて検出。長軸2.75m、短軸2.4m、深度15cmを測る。平面形態は不整楕円形、断面形態は方形を呈する。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層である。

遺構内より須恵器1が出土。臑肩部である。

時期は古墳時代後期である。

#### 7号不明遺構 (SX7007) (第1998図)

新貝地区、M15グリッドにて検出。長軸4.6m、短軸4m、深度30cmを測る。平面形態は隅丸長方形、断面形態は浅い逆台形を呈する。床面精査に努めたが、柱穴、炉、竈等は未検出である。遺構内覆土は

8層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層である。

遺構内より須恵器1～3、土師器4～6が出土。1、2は横瓶であるが、外面等の調整を観察する限りでは同一個体ではない。3は杯蓋で、外面にヘラ記号が施されている。

時期は古墳時代後期である。

## ⑦自然流路・溝状遺構

調査区内より16条の自然流路（SR）と、25条の溝条遺構（SD）が検出された。自然流路には吉野川後背湿地部を流れる流路と、微高地から周辺河川へと流れ込む小谷地形の2種類がある。前者にはSR7001、7002、7003が含まれる。後者にはSR7004～7016が含まれる。

溝状遺構には水田のための灌漑水路と、区画溝と、用途不明溝の3種類がある。灌漑水路と推定される遺構はSD7002～7017である。区画溝と推定される遺構はSD7001、7019、7023、7024である。用途不明溝状遺構はSD7020、7021、7022、7025、7026である。

### 1号流路（SR7001）（第2007～2010図）

池田地区、第7遺構面である。調査区南西側に東西方向に伸びる自然堤防が存在し、その北側の東西方向に流れる自然流路である。土師器甕1、4、土師器高杯2、3、5、6、8、土師器小型丸底壺7が出土。いずれもほぼ完形に近く、出土地点での破砕行為等の痕跡は認められず、流路内への投げ込み行為が想定される。

### 2号流路（SR7002）、3号流路（SR7003）（第2011～2014図）

大坪地区、東端付近で検出。東側微高地と西側微高地の境において、南北方向に流れる流路である。縄文時代後期より存在した2つの微高地の境に南流する流路である。調査区北側より南流するSR7002に、SB7014北側でSR7003が合流する。SR7003は横田地区、カワラケメン地区、馬のシャクリ地区にて検出された西流するSR7004、7006、7007、7008、7009を含む。上層にはSD群が構築されている。既存流路の埋没後、東側微高地南側の水田開発時に灌漑水路を掘削したものと推定される。

須恵器1～12が出土。出土須恵器はSD内遺物と時期差は少ないことから、SD構築時にも周辺は元自然流路痕跡としてやや低い地形が形成されていたものと推定される。

### 4号流路（SR7004）（第2015図）

横田地区、F18グリッドにて検出。馬の背状微高地に立地し、西流する流路の一部である。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は灰オリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。ただし、遺構内覆土を観察する限り、水流の痕跡は明瞭でなく、流路に面した落ち込みと推定される。

須恵器1、2が出土。出土須恵器に時期差があり、長期の存続期間が推定される。

### 5号流路（SR7005）（第2016～2020図）

カワラケメン地区にて検出。馬の背状微高地北西部分に該当。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は暗褐色粘性砂質土層、2、3層は褐色粘性砂質土層である。ただし、遺構内覆土を観察する限り、水流の痕跡は明瞭でなく、流路に面した落ち込みと推定される。SR7002の本流が東側微高地北側に想定されておりその流路に面した落ち込みと推定される。落ち込み肩部に須恵器集中地点が認められる。馬の背状微高地に展開する集落の縁辺部に該当し、廃棄行為が行われた場所の可能性がある。同様の廃棄行為が弥生時代後期から古墳時代初頭にかけても認められている地点である。

須恵器1～19、土師器20～24、鹿角25、鉄滓26、27、鞆羽口28が出土。鹿角25の表面には鉄滓が付着している。カワラケメン地区における鍛冶工房での製作品を検討する上で注目すべき遺物である。

#### 6号流路 (SR7006) (第2021～2023図)

カワラケメン地区にて検出。馬の背状微高地上を西流する流路。遺構内覆土は10層に分層でき、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ砂質土層、5層は灰白色粘性砂質土層、6層は灰オリーブ粘性砂質土層、7層は灰オリーブ粘性砂質土層、8層は灰色粘質土層、9層は灰色粘質土層、10層は灰色粘性砂質土層である。

須恵器1、2が出土。1は杯蓋、2は甕である。

#### 7号流路 (SR7007) (第2024～2025図)

馬のシャクリ地区北西部にて検出。東側微高地から馬の背状微高地にかけての傾斜変換付近を西流する流路。遺構内覆土は6層に分層でき、1層は灰黄色粘質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は灰オリーブ褐色粘性砂質土層である。

須恵器1～13が出土。4は杯蓋で、ヘラ記号が施されている。7は杯身で、外方へ広がる口縁端部が特徴である。蓋の可能性もある。

#### 8号流路 (SR7008)、9号流路 (SR7009) (第2026～2030図)

馬のシャクリ地区北西部にて検出。東側微高地から馬の背状微高地にかけての傾斜変換付近を西流する流路。SR7007底部より検出。

須恵器1～12、14～16、土師器13が出土。SR7008出土遺物は1～13である。杯身3、5には口縁端部に打ち欠きが施されている。SR7009出土遺物は14～16である。

#### 10号流路 (SR7010)、11号流路 (SR7011) (第2031～2034図)

馬のシャクリ地区にて検出。東側微高地南斜面を南流する流路である。遺構内覆土は11層に分層でき、1層は灰褐色粘質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層、5層は黄灰色粘性砂質土層、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層は灰黄色粘性砂質土層、8層は黄灰色粘性砂質土層、9層は黄灰色粘性砂質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層、11層は明黄褐色粘性砂質土層である。

須恵器1～7が出土。1は杯蓋で、ヘラ記号が施されている。3は杯身で、外方へ広がる口縁端部が特徴である。蓋の可能性もある。

#### 12号流路 (SR7012) (第2035図)

松吉地区にて検出。東側微高地南斜面を南流する流路、もしくは落ち込みである。遺構内覆土は5層に分層でき、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はオリーブ黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

須恵器1、2が出土。1は壺である。

### 13号流路 (SR7013)、14号流路 (SR7014) (第2036～2041図)

松吉地区にて検出。東側微高地南斜面を南流する流路もしくは溝状遺構である。SR7013遺構内覆土は4層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘質土層、2層は灰黄色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は暗オリーブ色粘質土層である。SR7014遺構内覆土は5層に分層でき、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層である。

SR7013より須恵器1～5が出土。4は短頸壺で、胴部には刺突文が施されている。5は甕で、頸部にヘラ記号が施されている。SR7014より須恵器1～12、土師器12、13が出土。杯蓋4、5の口縁端部には刻み目が施されている。6は杯身としたが、杯蓋の可能性もある。

### 15号流路 (SR7015) (第2042、2043図)

松吉地区にて検出。東側微高地南斜面を南流する流路である。遺構内覆土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

### 16号流路 (SR7016) (第2044～2046図)

新貝地区にて検出。東側微高地東端部を南東方向に流れる流路である。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層である。

### 1号溝状遺構 (SD7001) (第2047～2049図)

鳥居地区にて検出。西側微高地南東斜面付近にて検出。周辺には大型掘立柱建物が展開する。東西方向に伸びる溝が、西側でほぼ直角に南方向に曲がる。南に延びる溝端部は中世以降の水田による削平により不明である。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層である。掘立柱建物に切られており、SA7014に伴う区画溝ではない。

須恵器1～3、土師器4が出土。

### 2号溝状遺構 (SD7002) (第2050～2053図)

鳥居地区にて検出。西側微高地東端部をほぼ南北方向に直線上に伸びる溝状遺構である。微高地南側水田への灌漑用水路と推定される。遺構内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄色砂質土層である。

遺構検出面の状況からSD7003に後出する。遺構内には、砂岩礫や結晶片岩礫が含まれている。

須恵器1、2、石器1、2が出土。1、2は大型甕である。2は結晶片岩製敲石、3は砂岩製敲石である。流れ込みの可能性が高い。

### 3号溝状遺構 (SD7003) (第2054図)

鳥居地区にて検出。西側微高地南側水田への灌漑用水路と推定される。大坪地区SD7007から分水し、南西方向へのびる。南西端で大きく広がり、水田への水口となる。

#### 4号溝状遺構（SD7004）、5号溝状遺構（SD7005）（第2055図）

鳥居地区にて検出。西側微高地の南側斜面部にて検出。本来はSD7003から西に延びる灌漑用水路と推定され、SD7003に連続する。西端部では南方向へほぼ直角に曲がる。遺構内覆土は2層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。水田への配水にあたっては、遺構南側からの背越しによる方法がとられていたと推定される。SD7007からの灌漑用水範囲西限域を示す遺構である。

#### 6号溝状遺構（SD7006）（第2056図）

鳥居地区にて検出。西側微高地の南側斜面部にて検出。遺構内覆土は2層に分層でき、1、2層ともに褐色粘性砂質土層である。灌漑水路とは推定されるが、給水元等は不明である。

#### 7号溝状遺構（SD7007）（第2057～2070図）

大坪地区にて検出。西側微高地東側斜面部にて検出。弥生時代前期末の灌漑用水路とほぼ同じ箇所に構築されている。大柿遺跡南側の水田域に供給する基幹水路である。L8グリッド付近で東方向へ分水する。西側微高地南東斜面の低地部への灌漑水路と推定される。遺構内には多数の小型柱穴が確認され、杭が打設されていたことがわかる。また、遺構分岐点や遺構幅が広い地点を中心に人頭大の砂岩礫や結晶片岩礫が多数出土しており、護岸機能も想定する必要がある。

ベルト(1)は23層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘質土層、7層は暗灰黄色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層、11層は灰黄色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は灰黄色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色砂質土層、17層は褐色砂質土層土層、18層はにぶい黄褐砂質土層土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層、20層はオリーブ褐色砂層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

ベルト(2)は10層に分層でき、1層は褐色粘質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は灰黄色粘性砂質土層、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層である。

ベルト(3)は14層に分層でき、1層は褐色粘質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は灰黄色粘性砂質土層、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層土層、13層はにぶい黄褐砂質土層土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

ベルト(4)は13層に分層でき、1層は褐色粘質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は灰黄色粘性砂質土層、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層土層、13層はにぶい黄褐砂



質土層土層である。

ベルト(5)は7層に分層でき、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層である。

ベルト(6)は4層に分層でき、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

須恵器1～15、土師器16、17、石器18、19が出土。5は杯身で、口縁端部に打ち欠きが施されている。18は凝灰岩製砥石で、左右両側縁に鉄器刃部による擦痕が観察される。19は砂岩製敲石で、流れ込みの可能性はある。

#### 8号溝状遺構 (SD7008)、9号溝状遺構 (SD7009)、10号溝状遺構 (SD8010)、11号溝状遺構 (SD7011) (第2071～2084図)

大坪地区北側にて検出。SD7007より分岐したものと推定される灌漑用水路。ただし、調査区内では分岐点は確認されていない。西側微高地北東部の水田域へ供給する用水路と推定される。基幹水路であるSD7007に比べて、遺構幅が狭く、深度が浅いのが特徴である。遺構内覆土は7層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層である。

SD7008より須恵器1～9、土師器10、石器11が出土。1は杯蓋であるが、杯身の可能性もある。5は脚付長頸壺の脚台部である。接合箇所を剥離しており、打ち欠きの可能性もある。9は器台である。SD7009より須恵器1～25、土錘26、鉄滓27が出土。1～4は杯蓋であるが、杯身の可能性もある。SD7010より須恵器1～4が出土。SD7011より須恵器1～6、土師器7が出土。

#### 12号溝状遺構 (SD7012) (第2085～2087図)

大坪地区にて検出。給水源は確認されず、SRに向かって掘削されている。また、西側の方が標高が高い事から西側微高地東斜面部 (SD7008～7011により給水された水田域) に展開する水田の排水用水路と推定される。遺構内覆土は8層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

#### 13号溝状遺構 (SD7013) (第2088、2090図)

大坪地区にて検出。西側微高地東斜面部に展開する水田の排水用水路と推定される。SD7012の南側に隣接する。遺構内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。

#### 14号溝状遺構 (SD7014)、15号溝状遺構 (SD7015) (第2091～2105図)

大坪地区にて検出。西側微高地と東側微高地の間を南流するSR上に構築された灌漑用水路である。

横田、馬のシャクリ地区南側に存在が予想される水田域への灌漑水路である。基幹水路は微高地北側逗留する自然流路（現・小川谷川）と推定される。ほぼ南方向へ直進する SD7015は、直進する SD7016と、緩く弧を描きながら南東方向へ向かう SD7014に分岐する。SD7016は SD7007から給水できない地域の水田への灌漑水路である。SD7014は馬のシャクリ地区南側の水田域への灌漑水路である。

遺構内覆土は19層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は暗灰黄色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は灰黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層は灰黄褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黄褐色砂質土層、16層は灰黄褐色砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層はオリーブ褐色砂質土層、19層はオリーブ褐色砂層である。

SD7014と SD7015の分岐点には、自然礫が多数置かれ、周辺には須恵器や鹿角が出土した。特に分岐点(第2094図)では人頭大の結晶片岩礫や砂岩礫に混じって碎片化した須恵器が集中して出土している。水にまつわる祭祀行為が想定される。特に須恵器の出土量が圧倒的に多いのが特徴である。また、赤色顔料塗布した須恵器（2100-1、2105-1）が出土しているのも特徴で、祭祀行為が反映されたものと推定される。

SD7014からは須恵器1～63、土師器64～65、鹿角67、68、石器69、71が出土。1は杯蓋で内面に赤色顔料が塗布されている。鹿角67は角基部で切断されている。68は枝分かかれ部である。SD7015からは須恵器1～12、土師器14が出土。SD7016からは須恵器1～3、土師器4、5が出土。遺物は遺構中央部・最深部付近を中心に出土している。須恵器1は杯蓋で、内面に赤色顔料が塗布されている。

#### 17号溝状遺構（SD7017）（第2106～2108図）

横田地区にて検出。SD7014の延長上に位置する灌漑水路である。遺構内覆土は15層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は暗灰黄色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は灰黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層は灰黄褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黄褐色砂質土層である。

遺構内から須恵器1～21、土師器22～24、石器25、26が出土。

#### 18号溝状遺構（SD7018）（第2109～2110図）

横田地区にて検出。SBを切る状態で検出された。しかし、縄文時代後期流路上に位置し、現在の用水路が調査前に構築されていた箇所でもある。これらの影響によりグライ化したものをSDとして誤認した可能性が高い。出土遺物もサヌカイト製石器である。

#### 19号溝状遺構（SD7019）（第2111図）

カワラケメン地区にて検出。馬の背状微高地を分断するかのよう南北方向に掘削された溝状遺構である。遺構内覆土は褐色粘性砂質土層である。遺構内より須恵器1～7が出土。

#### 20号溝状遺構 (SD7020) (第2112～2114図)

カワラケメン地区にて検出。馬の背状微高地を分断するかのよう南北方向に掘削された溝状遺構である。遺構内覆土は褐色粘性砂質土層である。須恵器1～5が出土。

#### 21号溝状遺構 (SD7021) (第2115図)

馬のシャクリ地区にて検出。東側微高地西側部分に東西方向に掘削された溝状遺構である。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。

#### 22号溝状遺構 (SD7022) (第2116図)

松吉地区にて検出。東側微高地最高箇所を東西方向に掘削された溝状遺構である。遺構内覆土は3層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。

#### 23号溝状遺構 (SD7023) (第2117図)

松吉地区にて検出。南北方向に伸びる溝が、東側微高地南東斜面部で、ほぼ直角に東向きを変えて延びる。遺構内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

#### 24号溝状遺構 (SD7024) (第2118図)

新貝地区にて検出。東側微高地東側斜面部を、東西方向に直線上に掘削された溝状遺構。SD7023より連続する。遺構内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

須恵器1、2、土師器3が出土。

#### 25号溝状遺構 (SD7025) (第2119図)

新貝地区にて検出。遺構内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層である。須恵器1が出土。

#### 26号溝状遺構 (SD7026) (第2120図)

新貝地区にて検出。南北方向に伸びる溝であるが、その性格は不明である。鉄滓1が出土。

## ⑧水田遺構

### 1号水田遺構（SI7001）、2号水田遺構（SI7002）（第2121～2182図）

水田遺構（SI）は、鳥井地区と大坪地区に展開する西側微高地南側斜面部を中心に検出された。鳥井地区における水田遺構（SI7001）は、主にNライン以南に展開している。これらの地域は西側微高地南側斜面～吉野川後背湿地に相当する。一方、大坪地区における水田遺構（SI7002）は、斜面部では主にNライン以南、6ライン以西に展開している。微高地内でも比較的高所に該当する箇所（Nライン以北）では11ライン以東～6ライン以西の間に展開している。ただし、当該地は古代以降の水田遺構面と標高差（遺構検出標高差）がほとんどなく、検出された遺構がすべてSI7002に属するものかは判別が困難である。

これらSI7001、7002が展開する地域はSI8001第3段階水田とほぼ重なる。SI8001第3段階以降、中世段階まで連続して水田が営まれる地域である。

鳥井地区における水田は、SD7007から給水を受ける微高地南側に展開する水田である。比高差が少なくなりSI8001第3段階水田のような「棚田」を呈することはない。水田検出最高地点N3グリット付近（水口）と、水田検出最低地点H3グリット付近の比高差は約70cm程度である。平均傾斜率は1／4.3となり、緩傾斜面に展開する水田となる。水田区画も大きくなり、最大で35×15m、最小で10×7mとなる。水口に近い比較的高所に展開する水田は小区画であるが、比高差が少ないLライン以南は大区画となる。

大坪地区における水田は、SD7007から給水を受ける微高地南側に展開する水田と、SD7008～7011から給水を受ける微高地東側緩斜面部に展開する水田に分けることができる。両者の比高差は約1m強を測り、明瞭な段差を有する。しかし、灌漑水路単位ではほとんど比高差を有しない。また、山段階ならば水田が営まれた斜面部では、当該期は営まれていない。南側に展開する水田では、水田区画は大型となり15×10m程度の区画が連続する。一方、東側緩斜面部に展開する水田では区画は不明瞭である。これは、古代以降の水田耕作により削平を受けたものと推定される。

今回の発掘調査対象地外ではあるが、SD7016が南へ延びることから大坪地区Eライン以南にも水田が展開すると推定される。またSD7017が東へ延びることから、横田地区や馬のシャクリ地区南側の後背湿地や斜面部にも水田は展開したものと推定される。

当該期の水田は、古墳時代後期に属するものと推定され、経営母体は東西両微高地に展開する集落と推定される。また、東側微高地への集落域拡大に伴い水田域も拡大したと推定される。

## ⑨焼成遺構

### 1号焼成遺構（SH7001）（第2183図）

カワラケメン地区、H13グリットにて検出。平面形態は楕円形、底面形態は楕円形、断面形態は逆台形を呈する土坑。長軸は112.5cm、短軸は77.5cm、深度は22.5cmを測る。北西側隅に帯状に延びる落ち込みが伴う。遺構内覆土は17層に分層できるが、焼土層と炭化物層の互層である。

遺構内より土師器1、製塩土器2が出土。

竪穴住居床面から検出された遺構であり、本来竈基底部もしくは竪穴住居に伴う炉であった可能性がある。竪穴住居拡張もしくは切り合いに伴い、上部遺構が削平された可能性を想定する必要がある。

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	おおがきいせき に							
書名	大柿遺跡 II							
副書名	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	24							
シリーズ名	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	48							
編著者名	栗林誠治・植地岳彦・氏家敏之・折野佳子・門 理恵((株)ズコーシャ総合科学研究所)・白石 純(岡山理科大学)・四宮玲子・菅原康夫・田川 憲・新居照代・藤川智之・長田正宏((株)ズコーシャ総合科学研究所)・中野益男(帯広畜産大学生物資源科学科)・中野寛子((株)ズコーシャ総合科学研究所)・村川義行(和鋼博物館)・藁科哲夫(京都大学原子炉実験所)・(株)古環境研究所							
編集機関	財団法人 徳島県埋蔵文化財センター							
所在地	〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86-2 TEL088-672-4545							
発行年月日	西暦2004年3月27日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市 町 村	遺跡番号					
おおがき 大柿	とくしまけん 徳島県三 よしぐん 好郡三好 ちようひる 町昼間字 カワラケ ほか メン他	36482		34°02'00"	134°52'00"	1996年4月 3日～1998 年3月31日	(表面積) 53,012㎡	四国縦貫 自動車道 建設に伴 う埋蔵文 化財発掘 調査
所収遺跡	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
大柿	集落 生産	古墳時代	掘立柱建 物	138棟	土師器、須恵器、鉄 製品、鍛冶関連遺 物、製塩土器		古墳時代後期の竪穴 住居跡から良好な一 括資料が出土。古墳 時代後期に属する鍛 冶工房が確認。	
			竪穴式住 居	186軒				
			土坑	850基				
			水田、溝 状遺構、 自然流路					

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第48集

四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 24

大柿遺跡Ⅱ

(第1分冊 本文編)

発行日 平成16年3月27日

編集 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86-2  
TEL (088) 672-4545  
FAX (088) 672-4550

発行 徳島県教育委員会  
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
日本道路公団

印刷 徳島県教育印刷株式会社